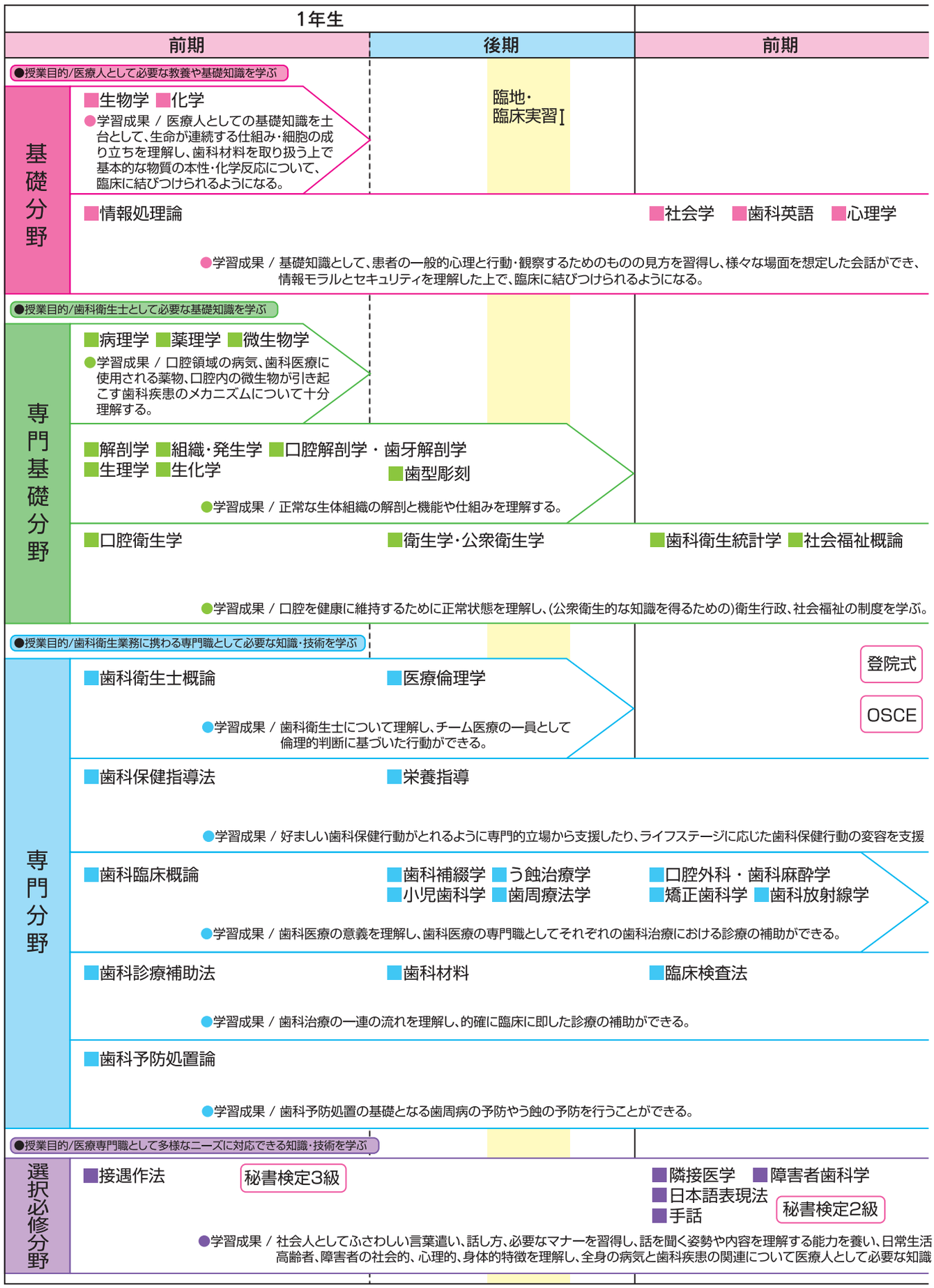
SYLLABUS

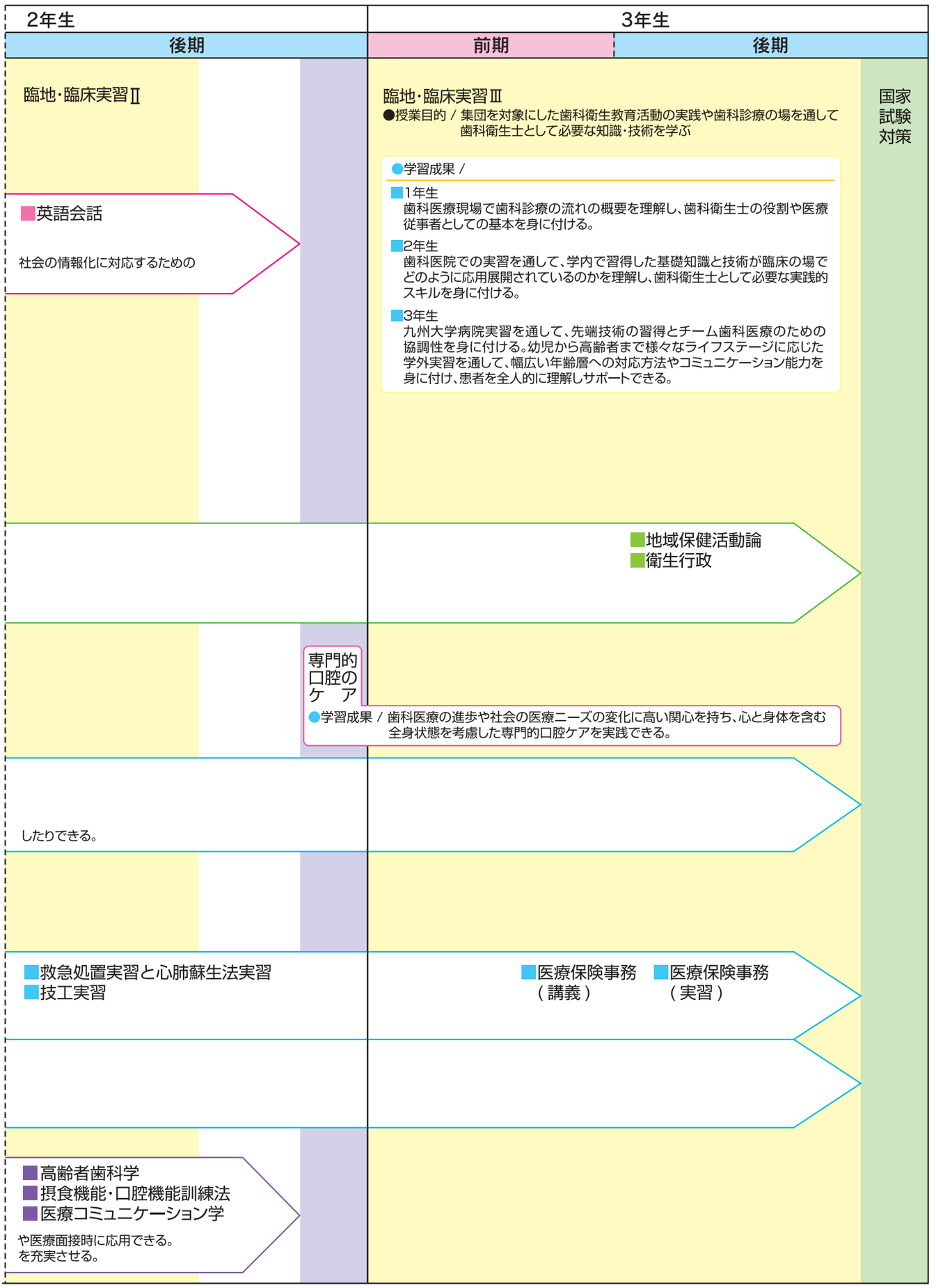
令和５年度
（2023年）

歯科衛生士科

学校法人博多学園
博多メディカル専門学校

博多メディカル専門学校 歯科衛生士科 カリキュラムマップ




2年生
後期
3年生
前期
後期
国家試験対策
臨地・臨床実習Ⅱ
臨地・臨床実習Ⅲ
●授業目的 / 集団を対象にした歯科衛生教育活動の実践や歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識・技術を学ぶ
●学習成果 /
■1年生
歯科医療現場で歯科診療の流れの概要を理解し、歯科衛生士の役割や医療従事者としての基本を身に付ける。
■2年生
歯科医院での実習を通して、学内で習得した基礎知識と技術が臨床の場でどのように応用展開されているのかを理解し、歯科衛生士として必要な実践的スキルを身に付ける。
■3年生
九州大学病院実習を通して、先端技術の習得とチーム歯科医療のための協調性を身に付ける。幼児から高齢者まで様々なライフステージに応じた学外実習を通して、幅広い年齢層への対応方法やコミュニケーション能力を身に付け、患者を全人的に理解しサポートできる。
■英語会話
社会の情報化に対応するための
■地域保健活動論
■衛生行政
専門的口腔のケア
●学習成果 / 歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち、心と身体を含む全身状態を考慮した専門的口腔ケアを実践できる。
したりできる。
■救急処置実習と心肺蘇生法実習
■技工実習
■医療保険事務（講義）
■医療保険事務（実習）
■高齢者歯科学
■摂食機能・口腔機能訓練法
■医療コミュニケーション学
や医療面接時に応用できる。
を充実させる。

専門学校 三つのポリシー

1．アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

博多メディカル専門学校の求める学生は、本校の建学の理念に共感し、自ら考え行動しようとする目的意識の高い人物です。具体的には次のような人を広く受け入れます。

・自律した生活を確立し、医療人として地域社会に貢献したいという高い志を持つ人
・自らの可能性を信じ、忍耐強く努力でき、夢を実現しようとする人
・穏やかで協調性に富み、仲間と共に新しいことに挑戦しようとする人
・感謝の「ありがとう」が素直に表出できる人

2．カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

博多メディカル専門学校は、博多学園の建学の理念に基づき、心豊かな人間性と高い専門性を身につけた医療専門職を養成するために、以下の基本方針に基づき教育課程を編成します。

＜歯科衛生士科＞

1）人間性豊かで協調性や向上心、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた歯科衛生士を養成するカリキュラムを編成します。
2）歯科衛生士教育のモデル・コア・カリキュラムに基づき、歯科衛生士として必要な知識と技術習得のため、講義と実習を相互に関連づけた実践的な科目を設置します。
3）知識・技術の習得段階に沿った臨床実習やライフステージごとの豊富な臨地実習を設定し、歯科衛生士として多種多様な場面で幅広い年齢層へ対応できる能力を獲得します。
4）国家試験への備えとして、年次毎に弱点や傾向を分析した万全な対策を講じます。

3．ディプロマポリシー（卒業認定・専門士授与に関する方針）

本校の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得し、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、専門士の称号を与えます。

・専門領域における高度な専門知識と技術態度を修得し社会の発展のために寄与できる力
・医療チームの一員として、メンバー同士の協働、連携を促進するコミュニケーション力
・目的意識を常に持ち、問題を前向きに解決しようとする力
・医療人になろうとする向上心と優しさと思いやりにあふれた人間力

学生３つの目標

1．自分の夢に向かって努力する人になります。
2．お世話になった方に感謝できる人になります。
3．徳性豊かな社会人になります。

教育課程及び授業内容

1. 教育課程

学科目			講義・実習の別	単位数	学校単位数	科目単位数	第1学年	第2学年	第3学年	総時間数	※単位数	項
基礎分野	科学的思考の基盤	生物学	講義	10	11	2	30			30		3
		化学	講義			2	30			30		4
	人間と社会生活の理解	心理学	講義			2		30		30		5
		社会学	講義			2	30			30		6
		英語会話	講義・演習			1		30		30		7
		歯科英語	講義・演習			1		30		30		8
		情報処理論	講義・実習			1	40			40		9
専門基礎分野	人体・口腔・歯の構造と機能	解剖学	講義	9	11	2	30			30		11
		組織・発生学	講義			2	30			30		12
		口腔解剖学・歯牙解剖学	講義			2	45			45		13
		※歯型彫刻	実習			1	30			30	1	14
		生理学	講義			2	30			30		16
		生化学	講義			2	30			30		17
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	講義	6	6	2	30			30		18
		薬理学	講義			2	30			30		19
		微生物学	講義			2	30			30		21
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学	講義	7	9	3	50			50		22
		歯科衛生統計	講義・演習			1		30		30		23
		衛生学・公衆衛生学	講義			2	30			30		24
		地域保健活動論	講義			1			15	15		25
		衛生行政	講義			1			15	15		26
		社会福祉概論	講義			1		15		15		27
専門分野	歯科衛生士概論	※歯科衛生士概論	講義	2	2	1	20			20	1	29
		医療倫理学	講義			1	15			15		30
	臨床歯科医学	歯科臨床概論	講義	8	14	1	15			15		31
		う蝕治療学	講義・演習			2	20	20		40		32
		歯周療法学	講義			2	30			30		33
		歯科補綴学	講義			2	30			30		34
		口腔外科・歯科麻酔学	講義			2		30		30		35
		小児歯科学	講義			2	30			30		36
		矯正歯科学	講義			2		30		30		37
		歯科放射線学	講義・実習			1		30		30		38
	歯科予防処置論	※歯科予防処置論	実習	8	8	8	200	80	40	320	8	39
	歯科保健指導論	栄養指導	講義・演習	7	8	2	45			45		48
		※歯科保健指導法	実習			6	80	120	40	240	6	49
	歯科診療補助論	歯科材料	講義	9	11	1	20			20		57
		臨床検査法	講義・実習			1		45		45		58
		救急処置実習と心肺蘇生法実習	講義・実習			1		35		35		59
		医療保険事務	講義・演習			1			30	30		60
		※技工実習	実習			1		30		30	1	61
		※歯科診療補助法	講義・実習			6	120	80	40	240	6	62
	臨地・臨床実習	臨地・臨床実習	実習	20	20	20	45	180	675	900		70
選択必修分野		日本語表現法	講義・演習	7	10	1		30		30		71
		障害者歯科学	講義			1		15		15		72
		高齢者歯科学	講義			2		30		30		73
		隣接医学	講義			2		30		30		74
		摂食機能・口腔機能訓練法	講義・演習			1		30		30		75
		医療コミュニケーション学	講義・演習			1		30		30		76
		接遇作法	講義・演習			1	30			30		77
		手話	講義・演習			1		30		30		78
合計				93	110	110	1,195	1,010	855	3,060	23	
実務経験のある教員による科目の単位(割合含)・時間数							450	310	120	880		

※印は実務経験のある教員による科目　単位計　23単位
※印の単位数は、指導ガイドライン上の単位数93単位の24.7％(23/93)

2. 授業内容

学科目名	生物学

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

人間の体の成り立ち、仕組み、働きを探求する生命科学のさまざまな分野へ知識を発展させるために、生物学では生命とは何か、地球上の生命はいかにして誕生したか、生命をつくる細胞の成り立ちと活動、生命が連続する仕組み、生命が環境の変化に合わせて生活する仕組みについて学ぶ。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『生物学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　久保井 稔

回	授業項目	授　業　内　容
1	Ⅰ編　生命　生命とは何か	①生物には特徴がある　②生命をつくる物質
2	生命の誕生	①原始地球　②化学進化と有機物の起源　③原始細胞
3	生命の変遷	①単細胞の生命体　②核と細胞小器官の起源 ③単細胞が集合して多細胞生物をつくった ④生命は進化して多様な生物を生み出した
4	Ⅱ編　組織と細胞 生命は細胞からできている	①細胞をつくる物質　②生命の単位・細胞
5	生命は細胞からできている	③細胞内には細胞小器官がある　④細胞のさまざまな活動
6	細胞の一生と個体の成り立ち	①細胞の一生　②単細胞生物と多細胞生物
7	細胞の一生と個体の成り立ち	③ヒトの組織は大きく分けて４種類ある　④ヒトの器官
8	Ⅲ編　生命の連続 生殖によって子孫をつくる遺伝と遺伝子	①生殖の方法　②減数分裂
9	遺伝と遺伝子	①遺伝とその法則　②生命をつくる仕組み
10	遺伝と遺伝子	③遺伝子を働かせる仕組み
11	発生して体をつくる	①発生の過程　②発生の仕組み
12	Ⅳ編　環境と動物の反応 刺激の受容と反応	①動物は感覚器でさまざまな刺激を受容する ②神経系による刺激の伝達 ③中枢神経と末梢神経　④反応と効果器
13	内部環境を保つ仕組み	①多細胞生物の細胞は液体で満たされている ②ホルモンとその働き ③自律神経とホルモンの協調作用　④生体防御
14	動物の行動と進化	①生物はさまざまな行動をする　②ヒトの進化と未来
15	まとめ	まとめ

学科目名	化　学

履修学年	第１学年	時 間 数	30時間
履修時期	前　期	単　　位	２

授業目標

物質の性質、構造、変化について学ぶとともに、人体をはじめとした生体を形成している化学物質に関しての理解を深める。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『化学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　小テスト　受講態度

担 当 者　久保井 稔

回	授業項目	授　業　内　容
1	1章　物質とは何だろう	①－物質の分類　②－物質の構造　③－原子の電子配置
2		④－元素の周期律　⑤－物質量　⑥－化学結合
3	2章　気体について知ろう	①－気体のルール
4		②－空気は何から　③－気体を使う（医療、生活への応用）
5	3章　物質が水に溶けるとは	①－水溶液の濃さの表し方
6		②－希薄水溶液の示す不思議な性質 ③－身のまわりにはコロイドがいっぱい
7		④－酸とアルカリの水溶液
8	4章　酸化とは、還元とは	①－酸化と還元　②－金属のイオン化傾向
9	5章　化学反応では原子の組換えが起こっている	①－化学反応の速さを決めているもの　②－化学平衡って何だろう
10	6章　有機化合物とは何だろう	①－有機化合物の成り立ち ②－有機化合物に名前をつける ③－同じ原子から違った構造が
11		④－有機化合物の反応　⑤－代表的な化合物と性質
12		⑥－高分子化合物
13	7章　ヒトをつくっているものは何だろう	①－水はいたるところに存在する ②－ヒトを形づくる元素 ③－糖質
14		④－アミノ酸とタンパク質　⑤－脂質
15		⑥－核酸と核酸関連物質

学科目名	心理学

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	前 期	単 位	２

授業目標

心理学概論を学び自身や他者を深く理解し人間関係に役立たせる。
さらに臨床の場で患者との円滑な関係づくりにつながることを学ぶ。

教 科 書

参 考 書

評価方法　定期試験　受講態度

担 当 者　北島 茂樹

回	授業項目	授　業　内　容
1	はじめに	将来の医療従事者が「心理学」を学んでおくことの大切さについて理解する。
2	TA（交流）分析①	エリック・バーンの交流分析に示される心の構造について学び、自己理解に向かうことができるようになる。
3	TA（交流）分析②	交流分析における心の構造モデルを対人関係理解の枠組みとして役立て、対人関係改善に向かうことのできる足場づくりができる。
4	精神分析理論①	潜在意識、コンプレックス、トラウマなど精神分析の諸概念を学び、ナイーブな心理理解ができる。
5	精神分析理論②	夢解釈の理論と方法を知る。また、各種の心理療法が比較理解できるようになる。
6	心理相関のメカニズム	情動刺激の影響メカニズムを知ることを通して、人間の心の状態が身体の状態に表現されていることを理解する。
7	パーソナリティ	YG性格検査や樹木テストを実際に実施し、人間の行動・態度には個人差があることを知る。
8	学習と行動①	保健行動ができるようになることは、学び（学習）の過程でもある。ここでは学習の機制について、理解する。
9	学習と行動②	ここでは、セルフガイダンス法など学習の方法について学ぶ。
10	欲求と行動①	行動を始発させる欲求の概念、また動機づけの概念と方法を理解する。
11	欲求と行動②	欲求が充足されないときに生起する適応の機制について理解する。
12	患者の心理と行動	病気という状況におかれる患者の一般的心理と行動について理解する。歯科患者の心理特性を学ぶ。
13	患者への対応	医療従事者が患者の心理とどう向き合ったらよいかについて学ぶ。
14	マイクロ・トレーニング	アレン・アイヴィーのマイクロ・スキルズの考えを学び、医療臨床の場で活用できるようになる。
15	コミュニケーション	コミュニケーションには言語、準言語、非言語の３種類があることを学びコミュニケーション能力の改善に向かうことができる。

学科目名	社会学

履修学年	第１学年	時　間　数	30 時間
履修時期	後　期	単　　位	2

授業目標

高校の授業を担当していると「財政」「法律」「税金」「選挙制度」などの単元において、ほとんどが暗記すべき事項としてのみ理解され、自分の人生と結びつけて考える事ができていないように思う事が多い。多くの知識を持ちながらも、人生に生かせる知識として認識できていないのは残念である。こうした認識にもとづき、高校時代に履修した現代社会や政治経済の復習を兼ねて、「実際に生活に使える知識」として認識し直すことを目的として、授業を進めていきたい。また、少子高齢化のわが国では多くの問題が起きている。今から日本を支えて行くであろう学生達に、どのような問題があり、どのように解決していくのが良いのか考え、生きる力を付けて欲しい。

参 考 書　働くあなたのガイドブック

評価方法　定期試験・受講態度・レポート等の提出状況

担 当 者　中川 峻佑

第１学年

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）
1	生存権と労働三法	日本国憲法第25条・27条・28条について	社会権の基本が生存権である事を踏まえ、25条・27条・28条の条文を理解する	生存権の内容が理解できている。労働三権がどのような権利か言える
2		労働基準法①	この法律ができた目的や背景を学習し総則・主な規定について理解する	この法律が使用者が守るべき最低基準であることが理解できる。賃金についての五原則が言える
3		労働基準法②	年少者・妊産婦・就業規則等の細かな規定を理解する	就業規則については、労働法の89条106条と関連づけて説明できるようになっている。年少者や妊産婦の労働条件や男女雇用機会均等法からも育児休暇など考えられるようになっている
4		労働基準法③	最低賃金法によって労働者の権利が守られている事や地域や職種によって違いがある事を理解する	将来勤務するであろう職場の賃金や就業時間など求人票を見た時に職場の労働条件が理解できている
5		労働基準法④（退職と解雇・セクハラ・パワハラ）	会社を辞める時、辞めさせられる時の条件について理解するまた現代の企業には多くのハラスメントがあることやその対処方法について理解する	仮に自分がやむを得ない理由で退職しないといけない時常識的な対応ができるようになっている。またハラスメントを受けた時の相談や対処方法が理解できている
6		労働組合法	労働組合の歴史と紛争を学習し現代の組合組織率や役割について理解する	労働三権について、言える。争議行為についてはどのような方法があるのか理解できる。使用者の不当労働行為があったときには毅然とした態度がとれる
7		労働関係調整法	この法律ができた目的や背景を理解する。また争議解決に必要な事柄について学習する	争議解決のための3つの方法や争議行為がおさまらないときの対応・国の機関についても言えるようになる。またショップ制度について学習することにより課題に関しても理解できるようになる
8	社会保障制度について	日本の社会保障制度のしくみ	社会保障制度の4つの柱を理解すると共にどのような制度があるのか学習する	社会保障の4つの柱が言える。国民皆保険の意味がわかる。自分達が働くようになった時どのような保険料を支払うのかわかる
9		高齢化と福祉国家の役割	高齢化にともなっての現制度と問題点や今後の課題について理解する	弱い立場の人々に対してどのような考え方や制度があるのか言えるようになる。またどのような体制づくりが望ましいのか自分の意見が言えるようになる
10	消費者問題と企業の社会的責任	消費者の権利・悪徳商法	飽食の時代と言われる現代、企業の社会的責任とは何かを考え、悪徳商法とは何かを理解する	消費者の4つの権利が言えるようになる。悪徳商法とはどういうことかを理解でき、3つ以上種類を挙げれることができる
11	財政と租税	歳入の構成と租税の種類	財政とは何かを学習し、それを支えている租税について理解する	歳入の内訳を理解でき、租税の種類を直接税・間接税別に言えることができる
12		歳出の構成と今後の課題	歳出の増加理由を考え、わが国がかかえている問題を理解させる	歳出の内訳が理解でき、社会保障費が占める割合が年々増加している理由がしっかりと言える。また近年の社会保障の問題点が2つ以上言える
13	国民主権としての参政権（国政）	議会制民主主義・国会	国会の仕事を理解し、2院制度の特徴について学習する事で現代の日本の課題を考える	国会というわりと複雑そうに思える仕組みが簡単に思えるようになる。衆議院と参議院の違いが議員数や任期なども含めて言えるようになる
14		選挙の原則と仕組み・選挙制度の問題点	選挙の原則、衆議院と参議院の選挙制度の違いを理解する。わが国の選挙制度の問題店を理解する	小選挙区比例代表並立制や拘束名簿式など聞き慣れない専門用がわかる。また復活当選のしくみがわかる。選挙に行こうと思う気持ちが高まる
15	後期期末試験	試験内容はすべての項目から出題予定	平均点70点以上を取れるくらい理解できている	生活に使える知識が身についている。選挙には積極的に行くことができる。生きる力が身についている

学科目名	英語会話

履修学年	第２学年	時 間 数	30 時間
履修時期	後 期	単 位	1

授業目標

国際化する社会において、外国人患者に分かり易く歯科治療の説明をし、また歯の健康について相談に応じることのできるように、いろいろな場面を考え、実際の現場でも役立つ英会話を身につける。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯科英語』医歯薬出版

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　篠﨑 まゆみ

回	授業項目	授　業　内　容
1	Part 1 English Conversation for Dental Hygienists	①Making an Appointment by Telephone
2		②Requests for Medicine
3		③Emergency Appointments
4		④National Health Insurance
5		⑤Asking the Patient to Describe Symptoms
6		⑥Asking the Medical History
7		⑦Periodontal Disease
8		⑧Pregnancy
9		⑨Why Do I Need a Cleaning?
10		⑩Informed Consent
11		⑪Sealant
12		⑫Fluoride Treatment
13		⑬Tooth Brushing Instructions for a Child
14		⑭Tooth Brushing Instructions for an Adult
15		⑮Postoperative Instructions to the Patient

学科目名	歯科英語

履修学年	第２学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

歯科衛生士に必須の用語（基礎知識）を学ぶと共に、診療所内での患者、スタッフ間の英会話を身につける。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯科英語』医歯薬出版

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　篠崎 まゆみ

回	授業項目	授　業　内　容
1	Part２ Important Vocabulary for Dental Hygienists	①歯科医療に携わる者
2		②歯科学
3		③検査
4		④痛みの種類
5		⑤全身疾患
6		⑥歯科疾患
7		⑦歯科治療
8		⑧歯の名称
9		⑨部位の名称
10		⑩口腔解剖用語
11		⑪人体各部位
12		⑫歯科用頻出単語
13		⑬患者さん向けの単語
14		⑭子供向けの単語
15	Part３ 歯科衛生士の仕事とは	海外で活躍する歯科衛生士

学科目名	情報処理論

履修学年	第１学年	時 間 数	40 時間
履修時期	前・後期	単　　位	1

授業目標

・歯科医療現場の情報化に対応するため、コンピュータの基礎的な知識、ネットワークの仕組み、それらを活用するための情報モラルとセキュリティについて学ぶ
・パーソナルコンピュータを利用した実技演習を行い、文章・表計算・プレゼンテーションの作成技術を習得する
・課題制作においてテーマ選定から発表に至るまでの必要な作業をグループワークにて行い、コミュニケーション能力の向上を図る

教 科 書　『30時間アカデミック情報リテラシー Office 2016』実教出版
評価方法　試験　実技課題　出席状況・受講態度
担 当 者　永井 隆太

講義

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）
1	コンピュータ知識とネットワーク	コンピュータの基礎 ・業務における情報化 ・学内コンピュータの使用方法 ・コンピュータの仕組みと性能	・業務におけるコンピュータの必要性を理解する ・学内のPCの起動から終了までの一連の操作を習得する ・コンピュータに関する基本的知識を修得する	・業務のおけるコンピュータ業務を具体的に述べる ・学内のPC起動、データ作成、保存、終了において必要な手順を実施する ・コンピュータの性能を決める3つの要素を列挙する
2	試験（コンピュータ知識とネットワーク）	確認テスト		
3	情報モラルと情報セキュリティ	情報モラルとセキュリティについて ・医療従事者における必要性 ・情報漏洩の原因や対策	学内外で情報セキュリティやモラルを意識したネットワーク利用手段・モラルを身に付ける	・ネットワーク利用における情報リスクを類別する ・ネットワーク利用におけて情報セキュリティを配慮する ・医療従事者としての情報漏洩リスクを意識し、ネットワークを使用する
4	試験（情報モラルと情報セキュリティ）	確認テスト		

実習

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）
5	Word①演習 文章の作成	文章作成実習① ・基本文章の入力 ・左右、中央揃えによる文章変更 ・文字フォントの変更 ・インデントの変更	PCを使った簡単な文書作成方法を修得する	・文章作成に必要なワード機能を選択する ・授業で得られた知識を使って、与えられた課題に参加する ・教科書の記載されている機能を工夫し、課題文章に応用する
6	Word①演習 文章の作成	文章作成実習① ・図形の挿入 ・ページ罫線の追加 ・ワードアートの挿入 ・すかしの追加 ・ページの追加 ・改ページの追加		
7	Word③演習 文章の作成	文章作成実習② ・応用文章の入力 ・記号の入力 ・左右、中央揃えによる文章変更 ・課題に合わせた文字フォントの変更 ・分かり易いインデントの変更	PCを使った実用的な文書作成方法を修得する	・文章作成に必要なワード機能を選択する ・授業で得られた知識を使って、与えられた課題に参加する ・教科書の記載されている機能を工夫、課題文章に応用する ・文章全体を良く考えて、ページデザインに配慮する
8	Word④演習 ページデザイン	文章作成実習② ・図形、写真の加工と挿入 ・表の作成		
9	Word⑤課題 課題提出	指定文章の作成	Wordを用いて指定フォーマットへの入力作業を修得する	与えられた文章のフォーマットを用いて、文章を記述する

実習

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)
10	Excel①演習 Bookの作成	表作成実習① ・基本機能の修得 ・データの入力 ・連続データの入力 ・数式の入力、 数式のコピー ・図の挿入	Excelの基本操作を修得する	・表を分かり易く表現する ・表計算の機能を理解し、提示したプリントを模倣する
11	Excel②演習 表の作成	表作成実習② ・セルの意味と計算 ・合計関数、平均関数の 使い方 ・セルの塗りつぶし、 罫線の引き方	Excelの表を用いた各種計算や表のデザインの基本操作を修得する	・エクセルのセルの意味を理解し、セルを用いた計算に応用する ・作成する表が使用される状況を考慮し、そのデザインを分かり易く表現する ・セルの絶対参照、相互参照を理解し、表計算を工夫する
12	Excel③演習 関数	表作成実習③ ・絶対参照と相対参照 ・データバーの使い方 ・アイコンセットの使い方 ・条件付き書式設定		
13	Excel④演習 グラフ作成と 他のソフトとの 連携	応用実習 ・データバーの使い方 ・アイコンセットの使い方 ・エクセルデータの活用 (ワード文章への応用)	Excel用いたデザインを 修得する	・エクセルの表やグラフを他の文章に応用する ・作成する表やグラフを分かり易く表現する
14	PowerPoint ①演習 基礎操作	スライド作成実習① ・プレゼンテーションソフト の説明 ・アニメーション効果の説明 ・発表テーマの検討	パワーポイントの使い方の基礎を修得する	・発表スライドを聞く対象に合わせて工夫する ・グループ内で発表テーマについて討議する
15	PowerPoint ②演習 発表スライドの 作成	スライド作成実習② ・提出されたスライドの担当 教員からのフィードバック ・発表スライドにおける 表現の工夫	パワーポイントを用いて与えられたテーマのスライド作成を修得する	・与えられたテーマから自分の担当スライドを選択し、 パワーポイントを用いて、表現する ・各グループ内でコミュニケーションを良好に行い、 目的達成の為の意識をもつ ・教科書の記載されている機能や、教員からの助言を 参考にしスライドを工夫する
16	PowerPoint ③演習 発表スライドの 作成	スライド作成実習③ 各学生が作成したスライドを各グループで全体構成を意識し、1つのスライドにとりまとめる		
17	PowerPoint ④演習 発表スライドの 作成	発表テーマのスライド 作成④ ・提出されたスライドへの フィードバック ・各学生が作成したスライドを各グループで全体構成を意識し、とりまとめて完成させる	・パワーポイントを用いて与えられたテーマのスライド作成を修得する ・口頭発表の原稿が作成できる	・グループの発表テーマに合わせたスライドを修正し、 分かり易く表現する ・各グループ内でコミュニケーションを良好に行い、 役割分担を意識して作業に取り組む ・教科書の記載されている機能や、教員からの助言を 参考にしスライドを作成する
18	発表準備	発表準備 ・発表原稿の作成 ・発表練習		
19	課題発表	発表会運営 座長、タイムキーパーを学生主体で行い発表会の運営を行う	パワーポイントを用いて口頭発表ができる	・各グループ内でコミュニケーションを良好に行い、 役割分担を意識して発表に取り組む ・限られた時間内でスライドを分かり易く説明する ・クラス単位での発表会の運営を教員の補助のもと 実施する
20				

学科目名	解剖学

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

人体の形態と構造を学び、歯科医療に携わる歯科衛生士としての基礎的な学力を身につける。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1『解剖学･組織発生学･生理学』 医歯薬出版

参 考 書　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編

評価方法　定期試験　小テスト　出席状況　受講態度

担 当 者　長谷川 佳那

回	授業項目	授業内容
1	人体の構造と機能1 序章 解剖学で学ぶこと･生理学で学ぶこと	①人体の構造と機能を学ぶにあたって
2	人体の構造と機能1 Ⅱ編 構造と機能　1章　骨格系	①概説　②骨の発生　③頭蓋骨　④体幹骨
3	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　2章　筋と運動	①概説　②体の各部位の筋系
4	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　2章　筋と運動	③運動　④筋電図
5	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　2章　骨格系	⑤上肢骨　⑥下肢骨
6	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　3章　消化･吸収	①消化と吸収の意義　②消化器の構造
7	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　3章　消化･吸収	③口腔での消化　④胃の機能　⑤小腸の機能　⑥大腸の機能
8	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　4章　循環	①脈管系の概要　②血管の構造　③血管の機能　④血液　⑤心臓
9	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　4章　循環	⑥動脈系　⑦静脈系　⑧胎児の循環系　⑨リンパ系
10	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　5章　神経系	①神経系の概要　②神経系の構成　③中枢神経系　④脳脊髄膜 ⑤脳の血管　⑥末梢神経系　⑦神経の主な伝導路
11	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　6章　呼吸	①呼吸　②呼吸器の構成　③胸郭の構成と換気の仕組み　④排気量と換気量 ⑤肺胞および組織におけるガス交換　⑥血液中のO_2とCO_2の運搬
12	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　7章　感覚	①感覚の基本的性質　②体性･内臓感覚　③外皮 ④特殊感覚器の構造と機能
13	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　8章　排泄	①排泄とは　②排便　③皮膚からの排泄(発汗)　④排尿
14	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能 10章　内分泌	①内分泌器官とホルモン　②内分泌器官の構造と機能 ③その他のホルモン　④歯とホルモン
15	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能 11章　生殖	①生殖器　②性周期　③受精と妊娠　④分娩と乳汁分泌

学科目名	組織・発生学

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

体を構造する細胞・組織について学ぶ。また、受精から出生までのヒトの発生における機構について理解する。

特に歯と歯周組織の組織・発生については十分に理解を深める。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能1『解剖学･組織発生学･生理学』　医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の構造と機能『口腔解剖学･口腔組織発生学･口腔生理学』　医歯薬出版

参 考 書　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編

評価方法　定期試験　小テスト　出席状況　受講態度

担 当 者　藤井 慎介　長野 良子　仲子 勇祐

回	授業項目	授業内容
1	人体の構造と機能1 I編　組織と発生 1章　細胞と組織	②組織
2	人体の構造と機能1 I編　組織と発生 2章　発生	①染色体と減数分裂　②精子と卵子の発生　③受精と着床
3	人体の構造と機能1 I編　組織と発生 2章　発生	④胚葉の形成　⑤胎児の成長と発育
4	人体の構造と機能1 II編　構造と機能 7章　感覚	③外皮
5	歯･口腔の構造と機能 I編　顎･口腔の構造と機能 1章　顔面と口腔の発生	①鰓弓の形成　②顔面と口唇の形成　③口蓋と鼻腔の形成
6	歯･口腔の構造と機能 I編　顎･口腔の構造と機能 1章　顔面と口腔の発生	④舌の形成　⑤腺の形成
7	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 2章　歯と歯周組織の発生	①先行歯の発生　②代生歯および加生歯の発生
8	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 2章　歯と歯周組織の発生	③歯の萌出　④歯の脱落と交換　⑤歯の萌出の臨床的考察
9	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 3章　歯および歯周組織の構造と機能	①エナメル質
10	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 3章　歯および歯周組織の構造と機能	②象牙質･歯髄複合体　1.象牙質･歯髄複合体の概要 2.象牙質･歯髄複合体の機能　3.象牙質の構造
11	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 3章　歯および歯周組織の構造と機能	②象牙質･歯髄複合体 4.歯髄の構造　5.象牙質･歯髄複合体の加齢変化
12	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 3章　歯および歯周組織の構造と機能	③セメント質　④歯根膜
13	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 3章　歯および歯周組織の構造と機能	⑤歯槽骨　⑥歯肉
14	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 3章　歯および歯周組織の構造と機能	⑦歯周組織の生理　⑧口腔粘膜
15	全体のまとめ	まとめ

学科目名	口腔解剖学・歯牙解剖学

履修学年	第１学年	時 間 数	45 時間
履修時期	前・後期	単　　位	2

授業目標

口腔に関する解剖学的基礎知識と機能を学習する。また、歯種の形態の特徴をその機能と関連づけて理解させる

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1『解剖学･組織発生学･生理学』 医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の構造と機能『口腔解剖学･口腔組織発生学･口腔生理学』 医歯薬出版

参 考 書　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　清島　保　藤井 慎介　長谷川 佳那

回	授業項目	授業内容
1	歯･口腔の構造と機能 I編　顎･口腔の構造と機能 2章　口腔付近の解剖学	①口腔とは
2		②口腔を構成する骨　1. 頭蓋の概要
3		②口腔を構成する骨　2. 口腔を構成する骨
4		③頭頸部の筋と作用　1. 顔面筋（表情筋）　2. 咀嚼筋
5		③頭頸部の筋と作用　3. 舌筋　4. 頸部の筋 5. 顎下三角とオトガイ下三角　6. 翼突下顎隙と翼突下顎縫線
6		④顎関節
7		⑤口腔付近に分布する脈管系　1. 動脈系
8		⑤口腔付近に分布する脈管系　2. 静脈系　3. リンパ系
9		⑥神経　1. 脳神経
10		⑥神経　2. 頭頸部に分布する脊髄神経　3. 自律神経
11	歯･口腔の構造と機能 I編　顎･口腔の構造と機能 5章　咬合と咀嚼･吸啜	①下顎位　②下顎の運動
12		③顎反射　④摂食行動
13		⑤咀嚼能力　⑥吸啜
14	歯･口腔の構造と機能　I編 顎･口腔の構造と機能　8章 唾液	①唾液腺　②唾液の性状･成分と機能　③唾液と疾患
15	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 1章　歯の形態	①はじめに
16		②永久歯（1）
17		②永久歯（2）
18	歯･口腔の構造と機能　II編　歯および歯周組織の構造と機能　1章　歯の形態	②永久歯（3）
19	歯･口腔の構造と機能 II編　歯および歯周組織の構造と機能 1章　歯の形態	③乳歯（1）
20		③乳歯（2）
21	歯･口腔の構造と機能　II編　歯および歯周組織の構造と機能　2章　歯の形態	④特色のある歯の形態
22	歯･口腔の構造と機能　II編　歯および歯周組織の構造と機能　3章　歯の形態	⑤歯列と咬合
23	全体のまとめ	まとめ

学科目名	歯型彫刻

実務経験のある教員による科目
※詳細はP.79教員一覧に記載

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	後 期	単 位	1

授業目標　歯牙のデッサンと彫刻を通して、歯牙固有の形態、名称を理解する。
教 科 書　歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1『解剖学・組織発生学・口腔解剖学』医歯薬出版
参 考 書　配布プリント
評価方法　実習状況及び提出物の総合評価
担 当 者　松山 大樹
必要な器具　（学生が準備するもの）鉛筆（HB、B、2B）・彫刻刀・定規（30cmと15cm）・消しゴム

実習における注意事項

（１）授業時間が限られていますので、授業の妨げとなる私語や居眠りに注意しましょう
（２）彫刻刀を使う実習では、まず第一に怪我をしないように注意しましょう
（３）実習の説明を理解するために、しっかりメモを取り、そして聞きましょう
（４）実習中に出るゴミを、できるだけ散らかさないように、気を付けましょう
（５）実習物は、提出後に採点の対象となりますので、作品を汚さないようにしましょう

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）
1 2	講　義	Ⅱ編 歯および歯周組織の構造と機能 1章　歯の形態 ①はじめに ②永久歯（上下顎切歯）	口腔に関する解剖学的基礎知識を理解するために、歯種の形態および特徴に関する知識を習得する	①歯の機能について説明する ②歯の表示・記号について説明する ③歯の用語について説明する ④歯種を鑑別する ⑤切歯の基本的形態を説明する ⑥切歯にみられる各名称を説明する ⑦上下顎切歯の相違について説明する
3 4	デッサン	デッサン（上顎中切歯） (1)外形 (2)陰影	上顎中切歯の特徴を理解するために、デッサンを通して歯種の形態および特徴を理解する	①見本を見て歯の最外形を描く ②切縁の位置が歯のどこにあるか説明する ③豊隆の位置が歯のどこにあるか説明する ④歯頸線の位置が歯のどこにあるか説明する
5	講　義	1章　歯の形態 ②永久歯（上下顎犬歯）	口腔に関する解剖学的基礎知識を理解するために、歯種の形態および特徴に関する知識を習得する	①犬歯の基本的特徴を説明する ②犬歯にみられる各名称を説明する ③上下顎犬歯の相違について説明する
6	デッサン	デッサン（上顎犬歯） (1)外形	上顎犬歯の特徴を理解するために、デッサンを通して歯種の形態および特徴を理解する	①見本を見て歯の最外形を描く ②切縁の位置が歯のどこにあるか説明する ③豊隆の位置が歯のどこにあるか説明する ④歯頸線の位置が歯のどこにあるか説明する
7	講　義	1章　歯の形態 ②永久歯（上下顎小臼歯）	口腔に関する解剖学的基礎知識を理解するために、歯種の形態および特徴に関する知識を習得する	①小臼歯の基本的特徴を述べる ②小臼歯にみられる各名称を説明する ③上顎第一小臼歯と上顎第二小臼歯の相違について説明する ④下顎第一小臼歯と下顎第二小臼歯の相違について説明する
8	デッサン	デッサン （上下顎第一小臼歯） (1)外形	上下顎小臼歯の特徴を理解するために、デッサンを通して歯種の形態および特徴を理解する	①見本を見て歯の最外形を描く ②切縁の位置が歯のどこにあるか説明する ③豊隆の位置が歯のどこにあるか説明する ④歯頸線の位置が歯のどこにあるか説明する
9	講　義	1章　歯の形態 ②永久歯 （上下顎大臼歯・乳歯）	口腔に関する解剖学的基礎知識を理解するために、歯種の形態および特徴に関する知識を習得する	①大臼歯の基本的特徴を述べる ②大臼歯にみられる各名称を説明する ③上顎大臼歯の後方推移について説明する ④下顎大臼歯の後方数位について説明する ⑤乳歯の基本的特徴を説明する
10	デッサン	デッサン （上下顎第一大臼歯） (1)外形	上下顎大臼歯の特徴を理解するために、デッサンを通して歯種の形態および特徴を理解する	①見本を見て歯の最外形を描く ②切縁の位置が歯のどこにあるか説明する ③豊隆の位置が歯のどこにあるか説明する ④歯頸線の位置が歯のどこにあるか説明する

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)
11	歯型彫刻	歯型彫刻(上顎中切歯) (1)隣接面の設計 (2)隣接面の削除	上顎中切歯の特徴を理解するために、歯型彫刻を通して実習器具の扱い方や歯の形態的特徴の表現方法などの技能を身につける	①石膏棒に歯の外形を設計する ②設計をもとに彫刻刀で石膏棒を削除する ③中切歯にみられる形態的特徴を表現する ④限られた時間内で実習に取り組む ⑤実習に使用した器具の片付けを行う
12		歯型彫刻(上顎中切歯) (3)唇側面の設計 (4)唇側面の削除	上顎中切歯の特徴を理解するために、歯型彫刻を通して実習器具の扱い方や歯の形態的特徴の表現方法などの技能を身につける	①石膏棒に歯の外形を設計する ②設計をもとに彫刻刀で石膏棒を削除する ③中切歯にみられる形態的特徴を表現する ④限られた時間内で実習に取り組む ⑤実習に使用した器具の片付けを行う
13		歯型彫刻(上顎中切歯) (5)切縁からの面とり (6)舌側面窩の形成	上顎中切歯の特徴を理解するために、歯型彫刻を通して実習器具の扱い方や歯の形態的特徴の表現方法などの技能を身につける	①石膏棒に歯の外形を設計する ②設計をもとに彫刻刀で石膏棒を削除する ③中切歯にみられる形態的特徴を表現する ④限られた時間内で実習に取り組む ⑤実習に使用した器具の片付けを行う
14		歯型彫刻(上顎中切歯) (7)細部形成 (8)表面仕上げ	上顎中切歯の特徴を理解するために、歯型彫刻を通して実習器具の扱い方や歯の形態的特徴の表現方法などの技能を身につける	①石膏棒に歯の外形を設計する ②設計をもとに彫刻刀で石膏棒を削除する ③中切歯にみられる形態的特徴を表現する ④限られた時間内で実習に取り組む ⑤実習に使用した器具の片付けを行う
15	まとめ	到達度確認試験	講義および実習で得た永久歯・乳歯の理解度を確認するため、到達度確認試験を受験する	①講義・実習で学んだ知識を振り返り、適切な解答を記述する

学科目名	生理学

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

生体活動を細胞・組織・器官・器官系のレベルで理解し、それらの種々の仕組みを明らかにする。また、口腔を形成する色々な細胞・組織・器官・器官系の活動の仕組みを理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1『解剖学･組織発生学･生理学』 医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の構造と機能『口腔解剖学･口腔組織発生学･口腔生理学』 医歯薬出版

参 考 書　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編

評価方法　定期試験　出席状況　小テスト（４回）　受講態度

担 当 者　藤井 慎介

回	授業項目	授業内容
1	人体の構造と機能1 Ⅰ編　組織と発生 1章　細胞と組織　2章　発生	①細胞　②染色体と減数分裂
2	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　2章　筋と運動	①概説
3	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　3章　消化･吸収	①消化と吸収の意義　②消化器の構造　③口腔での消化
4	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　4章　循環	①脈管系の概要　②血管の構造　③血管の機能　④血液　⑤心臓
5	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　5章　神経系	①神経系の概要　②神経系の構造　③中枢神経系 ④脳脊髄膜
6	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　6章　呼吸	①呼吸　②呼吸器の構成　③胸郭の構造と換気の仕組み ④肺気量と換気量
7	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　7章　感覚	①感覚の基本的性質　②体性･内臓感覚　③外皮 ④特殊感覚器の構造と機能
8	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能 8章　排泄　9章　体温	①排泄とは　②排便　③皮膚からの排泄（発汗）　④排尿 ①体熱の産生　②体熱の放散　③体温の調節　④体温の変動
9	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　10章　内分泌	①内分泌器官とホルモン　②内分泌器官の構造と機能 ③その他のホルモン　④歯とホルモン
10	人体の構造と機能1 Ⅱ編　構造と機能　11章　生殖	①生殖器　②性周期　③受精と妊娠　④分娩と乳汁分泌　⑤更年期
11	歯･口腔の構造と機能 Ⅰ編　顎･口腔の構造と機能 3章　歯と口腔の感覚　4章　味覚と嗅覚	①歯の感覚　②口腔粘膜の感覚 ①味覚　②嗅覚
12	歯･口腔の構造と機能 Ⅰ編　顎･口腔の構造と機能 5章　唾液	①下顎位　②下顎の運動　③顎反射　④摂食行動　⑤咀嚼能力
13	歯･口腔の構造と機能 Ⅰ編　顎･口腔の構造と機能 6章　唾液	①嚥下と嘔吐に関わる構造　②嚥下　③嘔吐
14	歯･口腔の構造と機能 Ⅰ編　顎･口腔の構造と機能 7章　発声	①発声機構の概要　②声の生成　③言語音の形成 ④歯･口腔の病態と発音
15	歯･口腔の構造と機能 Ⅰ編　顎･口腔の構造と機能 8章　唾液	①唾液腺　②唾液の分泌機構　③唾液の性状･成分と機能 ④唾液と疾患

学科目名	生化学

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

歯科衛生士は、歯科診療活動の一環として食生活上の改善を必要とする患者に対し、系統的かつ科学的な指導ができりることが求められる。その実践に際しては、単に栄養学やその指導論を学ぶだけでなく、その根拠となる生化学的な基礎知識を十分に自らのものとして身に付けている必要がある。三大栄養素（糖質、たんぱく質、脂質）の代謝過程においてビタミン、ミネラルがどのように関連するかを理解する。また、口腔内の状態や歯および唾液の性状について生化学および免疫学的に理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能２ 栄養と代謝』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験（中間試験･期末試験） 出席については厳密にカウントする　受講態度

担 当 者　小林 秀光

回	授業項目	授　業　内　容
1	生命の概要	１.生体の構成要素　　２.生体における化学反応 ３.生体における恒常性の維持　４.栄養指導と生化学との関係
2	エネルギー代謝と栄養所要量	エネルギー代謝と栄養所要量
3	三大栄養素の消化と吸収１	炭水化物
4	三大栄養素の消化と吸収２	脂質
5	三大栄養素の消化と吸収３	たんぱく質
6	三大栄養素の代謝１	炭水化物
7	三大栄養素の代謝２	脂質
8	三大栄養素の代謝３	たんぱく質
9	三大栄養素の代謝４	ビタミンの関わり､ミネラル（無機質）の関わり
10	核酸と遺伝子の役割	核酸と遺伝子､遺伝子の役割:タンパク質合成､遺伝子突然変異
11	歯･口の生化学１	１.結合組織　　２.歯の構成成分
12	歯･口の生化学２	石灰化とう蝕
13	唾液の生化学	１.唾液の成分　２.唾液の緩衝能
14	免疫学	体液性免疫 、 細胞性免疫
15	う蝕と歯周疾患の免疫	１.口腔疾患と自然免疫系 - 組織、細胞、成分 ２.口腔疾患と獲得免疫系

学科目名	病理学

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	後 期	単　　位	２

授業目標

講義の「病理学総論」（7回、14時間）と「口腔病理学（各論）」（8回、16時間）からなる。病理学総論において病気の基本概念を学ぶ。すなわち、病気の原因や成立、経過および転帰など病気の本質を理解し、病気の診断、治療ならびに予防に関する知識を習得する。口腔病理学では、病理総論で習得した知識を基に、歯科衛生士として正しく的確に業務が行えるように、口腔領域の病気に関する正確な知識を習得する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程のの促進1『病理学･口腔病理学』

参 考 書　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編

評価方法　定期試験 （試験要領は､マークシート形式で行う。） 受講態度

担 当 者　坂井 英隆

回	授業項目	授　業　内　容
1	病因論・遺伝性疾患	病気の成り立ち・奇形など
2	代謝障害	変性・萎縮・壊死
3	増殖と修復	肥大・再生・化生・創傷治癒
4	循環障害	血液の循環障害
5	炎症	炎症（肉芽腫性炎も含む）
6	免疫	「自己と非自己の識別機構」および「非自己の処理機構」について
7	腫瘍について	腫瘍の発生、発育、分類および各型
8	歯の異常・口腔奇形	歯の構造・萌出の異常、損傷・沈着物・増生および口腔領域奇形
9	う蝕およびその続発症	う蝕の原因、臨床像および病理組織学変化、およびその続発症
10	歯髄の病変	歯髄炎、歯髄壊死、歯髄壊疽
11	歯周疾患	歯肉炎、辺縁性歯周炎
12	口腔粘膜病変	口腔粘膜の病変
13	口腔領域の嚢胞	顎骨、軟組織にみられる嚢胞
14	口腔領域の腫瘍	顎骨、軟組織にみられる腫瘍
15	全身疾患と口腔病変	全身性疾患と口腔病変の関連

学科目名	薬理学

履修学年	第 1 学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

薬物を人体に投与した時に起こる変化を論理的に学び、歯科医療に使用される薬物の作用機序、代謝、副作用などを理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ
『疾病の成り立ち及び回復過程の促進3　薬理学』 医歯薬出版

参 考 書　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編

評価方法　定期試験　小テスト　出席状況　受講態度

担 当 者　安河内 篤

回	授業項目	授業内容
1	【I編/総論】 1章　薬物の作用 2章　薬物動態	①薬物とは/薬理学とは ②薬物療法の種類 ③薬理作用の様式 ④薬理作用の基本形式 ⑤薬理作用の分類 ⑥用量反応関係と薬用量の用語 ⑦薬理作用の機序 ①薬物の生体膜通過様式と通過に影響する因子　②吸収　③分布 ④代謝　⑤排泄　⑥薬物動態のパラメーター
2	3章　薬物の適用方法の種類と特徴 4章　薬物の作用に影響を与える要因 5章　薬物の副作用、有害作用	①適用方法の種類　②適用方法の違いによる血中濃度の推移 ③生物学的利用能 ①薬効に影響する因子･生体の感受性　②薬物の連用 ③薬物の併用　④薬物相互作用 ①薬物の有害作用の分類と原因　②薬物の有害作用 ③副作用･有害作用の予知と回避
3	6章　医薬品を適用する際の注意 7章　薬物の取り扱い 8章　薬物と法律･薬物と医薬品	①ライフステージと薬物　②服薬指導 ①医薬品の剤形　②処方せん　③調剤と配合変化　④薬物の保存方法 ①医薬品､医療機器等の器質､有効性及び安全性の確保等に関する法律(医薬品医療機器法) ②日本薬局方　③毒薬･劇薬の表示と保管
4	【II編/各論】 1章　ビタミンとホルモン 2章　末梢神経系に作用する薬物	 ①ビタミン　②ホルモン ①末梢神経系とは　②末梢神経作用薬
5	3章　中枢神経系に作用する薬物 4章　循環器系に作用する薬物	①中枢神経系に作用する薬物　②全身麻酔薬　③アルコール類 ④催眠薬･抗不安薬　⑤抗痙攣薬(抗てんかん薬)　⑥向精神薬 ⑦中枢神経興奮薬　⑧抗パーキンソン病薬　⑨アルツハイマー病治療薬 ①高血圧治療薬　②不整脈治療薬　③心不全治療薬 ④狭心症治療薬　⑤脂質異常症(高脂血症)治療薬
6	5章　腎臓に作用する薬物 6章　呼吸器系に作用する薬物 7章　消化器系に作用する薬物 8章　血液に関連する薬物 9章　免疫と薬	①腎臓の機能と生理　②利尿薬 ①気管支喘息治療薬　②鎮咳薬　③去痰薬 ①消化器系に作用する薬物 ①止血機構　②血液に関連する薬物 ①免疫応答のメカニズム　②免疫に関連する薬物
7	10章　悪性腫瘍と薬 11章　代謝性疾患治療薬	①悪性腫瘍とは　②抗悪性腫瘍薬 ①糖尿病治療薬　②骨粗鬆症治療薬

回	授業項目	授業内容
8	12章　炎症と薬 13章　痛みと薬	①炎症とは　②抗炎症薬　③解熱鎮痛薬 ①痛覚の発生と伝導　②オピオイド系鎮痛薬　③非オピオイド系鎮痛薬 ④神経障害性疼痛治療薬
9	14章　局所麻酔薬	①局所麻酔薬の作用機構　②局所麻酔薬の効果に影響を与える因子 ③血管収縮薬の併用　④局所麻酔薬の化学構造と分類 ⑤局所麻酔薬の適用法　⑥局所麻酔薬の生体に対する作用
10	15章　抗感染症薬	①感染症と抗感染症薬　②抗感染症薬の作用と副作用 ③主な抗感染症薬
11	16章　消毒に使用する薬	①消毒薬の作用　②消毒薬の分類　③主な消毒薬 ④HBVおよびHIVに対する消毒薬
12	17章　う蝕予防薬 18章　歯内療法薬	①フッ化物の臨床応用 ①歯髄の保存に用いる薬物　②根管治療に用いる薬物 ③象牙質知覚過敏症に用いる薬物
13	19章　歯周疾患治療薬	①歯周治療における薬物療法　②急性炎症に用いる薬物 ③歯周治療に使用する薬物　④洗口薬　⑤口臭治療に用いる薬物 ⑥その他
14	20章　顎･口腔粘膜疾患と薬 21章　漢方医学と薬物	①炎症性疾患に用いる薬物　②口腔粘膜疾患に用いる薬物 ③顎関節症に用いる薬剤　④口腔乾燥症に用いる薬物 ⑤神経疾患に用いる薬物 ①漢方医学とは　②漢方薬とは
15	まとめ	

学科目名	微生物学

履修学年	第１学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

微生物の概要を理解し、人に疾患を引き起こす微生物について、その病原性に関わる因子や感染成立の要件等を考察する。また、感染症に対する知識を深め、その予防法を理解し、口腔内に常在する微生物について十分把握する。さらに、歯科臨床における消毒法、滅菌法の意義を理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ　疾病の成り立ち及び回復過程の促進2『微生物学』医歯薬出版

参 考 書　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編

評価方法　定期試験(中間試験･期末試験)　出席状況　受講態度

担 当 者　筑井　徹

回	授業項目	授業内容
1	1章　疾病と微生物	疾病と微生物､免疫学
2		感染と感染症 1.感染の成り立ちと発病　2.宿主-寄生体相互作用
3	2章　微生物の病原性	微生物の位置づけ 1.微生物の分類　細菌　1.細菌の成城と病原性
4		細菌　2.主な病原性細菌　マイコプラズマ属　スピロヘータ リケッチア　クラミジア
5		ウイルス 1.ウイルスの性状　2.歯科に関連するウイルスとウイルス感染症
6	3章　宿主防御機構と免疫	宿主防御機構
7		免疫機構
8		液性免疫　細胞性免疫
9		アレルギー(過敏症)
10	4章　口腔微生物	口腔細菌叢　イオフィルムとしてのプラーク
11	5章　口腔感染症	う蝕　歯内感染症　歯周病　その他の口腔感染症
12	6章　化学療法	化学療法と化学療法薬　主な化学療法薬の種類と特徴　抗菌スペクトル 生体内動態　薬剤感受性試験　薬剤耐性　有害作用(副作用)
13	7章　院内感染対策と細菌･消毒	口腔外感染症と院内感染対策　滅菌･消毒　滅菌･消毒の方法
14	8章　細菌培養･顕微鏡観察	培養法　培地　顕微鏡観察　微生物を観察するための方法
15	まとめ	

学科目名	口腔衛生学

履修学年	第１学年	時 間 数	50 時間
履修時期	前・後期	単　　位	3

授業目標

現場、第一線で活躍する「健康の担い手」として歯科疾患の原因を正しく理解し、予防理論と最新の歯科保健医療の知識・技術を明確に把握する。口腔衛生活動の意義、方法、考え方についても学ぶ。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1『保健生態学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験(前期･後期)　出席状況　受講態度

担 当 者　須磨 紫乃

回	授業項目	授　業　内　容
1	１章　総論	1- 歯・口腔の健康と予防
2		2- 歯・口腔の健康
3		3- 歯・口腔の付着物・沈着物
4	２章　口腔清掃	1- 口腔清掃の意義
5		2- 口腔清掃法
6		3- 人工的清掃法の分類と用具
7		
8		4- 不適切な口腔清掃による為害作用　5- 歯磨剤と洗口液・洗口剤
9	３章　歯科疾患の疫学	1- う蝕の疫学　2- 歯周疾患の疫学　3- その他の疫学
10	４章　う蝕の予防	1- う蝕発生のメカニズム　2- う蝕発生の要因
11		3- う蝕活動性　4- う蝕の予防法
12	５章　フッ化物によるう蝕予防	1- わが国のフッ化物応用　2- フッ化物の一般性状と用語
13		3- 人間生態系におけるフッ化物　4- フッ化物摂取量とその基準
14		5- フッ化物の代謝　6- フッ化物の毒性
15		7- フッ化物応用によるう蝕予防方法
16		8- フッ化物のう蝕予防メカニズム　9- ライフステージに応じたフッ化物応用法
17	６章　歯周疾患の予防	1- 歯周疾患の症状と分類
18		2- 歯周疾患の発症機序
19		3- 歯周疾患の全身に与える影響
20		4- 歯周疾患の予防手段と処置
21	７章　その他の疾患・異常の予防	1- 口内炎　2- 口腔癌　3- 不正咬合
22		4- 顎関節症　5- 歯の形成不全　6- 口臭症　7- 口腔乾燥症
23	８章　ライフステージごとの口腔保健管理	1- 口腔保健管理の目標　2- 母子口腔保健
24		3- 小児期の口腔保健
25		4- 成人期・老年期の口腔保健

学科目名	歯科衛生統計

履修学年	第２学年	時 間 数	30 時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

歯科保健医療に関する様々なデーターや指標、数値が統計学的にどのように分析されているかを学び、歯科で一般的に用いられている各種の指標や指数について理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3『保健情報統計学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　朝川 美加李

回	授業項目	授　業　内　容
1	保健情報と保健統計	保健情報とは　保健統計とは　保健情報の種類
2	保健情報と保健統計	国家統計調査
3	保健情報と疫学	疫学総論　健康障害の発生要因、疫学の方法論
4	歯科疾患の指数	数量化と指数　う蝕の指数
5	歯科疾患の指数	歯周疾患の指数
6	歯科疾患の指数	口腔清掃状態の指数
7	歯科疾患の指数	不正咬合と歯列の指数　歯のフッ素症指数　その他の歯科保健指標
8 9	保健情報の分析手順	保健情報の収集 調査 母集団と標本抽出
10 11	保健統計の方法	データの特性 記述統計一代表値、散布度、相関一推定と信頼区間 検定 保健情報の多変量解析
12 13	保健情報の分析　演習	解析と検定の演習 プレゼンテーション：データの表現
14	情報の保護と倫理	情報社会の特性と問題点　情報の開示 個人情報の保護　インターネットと情報倫理
15	まとめ	

学科目名	衛生学・公衆衛生学

履修学年	第 1 学年	時 間 数	30 時間
履修時期	後 期	単　　位	2

授業目標

人間の健康の問題と、それを取り巻くあらゆる環境因子との相互関係を理解し、「健康日本 21」が目指す「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会」に歯科衛生士がどう関与して行けばよいのかを理解する。また、近年歯科衛生士の活躍が増えつつある公衆衛生の現場での活動についても学ぶ。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1『保健生態学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　内藤 麻利江

回	授業項目	授　業　内　容
1	総論	保健生態学とは　定義
2		健康の概念　予防医学の概念
3	疫学	疫学の定義および概要　疾患、異常（健康障害）の発生要因
4		疫学の方法論
5	人口	人口の動向
6		人口動態統計　生命表
7	健康と環境	環境の概念
8		地球環境の変化と健康への影響
9		空気・水と健康　放射線と健康
10		住居・衣服と健康　公害と健康への影響
11		廃棄物処理
12	感染症	感染と発病　感染症の予防
13		感染症の予防
14	食品と健康	食品保健（食中毒）
15		栄養と健康

学科目名	地域保健活動論

履修学年	第 3 学年	時 間 数	15 時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

地域保健の意義を理解し、その活動を学習する。さらに地域保健における歯科衛生士の役割を理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1『保健生態学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　古田 美智子

回	授業項目	授　業　内　容
1	主な活動分野 政策決定のための条件 集団検診と事後処置	母子歯科保健、学校歯科保健、成人歯科保健、老人歯科保健、 計画を始める前に(前提条件)、地域歯科保健活動の進め方、 保健活動計画、保健活動評価、集団検診の目的、歯科集団検診、 検診結果の信頼性、検診器具の消毒、事後処置、 歯科集団検診と保健指導
2	保健教育 現場活動の場面	保健教育、歯科保健教育の意義、歯科保健教育と行動変容、 歯科保健教育の目標、歯科保健教育の手段、歯科保健普及活動、 保健所、市町村保健センター、口腔保健センター、母子保健センター、 学校、事業所、老人福祉センター
3	母子歯科保健 学校歯科保健	意義、母子歯科保健、乳幼児歯科保健、1 歳 6 ヶ月児健康診断、 3 歳児健康診査、学校歯科保健の意義、学校保健活動、 学校保健関係職員、学校歯科保健の展開
4	産業歯科保健 成人歯科保健活動 老人歯科保健	産業歯科保健の目的、事業所の特徴、衛生管理、歯科領域に現れる 職業性疾患、労働者災害補償保険、歯科衛生士の役割、 成人歯科保健活動のねらい、成人歯科保健の現場活動、8020運動とは、 老人歯科保健とは、老人の歯科保健状態の特徴、 老人歯科保険事業の地域展開、老人歯科保健事業の現場活動
5 6 7 8	地域保健の現場で 働く人の講話	保健所、市町村保健センターなど　歯科医師　歯科衛生士　看護師

学科目名	衛生行政

履修学年	第３学年	時 間 数	15時間
履修時期	前期	単　　位	1

授業目標

歯科衛生士をはじめとする医療関係者にとって衛生行政は、大切な分野である。その内容は、しばしば変更、改正されたり、新しい制度が設けられたりする。

国家と法制度の意義およびその基礎的な仕組みを学ぶ。歯科衛生士として歯科医療の現場で適切な対応をするために、基本的な関係法規に関連する知識の修得、法的位置付けを理解し業務に遂行できるようにする。

新しい情報についても理解することを目標とする。

教 科 書　最新歯科衛生士教本 『歯科衛生士と法律･制度 第３版』 医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　古田 美智子

回	授業項目	授　業　内　容
1	1章 歯科衛生士と法律	①はじめに ②歯科衛生士法(歯科衛生士の業務)
2		②歯科衛生士法(歯科衛生士免許)
3		③歯科医師法 ④歯科技工士法 ⑤歯科口腔保健の推進に関する法律　⑥医療法
4	2章 医療関係職種	①歯科医療と関わる医療関係者 ②保健師助産師看護師法 ③診療放射線技師法 ④言語聴覚士法
5		⑤医師法 ⑥薬剤師法 ⑦その他の医療関係職種に係る法律
6	3章 その他の関係法規	①薬事に関する法規 ②地域保健に関連する法規 ③その他の衛生法規
7	4章 社会保障	①社会保障 ②社会保険 ③医療保険 ④介護保険 ⑤年金保険 ⑥雇用保険と労働者災害補償保険 ⑧社会福祉
8	5章 まとめ	①医療状況の動向

学科目名	社会福祉概論

履修学年	第２学年	時 間 数	15 時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

地域社会で、歯科衛生士が医療サービスを提供するには保健・医療・福祉の統合的な対応が求められる。社会福祉概論を通し、現代社会における社会福祉の意義、理念について学ぶ。社会福祉の仕組みと拡がりについても理解する。またこれからの社会福祉はどうあるべきか事例を通して考える。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ 歯･口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2
『保健･医療･福祉の制度』 医歯薬出版

参 考 書　介護福祉養成講座編集委員会 『社会福祉概論』 中央法規出版
社会福祉専門職ライブラリー〈介護福祉編〉『社会福祉概論』

評価方法　定期試験

担 当 者　柴田 幸江

回	授業項目	授　業　内　容
1	4章　社会保障	①社会保障
2		②社会保険
3		③医療保険 1.医療制度改革　2.医療保険の種類　3.健康保険法 4.国民健康保険法等 5.高齢者の医療の確保に関する法律 6.審査支払機関
4		④介護保険 1.保険者と被保険者　2.要介護認定　3.保険給付 4.新しい介護予防事業　5.地域包括支援センター
5		⑤年金保険
6		⑥雇用保険と労働者災害補償保険 1.雇用保険　2.労働者災害補償保険
7		⑦社会福祉 1.社会福祉行政　2.生活保護と法規　3.児童と家庭の福祉制度と法規
8		4.障害者の福祉制度と法律　5.老人福祉法 まとめ

学科目名	歯科衛生士概論

実務経験のある教員による科目
※詳細はP.79教員一覧に記載

履修学年	第１学年	時 間 数	20時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

歯科衛生学について理解し、それを担う歯科衛生士の歴史についても学ぶ。また、保健・医療・福祉に関わることの意義や歯科衛生業務の考え方、行動の仕方、倫理的視点を持ち、かつ科学的な裏付けをもって仕事をすることの意味を学ぶ。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯科衛生学総論』医歯薬出版
参 考 書
評価方法　定期試験、出席状況、課題提出、受講態度
担 当 者　大峰 礼子

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）
1	1章 歯科衛生学とは	①歯科衛生学 ②歯科衛生と健康 ③歯科衛生活動の対象 ④歯科衛生活動の領域	歯科衛生学について理解する	①歯科衛生学について述べる ②口腔の健康と全身の健康を関連づける ③歯科衛生活動の対象を列挙する
2	アイスブレイク	マインドマップ作成	マインドマップを使って自己を理解する	①マインドマップについて述べる ②ルールを説明する ③テーマから連想して作成を行う ④発表時に知り得た個人情報には配慮する
3	2章 歯科衛生の歴史	①歯科衛生の誕生と経緯 ②歯科衛生の背景 ③歯科衛生士業務の現状 ④歯科衛生士の役割と展望	歯科衛生士の歴史について理解する	①歯科衛生の歴史について述べる ②歯科衛生士業務について述べる ③歯科衛生士の展望について推論する
	3章 歯科衛生活動のための理論	①予防の概念 ②歯科衛生の考え方 −科学的思考−	予防の概念、歯科衛生活動の理論を理解する	①歯の病気を述べる ②病気を予防する行動を述べる ③歯科衛生の考え方を分析するモデルを述べる
4	4章 歯科衛生過程	①歯科衛生過程とは ②歯科衛生過程活用の利点 ③歯科衛生過程の流れ	歯科衛生過程について知る	①歯科衛生過程について述べる ②歯科衛生士の業務における歯科衛生過程の必要性を説明する ③対象者の情報を正確に記録する
5	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務	①歯科衛生士と歯科衛生士法 ②歯科衛生士の役割 ③関連法規 ④安全管理	歯科衛生士の役割や関連法規について理解する	①歯科衛生士法について述べる ②歯科衛生業務に関連する法規を列挙する ③安全管理について述べる ④感染予防の必要性について述べる
6	6章 歯科衛生士と医療倫理	①倫理の必要性 ②医の倫理と患者の権利 ③歯科衛生と倫理 ④対象の自己決定権の尊重 ⑤インフォームド・コンセント ⑥倫理の適用	医療倫理を理解する	①倫理について述べる ②歯科における倫理を説明する ③インフォームドコンセントについて述べる ④インフォームドチョイスについて述べる ⑤セカンドオピニオンについて述べる
7	公衆衛生活動の理解	全国小学生歯みがき大会 インターネット視聴	公衆衛生活動について理解する	①公衆衛生活動と歯科衛生士の役割を述べる ②公衆衛生活動に積極的に参加する ③学童への口腔衛生指導法を感じる
8	現場で働く歯科衛生士の講話	歯科医院での仕事の内容、訪問歯科での仕事の内容、公衆衛生活動でのやりがい、さまざまな人との関わりの中での歯科衛生士の役割	歯科衛生士の現場活動について知る	①歯科衛生士の活動に触れる ②将来のために現在何をすべきかを記述する ③講話と自分の将来を関連づける
9	グループワーク	歯科衛生士像について	歯科衛生士に必要とされることについて理解する	①ブレーンストーミングで行う ②望ましい歯科衛生士像を述べる ③グループワークに参加する
10	発表	グループワークの仕上げと発表	歯科衛生士に必要とされることについて理解する	①望ましい歯科衛生士像を述べる ②グループワークに参加する ③大きな声で発表する

学科目名	医療倫理学

履修学年	第１学年	時 間 数	15時間
履修時期	後 期	単　　位	1

授業目標

将来歯科医療人となる医療系学生として、“高みを目指す”姿勢を身に着け、将来の業である歯科衛生士は、他職種と連携して医療を遂行するデンタル・プロフェッションであるという社会的責任を監を涵養する。

教 科 書　プロフェッショナル・ワークブック（医歯薬出版)、プリント

参 考 書

評価方法　定期試験　確認テスト　提出物　受講態度

担 当 者　木尾 哲朗　引地 尚子

回	授業項目	授　業　内　容
1	オリエンテーション	･医の倫理の歴史と概論 ･本科目の学修方法と評価について
2	事例学習 1	･シネメデュケーション(cinema medical education)
3	インフォームド･コンセント	･患者と権利とInformed Consent(IC)
4	事例学習 2	･事例を読んで考える
5	事例学習3	･事例を読んで考える
6	生活の質	･Quality of Life(QOL)
7	事例学習 4	･シネメデュケーション(cinema medical education) ･守秘義務
8	総括	･まとめ

学科目名	歯科臨床概論

履修学年	第１学年	時 間 数	15時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

医療の概要や歯科医療の意義を理解し、歯科臨床ならびに歯科医療のながれについて学ぶ。具体的には、患者の心理状態を、患者の立場から考えることが大切なことや歯科患者の一般的な特徴について理解する。さらに歯科診療所を見学しその後の学習の糧にする。

教 科 書　『歯科衛生士のための歯科臨床概論』第2版 医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　木尾 哲朗　引地 尚子

回	授業項目	授業内容
1	Ⅰ編 歯科診療と歯科診療所 1章 歯科診療とは 2章 歯科診療所	1章 1. 歯科診療の場　2. 歯科診療に関わる人々　3. 歯科診療の対象者 2章 1. 歯科医療に関わるスタッフ　2. 歯科診療所の紹介 3. 歯科診療所における安全管理
2	3章 歯科診療の流れ Ⅱ編 人の一生に関わる歯科衛生士 1章 人の一生と歯の関係	3章 1. 歯科診療所の一日　2. 歯科治療の流れ
3	2章 歯科診療で行うこと・主な治療の流れ 1. 診査･検査･前処置	1)バイタルサイン　2)診査診断のための画像　3)歯周組織の診査 4)痛みのコントロール
4	2. 治療･処置 小児歯科 矯正歯科	小児歯科　1)小児歯科とは　2)先天異常の対応　3)う蝕予防処置 矯正歯科　1)不正咬合と矯正歯科医療　2)矯正歯科治療
5	口腔外科	1)口腔外科とは　2)外傷の治療　3)抜歯
6	保存修復･歯内療法	1)保存修復･歯内療法とは　2)う蝕の保存修復　3)歯内療法 4)象牙質知覚過敏症　5)ホワイトニング
7	歯周治療 歯科補綴	歯周治療　1)歯周治療とは　2)歯周基本治療　3)歯周外科治療 4)メインテナンス 歯科補綴　1)歯科補綴とは　2)義歯の製作
8	障害者歯科･高齢者歯科	1)障害者歯科･高齢者歯科とは　2)摂食嚥下障害の対応 3)全身疾患への対応　4)周術期の対応　5)歯科訪問診療

学科目名	う蝕治療学

履修学年	第１学年	第２学年	時 間 数	20時間	20時間
履修時期	後 期	前 期	単 位	1	1

授業目標

歯の保存修復療法ならびに歯内療法の概要を理解し、診療補助に必要な知識を習得する。各修復法・処置法の目的を理解し、必要となる器材やその使用法について学習する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『保存修復学･歯内療法学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　篠﨑 剛

第１学年　保存修復

回	授業項目	授　業　内　容
1	歯の保存療法の種類	1.歯の保存療法と歯科保存学　2.対象となる疾患
2	歯および歯周組織の検査	1.歯および歯周組織検査の基礎知識と前準備 2.医療面接 3.自覚的・他覚的情報の収集
3	保存修復の概要	1.保存修復学とは　2.窩洞と保存修復治療　3.保存修復治療の概要
4		4.保存修復法の種類 5.保存修復治療の準備　6.歯の切削窩洞形成
5		7.歯髄の保護
6	直接法修復	1.コンポジットレジン修復 2.セメント修復
7	間接法修復	1.インレーおよびアンレー修復
8		2.ベニア修復　3.合着材および接着材
9	保存修復における歯科衛生士の役割	1.保存修復治療に使用する材料・薬剤の管理
10		2.保存修復治療における患者への説明と指導

第２学年　歯内療法

回	授業項目	授　業　内　容
1	歯内療法の概要	1.歯内療法学とは　2.歯内療法領域の主な疾患の概要と原因
2		3.歯髄疾患､根尖性歯周組織疾患の分類と症状　4.歯髄疾患､根尖性歯周組織疾患の処置
3	歯髄保存療法	1.歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬　2.覆髄法
4	歯髄の除去療法	1.歯髄切断法　2.抜髄法
5	根管治療､根管充塡	1.根管治療の基本概念　2.根管治療の術式
6		3.根管充塡　4.根未完成歯の根管処置
7	外科的歯内療法	1.膿瘍切開法　2.根尖掻爬法　3.根尖切除法　など
	歯の外傷	1.歯の外傷の概要　2.歯の外傷の分類と処置　3.歯の保存液を用いた歯の保存法
8	歯内療法における安全対策	1.歯内治療用器具の根管内破折　2.根管治療時の根管壁穿孔等
9	歯内療法における歯科衛生士の役割	1.検査･診断時の業務　2.歯髄処置時の診療補助業務
10	歯のホワイトニング（ブリーチング）　まとめ	1.ウォーキングブリーチ法　2.オフィスブリーチ法　3.ホームブリーチ法

学科目名	歯周療法学

履修学年	第１学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単　　位	2

授業目標

歯周疾患の基礎知識として歯周組織の解剖や機能、歯周疾患の分類や病因、また、全身疾患との関連について学び、歯周疾患に必要な診査、診断、治療法の実際さらに、歯周治療における歯科衛生士の役割を学ぶ。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯周病学』 医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　　出席状況　　受講態度

担 当 者　讃井 彰一

回	授業項目	授　業　内　容
1	歯周治療とは	歯周疾患の現状と治療　　歯科衛生士業務と歯周治療
2	正常な歯周組織の構造と機能	歯周組織の構造　　歯周組織の機能
3	歯周病の分類と原因	歯周病の分類
4	歯周病の分類と原因	歯周病の原因
5	歯周治療の進め方	歯周病の予防と歯周治療の基本　　歯周治療の進め方
6	歯周病の検査	主訴を中心とした一般診査　　歯周病検査
7	歯周病の検査	咬合の診査　　画像診断　　その他の診査
8	歯周基本治療	歯周基本治療の目的と効果
9	歯周基本治療	歯周基本治療の内容と実際
10	歯周外科治療	歯周外科治療の目的と分類
11	歯周外科治療	歯周外科治療後の治癒形態
12	歯周外科治療	歯周外科治療に用いる器材　　種々の歯周外科治療
13	歯周治療としての 口腔機能回復治療	歯周治療における口腔機能回復治療とは　咬合調整　矯正治療 歯科用インプラントによる治療･歯の固定法
14	メインテナンス	メインテンスの重要性と意義 メインテナンス､SPTの実際　メインテナンス､SPTの内容
15	歯周治療における 歯科衛生士の役割	歯周治療の進め方　口腔機能回復治療　メインテナンス､SPT　まとめ

学科目名	歯科補綴学

履修学年	第１学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単　　位	2

授業目標

高齢社会にともない、歯科治療に占める歯科補綴治療の割合が増加しつつある。本講義では、現有歯の実質欠損や喪失した歯およびそれに伴う周囲組織の変化を人工材料を用いて修復する各補綴装置と歯科技工との関連も理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯科補綴学』 医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　　出席状況　　受講態度

担 当 者　泥谷 高博、水上 哲也

回	授業項目	授　業　内　容・目　標
1 2	Ⅰ編 補綴歯科治療の基礎	１章 歯科補綴の概要 ①歯科補綴とは　②補綴歯科治療の意義と目的 ③歯の欠損に伴う生理的変化　④補綴歯科治療の方法と補綴装置 ⑤補綴歯科治療における歯科衛生士の役割
3 4		2章 補綴歯科治療の基礎知識 ①歯列と咬合　②補綴学的基準平面　③口腔の機能 ④顎関節の構造･機能と病態
5	Ⅱ編 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割	１章 補綴歯科治療における検査 ①医療面接と診察　②口腔内の検査　③画像検査　④咬合と顎口腔機能の検査
6 7		2章 クラウン･ブリッジ治療 ①クラウン･ブリッジ治療の概要 ②クラウン･ブリッジ治療の流れと診療の補助 ③クラウン･ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応
8 9 10		３章 有床義歯治療 ①全部床義歯治療の概要　②全部床義歯治療の流れと診療の補助 ③全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応　④部分床義歯治療の概要 ⑤部分床義歯治療の流れと診療の補助 ⑥部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応
11 12 13		４章 インプラント治療 ①インプラント治療の概要 ②インプラント治療の流れと診療の補助 ③上下無歯顎症例に対するインプラント治療 ④インプラント治療に伴うトラブルとその対応
14		５章 特殊な口腔内装置を用いる治療 ①顎顔面補綴治療　②構音･嚥下機能の補助治療 ③顎関節症と歯ぎしりの治療　④スポーツ外傷の予防 ⑤睡眠時無呼吸症候群の治療
15		６章 補綴歯科治療における器材の管理 ①器具･器材別滅菌, 消毒, 洗浄, 保管　②歯科技工士との連携

学科目名	口腔外科・歯科麻酔学

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	前 期	単 位	2

授業目標

口腔外科で扱う疾患の概要、その疾患の原因、主要症状などを理解する。

さらに、口腔外科診断の介助、滅菌と消毒、代表的な口腔外科小手術の概要について理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『口腔外科学・歯科麻酔学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　受講態度

担 当 者　塩川　裕之

回	授業項目	授業内容
1	Ⅰ編１章　口腔外科の概要	①口腔外科とは　②顎・口腔領域の特徴と主な疾患　③口腔病変と全身疾患　④基礎疾患と歯科治療
2	Ⅰ編２章　顎・口腔領域の先天異常と発育異常	①歯の発育異常　②口腔軟組織の先天異常と発育異常 ③口唇裂・口蓋裂　④顎の先天異常と発育異常
3	Ⅰ編３章　顎・口腔領域の損傷および機能障害	①軟組織の損傷　②歯および歯槽の外傷　③顎骨骨折 ④顎関節疾患
4	Ⅰ編４章　口腔粘膜の病変	①水疱形成を主徴とする疾患　②紅斑およびびらんを主徴とする疾患 ③潰瘍を主徴とする疾患　④白斑を主徴とする疾患 ⑤色素沈着を主徴とする疾患　⑥粘膜の萎縮を主徴とする疾患 ⑦口腔の乾燥を主徴とする疾患　⑧粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患 ⑨そのほかの異常および疾患
5	Ⅰ編５章・６章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患および嚢胞性疾患	①炎症とは ②歯周組織の炎症 ③顎骨の炎症 ④ 顎骨周囲組織の炎症 ⑤嚢胞とは ⑥ 顎骨に発生する嚢胞 ⑦ 軟組織に発生する嚢胞
6	Ⅰ編７章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	①腫瘍とは　②腫瘍の分類　③歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍 ④腫瘍類似疾患　④顎関節疾患
7	Ⅰ編８章　唾液腺疾患	①唾液と唾液腺　②炎症性唾液腺疾患　③唾石症 ④唾液分泌異常　⑤唾液腺腫瘍
8	Ⅰ編９章 口腔領域の神経疾患	①顎口腔の知覚神経と運動神経　②神経痛　③神経麻痺 ④神経痙攣
9	Ⅰ編10章 口腔外科診療の実際	①口腔外科治療の流れ　②診察と診断　③清潔と不潔　④創傷の処置 ⑤口腔外科小手術　⑥止血処置　⑦縫合処置
10	Ⅱ編１章、２章、３章 歯科治療における 歯科麻酔と患者管理 局所麻酔　精神鎮静法	①歯科治療における歯科麻酔の立場 ②全身状態の評価と患者管理 ③局所麻酔法 ④局所麻酔薬 ⑤血管収縮薬 ⑥局所麻酔に使用する器材 ⑦局所麻酔時の局所的偶発症 ⑧吸入鎮静法 ⑨静脈内鎮静法 ⑩精神鎮静法実施に際する一般的注意点
11 12	Ⅱ編４章　全身麻酔	①術前管理　②全身麻酔法　③術中管理 ④麻酔覚醒と抜管　⑤術後管理　⑥全身麻酔下歯科治療と日帰り全身麻酔
13	Ⅱ編５章　救急蘇生法	①歯科治療時の全身的偶発症　②酸素療法　③静脈確保　④一次救命処置
14	Ⅲ編１・２章 検査・診断時の業務 口腔外科・歯科麻酔処置における業務	①問診　②観察・検査　③術前管理　④～⑰局所麻酔時の業務　など
15	Ⅲ編３章　歯科衛生士が行う術前・術後のケアと器材の管理	①周術期等口腔機能管理の概要　②周術期等口腔機能管理（Ⅰ）および（Ⅱ） ③周術期等口腔機能管理（Ⅲ）における特有の配慮 ④診療室および器材の管理

学科目名	小児歯科学

履修学年	第１学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単　　位	2

授業目標

成長発育途上にある小児の特性を理解したうえで、小児の口腔疾患の予防と治療ならびに口腔の健康管理における、歯科衛生士としての必要な知識、診療の補助を習得する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『小児歯科学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　岡　桜恵

回	授業項目	授　業　内　容
1	小児歯科学概論	小児歯科学とは　　小児歯科の意義と目的
2	心身の発育	発育の概念と分類、発育状態の評価、生理的年齢、器官の発育、精神発達
3	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育	バイタルサインと生理的特徴、薬剤処方の薬物療法 脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化、脳頭蓋の発育の特徴、顔面頭蓋の発育の特徴、発育の評価表
4	歯の発育とその異常 歯列･咬合の発育と異常	乳歯･幼若永久歯の特徴、歯の形成、歯の発育時期と形成異常、 歯の萌出、歯の萌出異常 歯列･咬合の発育、歯列･咬合の異常
5	小児の歯科疾患	小児にみられるう蝕、小児にみられる歯周疾患、 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患
6	小児歯科診療 小児期の特徴と歯科的問題点	乳･幼児期小児･学童期小児･思春期小児の特徴、 留意点と特徴的歯科疾患
7	小児歯科に於ける 診療体系（１）	小児歯科診療とその特徴、小児歯科治療における原則、 診察･検査･診断、母親教室、小児歯科における麻酔法
8	小児歯科に於ける 診療体系（２）	小児の歯冠修復、小児の歯内療法、小児の外科的処置、外傷の処置、 咬合誘導、フッ化ジアンミン銀塗布、リコール（定期健診）
9	小児における患者との 対応法	患児･保護者と歯科医師･歯科衛生士との関わり、歯科診療室における小児の態度と行動、年齢別にみた小児の行動と対応法、歯科治療時の対応法
10	障害児の歯科治療	障害児における歯科的対応、主な障害とその全身的･歯科的特徴、 障害児への対応、小児の摂食･嚥下障害の特徴
11	小児歯科診療における 歯科衛生士の役割 診察･検査時の業務	診察･検査の目的、医療面接、診察検査に必要な器材の準備
12	う蝕予防	プラークコントロール、フッ化物の応用、 小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント）、食生活指導
13	小児歯科診療における 診療補助	診療補助と歯科衛生士、保存修復、歯内療法、外科的処置
14	小児の口腔保健管理	目的、方法、口腔保健管理に必要な検査と指導
15	歯科診療室と器材の管理	歯科診療室の管理、器材の管理

学科目名	矯正歯科学

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	前 期	単 位	２

授業目標

顎顔面の成長発育や不正咬合による機能的、心理的障害について正しい認識を持ち、矯正歯科治療について正しく理解する。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯科矯正学』 医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　花岡 健太郎

回	授業項目	授　業　内　容
1	歯科矯正治療の概要	Ⅰ.歯科矯正学と矯正歯科治療の目的　Ⅱ.矯正歯科治療の需要と必要性 Ⅲ.矯正歯科治療のベネフィットとリスク　Ⅳ.矯正歯科治療とチーム医療
2	成長･発育	Ⅰ.身体の成長･発育　Ⅱ.頭蓋および顎顔面の成長･発育 Ⅲ.歯･歯列の成長･発育　Ⅳ.口腔機能の発達
3	正常咬合と不正咬合	Ⅰ.正常咬合　Ⅱ.不正咬合(咬合異常)　Ⅲ.不正咬合の分類 Ⅳ.不正咬合の原因　Ⅴ.不正咬合の予防
4	矯正歯科診断	Ⅰ.矯正歯科治療における診断　Ⅱ.矯正歯科診断に必要な検査 Ⅲ.症例分析　Ⅳ.非抜歯治療と抜歯治療
5	矯正歯科治療と“力” ― 矯正力･顎整形力･保定 ―	Ⅰ.歯の移動と固定　Ⅱ.歯の移動と組織反応　Ⅲ.歯の移動様式 Ⅳ.矯正力と顎整形力　Ⅴ.保定
6	矯正装置	Ⅰ.可撤式矯正装置　Ⅱ.固定式矯正装置
7	矯正装置	Ⅰ.機能的矯正装置　Ⅱ.拡大装置 Ⅲ.顎外固定装置　Ⅳ.口腔習癖除去装置　Ⅴ.保定装置
8	上下顎の前後的関係の不調和 上下顎の垂直的関係の不調和 (過蓋咬合･開咬)	Ⅰ.Ⅰ級不正咬合　Ⅱ.Ⅱ級１類不正咬合　Ⅲ.Ⅱ級２類不正咬合 Ⅳ.Ⅲ級不正咬合　Ⅴ.Ⅰ級不正咬合の治療の実際　Ⅵ.過蓋咬合･開咬 Ⅶ.過蓋咬合症例の治療の実際　Ⅷ.開咬症例の治療の実際
9	成人矯正　口腔顎顔面の形成異常と変形	Ⅰ.補助的･包括的矯正歯科治療　Ⅱ.成人矯正歯科治療の実際 Ⅲ.口唇･口蓋裂･先天異常　Ⅳ.顎変形症
10	歯の埋伏と歯数の異常 矯正歯科治療時のトラブルへの対応 健康保険が適用される矯正歯科治療	Ⅰ.埋伏歯　Ⅱ.先天欠如歯　Ⅲ.過剰歯　Ⅳ.う蝕､歯肉炎､歯周疾患 Ⅴ.歯根吸収　Ⅵ.顎関節症　Ⅶ.アレルギー　Ⅷ.トラブルへの対応
11	歯科矯正診断にかかわる業務 矯正歯科診療時の業務	Ⅰ.診断に関する診療補助　Ⅱ.インフォームド･コンセント
12	矯正歯科診療時の業務	Ⅰ.矯正歯科用器具･材料の準備と取り扱い　Ⅱ.可撤式装置装着時の補助と指導 Ⅲ.固定式装置装着時の補助と指導　Ⅳ.機能的矯正装置装着時の補助と指導 Ⅴ.上顎側方拡大装置装着時の補助と指導　Ⅵ.顎外固定装置装着時と補助と指導
13	矯正歯科患者と口腔保健管理	Ⅰ.患者へのアプローチ　Ⅱ.口腔衛生管理
14	矯正歯科患者と口腔保健管理	Ⅲ.矯正装置の説明と保健指導の要点
15	口腔筋機能療法 器材､資材､文書の管理	Ⅰ.口腔筋機能療法(MFT)　Ⅱ.口腔周囲組織のアセスメント Ⅲ.MFTの指導計画　Ⅳ.MFTに用いる器具　Ⅴ.MFTの指導法 Ⅵ.口腔習癖の改善　Ⅶ.MFTの効果

学科目名	歯科放射線学

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

放射線全般に関する基礎的な知識を学習する。
歯科エックス線撮影で歯科衛生士が担う役割を理解する。
エックス線撮影装置の構造と取り扱い方を理解し、さらにフィルムの現像処理法を身につける。また、現像したエックス線写真より歯や歯周組織の状態を読みとる。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯科放射線学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　　出席状況　実習･受講態度･レポート

担 当 者　八坂 美沙

回	授業項目	授　業　内　容
1	歯科医療と放射線	1.歯科におけるエックス線写真と画像診断　　2.放射線とその性質 3.放射線の人体への影響と防御
2	エックス線画像の形成	1.エックス線と画像の形成　　2.エックス線フィルムと増感紙 3.デジタル画像
3	歯科におけるエックス線検査	1.口内法エックス線撮影
4		2.パノラマエックス線撮影　　3.頭部エックス線規格写真 4.その他の画像検査法
5	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	1.口内法エックス線撮影の準備 2.フィルムとヘッド(管容器)の位置づけ 3.配慮が必要な患者のエックス線撮影 4.感染予防
6		5.口内法エックス線写真のみかた
7	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	1.パノラマエックス線撮影の準備 2.患者の誘導と位置づけ
8	エックス線撮影実習(デンタル)	エックス線装置を使用し相互で撮影実習を行う。 (二等分法)撮影･現像したフィルムは症例検討の資料とする。
9		エックス線装置を使用し相互で撮影実習を行う。 (二等分法)撮影･現像したフィルムは症例検討の資料とする。
10	エックス線撮影実習(パノラマ)	エックス線装置を使用し相互で撮影実習を行う。 (パノラマ)撮影･現像したフィルムは症例検討の資料とする。
11		エックス線装置を使用し相互で撮影実習を行う。 (パノラマ)撮影･現像したフィルムは症例検討の資料とする。
12	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	3.パノラマエックス線写真のみかた
13	症例検討	フィルムの読影について
14	写真処理と画像保管の実際	1.写真処理　　2.写真処理における品質管理　　3.品質保証計画の実施 4.医療機器の保守･点検　　5.エックス線写真の整理･観察･保管
15	放射線治療と口腔管理	1.放射線治療　2.放射線治療による副作用 3.放射線治療患者の口腔保健管理

学科目名	歯科予防処置論

実務経験のある教員による科目
※詳細はP.79教員一覧に記載

履修学年	第１学年	第２学年	第３学年
履修時期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
時間数	200時間	80時間	40時間
単位	5	2	1

授業目標

人々の健康維持、増進の援助ができるように歯科衛生士の業務である歯科予防処置の基礎となる歯周病予防やう蝕予防に関する知識、技術を習得する。

また、他職種と連携し、ライフステージに合せて対応ができるように専門的な知識、技術、態度を身につける。

教科書　歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』、『保健生態学』医歯薬出版
参考書　歯科衛生学シリーズ『歯周病学』、『高齢者歯科学』、『障害者歯科学』、『小児歯科学』医歯薬出版
『歯科用語小辞典』クインテッセンス出版株式会社
評価方法　実技試験　受講態度　出席状況　定期試験　観察記録　レポート他提出物　口頭試問
担当者　植木 美佐　藤木 愛寿美　牧原 真代　加藤 由香　中村 幸実　宇野 利惠

第１学年

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
1	歯科予防処置論の概要	①歯科予防処置の必要性 ②歯科予防処置論の定義 ③歯科衛生士法における歯科予防処置の位置づけ	歯科衛生士業務の中の歯科予防処置について理解する	①歯科予防処置の必要性について説明できる ②歯科予防処置の定義を述べることができる ③歯科衛生士の法的な位置づけを述べることができる ④歯周病予防処置の内容について述べることができる ⑤う蝕予防処置の内容について述べることができる	講義	1
2		⑤予防の概念	歯科衛生士業務の中の歯科予防処置について理解する	①予防の概念を3つの予防レベルと5つの手段に分けて説明できる	講義	1
3	口腔の基礎知識	①口腔・口腔周囲の構造 ②歯周組織 ③歯冠と歯根の形態	正常な口腔の基礎知識について理解する	①正常な口腔・口腔周囲の構成要素を構成8つ挙げることができる ②歯周組織の構成要素を4つ挙げることができる ③歯冠の形態的特徴について説明できる ④歯根の形態的特徴について説明できる	講義	1
4	歯周病の基礎知識	①口腔内の付着物・沈着物	口腔内の付着物・沈着物の基礎知識を理解する	①口腔内の付着物・沈着物を7つ挙げることができる ②プラークの成分について説明することができる ③プラークを3つに分類することができる ④歯石の成分について説明することができる ⑤歯石を2つに分類することができる	講義	1
5		⑤歯周病	歯周病予防の基礎を理解する為に歯科予防処置の基礎知識を修得する	①歯周病について述べることができる ②歯周病を3つに分類することができる ③歯肉炎の臨床的特徴を説明することができる ④歯周炎の臨床的特徴を説明することができる ⑤歯周病の進行プロセスを説明することができる ⑥歯周病の原因を挙げることができる ⑦歯周疾患の予防法を概説することができる ⑧歯周治療の原則を述べることができる ⑨歯周治療の進め方を説明することができる ⑩歯周病が影響を与える疾患を挙げることができる	講義	1
6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	⑥口腔の器質的問題の把握 2.使用器具： エキスプローラー(探針) 歯周プローブ ピンセット デンタルミラー	歯周病予防の基礎を理解する為に歯科予防処置の基礎知識を修得する	①歯科衛生介入に関連する検査に使用する基本器具がわかる ②エキスプローラー(探針)の使用目的を述べることができる ③歯周プローブの使用目的を述べることができる ④ピンセットの使用目的を述べることができる ⑤デンタルミラーの使用目的を述べることができる ⑥正しく執筆状変法把持法ができる	講義	1
7		探針、ピンセット、ミラー、プローブの使用訓練	スケーリングのマネキン実習を行うために歯科予防処置の基礎知識および技術を習得する	①歯周基本治療に必要な器具を述べる ②探針の操作方法がわかる ③ピンセットの操作方法がわかる ④ミラーの操作方法がわかる ⑤プローブの操作方法がわかる	演習	3
8	歯科衛生介入としての歯科予防処置	①スケーリング 1.手用スケーラー 1)構成　2)基本設定 3)スケーラーの種類と操作方法	スケーリングのマネキン実習を行うために歯科予防処置の基礎知識修得する	①手用スケーラーの種類を理解することができる ②シックルスケーラーの特徴を挙げることができる ③シックルスケーラーの使用目的を述べることができる ④シックルスケーラーの操作方法を説明できる	講義	1
9		①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 3)種類と操作方法ー (1)シックルスケーラー	スケーリングのマネキン実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①シックルスケーラーの操作4原則を述べる ②シックルスケーラーの操作4原則を守らなかった時の弊害を述べる ③手指固定ができる ④スケーリングの基本操作ができる ⑤スケーリングの3つのストローク運動ができる	講義 示説	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
10	歯科衛生介入としての歯科予防処置	マネキン実習準備 6分画、 マネキンの取り扱い、 MA、HR	スケーリングのマネキン実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①口腔の6分画が理解できる ②口腔・歯の位置関係を説明することができる ③隅角が分かる ④安全にマネキンの取り扱いを行うことができる	講義 示説	3
11		シックルスケーラー: マネキン実習準備 スケーリングの基本動作 ミラー、探針の使用訓練 (紙上)	スケーリングのマネキン実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①マネキンの取り扱いを正確に行うことができる ②術者のポジションを理解し実践できる ③デンタルミラーを正しく把持することができる ④デンタルミラーの固定法を理解し実践できる ⑤デンタルミラーで投影することができる ⑥エキスプローラーで正しく探査を行うことができる	実習	3
12		部位別操作: シックルスケーラー(マネキン実習) 下顎前歯部	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①下顎前歯部でのミラー操作を正しく行うことができる ②下顎前歯部でのエキスプローリングができる ③下顎前歯部でのスケーラーの基本操作を行うことができる ④下顎前歯部操作時の患者頭部を正しく設定することができる ⑤下顎前歯部操作時の術者ポジションの基本設定ができる	実習	3
13		部位別操作: シックルスケーラー(マネキン実習) 上顎前歯部	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①上顎前歯部でのミラー操作を正しく行うことができる ②上顎前歯部でのエキスプローリングができる ③上顎前歯部でのスケーラーの基本操作を行うことができる ④上顎前歯部操作時の患者頭部を正しく設定することができる ⑤上顎前歯部操作時の術者ポジションの基本設定ができる	実習	3
14		部位別操作: シックルスケーラー(マネキン実習) 下顎臼歯部	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①下顎臼歯部でのミラー操作を正しく行うことができる ②下顎臼歯部でのエキスプローリングができる ③下顎臼歯部でのスケーラーの基本操作を行うことができる ④下顎臼歯部操作時の患者頭部を正しく設定することができる ⑤下顎臼歯部操作時の術者ポジションの基本設定ができる	実習	3
15		部位別操作: シックルスケーラー(マネキン実習) 上顎臼歯部	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①上顎臼歯部でのミラー操作を正しく行うことができる ②上顎臼歯部でのエキスプローリングができる ③上顎臼歯部でのスケーラーの基本操作を行うことができる ④上顎臼歯部操作時の患者頭部を正しく設定することができる ⑤上顎臼歯部操作時の術者ポジションの基本設定ができる	実習	3
16		部位別操作: シックルスケーラー(マネキン実習)全顎復習	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①施術部位に合わせた正しいポジションの設定ができる ②施術部位に合わせた使用スケーラーの選択ができる ③施術部位に合わせたシックルスケーラーの基本操作を行うことができる	実習	3
17		部位別操作: シックルスケーラー(マネキン実習)全顎復習				
18	歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックルスケーラー 実技試験	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①シックルスケーラーの使用目的を述べる ②シックルスケーラーの特徴を述べる ③シックルスケーラーの操作4原則を述べる ④施術部位に合わせた患者頭部の設定ができる ⑤施術部位に合わせた術者ポジションの設定ができる ⑥施術部位に合わせた使用スケーラー使用の選択ができる ⑦施術部位に合わせたミラー操作ができる ⑧シックルスケーラーを正しく操作することができる	試験	3
試験		シックルスケーラー 実技試験				
19	歯科衛生介入としての歯科予防処置	①スケーリング 1. 手用スケーラー 6)シャープニング	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①シャープニングの目的を述べることができる ②シャープニングの原則を述べることができる ③砥石の種類を述べることができる	講義	1
20		シャープニング実習: シックルスケーラー	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①シャープニングの目的を述べることができる ②シャープニングの原則を述べることができる ③砥石の選択ができる ④シックルスケーラーのシャープニングを実施できる ⑤テストスティックを正しく使用し刃部の研磨状態を確認できる	実習	3
21	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	⑧分析のためのデータ 1.指標 1)口腔清掃状態の指数(PCR、OHI) 2)歯周疾患の指数(PMA指数)	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①歯科衛生介入に関連する検査方法を理解する ②口腔清掃状態の指数を説明できる ③歯周疾患の指数を説明できる	講義	1
22	相互実習 (臨床予備実習)	相互実習準備 生体への配慮、偶発事故の防止と対策、洗浄・消毒・滅菌、片付け方法 実習準備、ロールプレイング、片付け	安全に配慮しながらスケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①スケーリング相互実習の流れがわかる ②清潔・不潔の区別ができる ③滅菌器具の取り扱いがわかる ④ロールプレイングをとおして各自の役割を理解する ⑤相互実習の準備と片付けができる	講義 示説	3
23	相互実習 (臨床予備実習)	部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 上下顎前歯部(3人1組:1人90分)	スケーリングの相互実習を通して患者、術者、補助者として必要な基礎知識及び技術を習得する	①清潔・不潔の区別ができる ②滅菌器具の管理について理解し正しく取り扱うことができる ③スケーリングの準備と片付けができる ④上下顎前歯部に対するスケーリング操作を習得する ⑤患者に対し適切な声かけができる	実習	3
24		部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 上下顎前歯部(3人1組:1人90分)				
25		部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 上下顎前歯部(3人1組:1人90分)				
26	相互実習 (臨床予備実習)	部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 下顎臼歯部(3人1組:1人90分)	スケーリングの相互実習を通して患者、術者、補助者として必要な基礎知識及び技術を習得する	①清潔・不潔の区別ができる ②滅菌器具の管理について理解し正しく取り扱うことができる ③スケーリングの準備と片付けができる ④下顎臼歯部に対するスケーリング操作を習得する ⑤患者に対し適切な声かけができる	実習	3
27		部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 下顎臼歯部(3人1組:1人90分)				
28		部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 下顎臼歯部(3人1組:1人90分)				
29	相互実習 (臨床予備実習)	部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 上顎臼歯部(3人1組:1人90分)	スケーリングの相互実習を通して患者、術者、補助者として必要な基礎知識及び技術を習得する	①清潔・不潔の区別ができる ②滅菌器具の管理について理解し正しく取り扱うことができる ③スケーリングの準備と片付けができる ④上顎臼歯部に対するスケーリング操作を習得する ⑤患者に対し適切な声かけができる	実習	3
30		部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 上顎臼歯部(3人1組:1人90分)				
31		部位別操作:シックルスケーラー(相互実習) 上顎臼歯部(3人1組:1人90分)				

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
32	歯科衛生介入としての歯科予防処置	②歯面研磨・歯面清掃 1.歯面研磨	歯石除去後の歯面研磨に必要な知識、技術および態度を修得する	①歯面研磨の目的を理解する ②歯面研磨の有効性を説明できる ③歯面研磨を行う器具・器材を述べる ④歯面研磨剤の種類がわかる ⑤歯面研磨の手順を説明する	講義	1
33	歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯面研磨(マネキン実習) 全顎(3人1組:1人40分)	歯石除去後の歯面研磨に必要な知識、技術および態度を修得する	①歯面研磨の目的を説明できる ②歯面研磨を行う器具・器材を選択できる ③歯面研磨の準備と片付けができる ④歯面研磨および隣接面の研磨を実施できる ⑤コントラアングルハンドピースの管理ができる	実習	3
34	歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯面研磨(マネキン実習) 全顎(3人1組:1人40分×2)				
35	相互実習 (臨床予備実習)	歯面研磨(相互実習) 全顎(3人1組:1人90分)	歯石除去後の歯面研磨に必要な知識、技術および態度を修得する	①清潔・不潔の区別ができる ②滅菌器具の管理について理解し正しく取り扱うことができる ③歯面研磨の準備と片付けができる ④歯面研磨および隣接面の研磨操作を習得する ⑤患者の安全を配慮し、適切な声かけができる	実習	3
36	相互実習 (臨床予備実習)	歯面研磨(相互実習) 全顎(3人1組:1人90分)				
37	相互実習 (臨床予備実習)	歯面研磨(相互実習) 全顎(3人1組:1人90分)				
38	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	⑥口腔の器質的問題の把握 2. 検査項目 7)歯周ポケット (プロービング)	歯周組織の状態把握の為に、基本的な歯周診査の知識、技術および態度を修得する	①プロービング目的を理解する ②プローブの種類と特徴がわかる ③プローブの基本操作方法を述べる ④適正なプロービング圧がわかる ⑤ウォーキングストロークがわかる	講義	1
39	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	プロービング (マネキン実習)	歯周組織の状態把握の為に、基本的な歯周診査の知識、技術および態度を修得する	①プロービングの目的を述べる ②プローブの基本操作方法を実施できる ③ウォーキング ストロークを実施できる ④プロービング圧の感覚がわかる ⑤プロービング値の記入方法がわかる	実習	3
40	相互実習 (臨床予備実習)	プロービング(相互実習) 全顎(3人1組:1人40分)	歯周組織の状態把握の為に基本的な歯周診査の知識、技術および態度を修得する	①プローブの基本操作方法を習得する ②ウォーキング ストロークを習得する ③プロービング値を記入できる ④患者の安全を配慮し、適切な声かけができる ⑤患者に対し検査結果を説明できる	実習	3
41	相互実習 (臨床予備実習)	プロービング(相互実習) 全顎(3人1組:1人40分×2)				
42	歯科衛生介入としての歯科予防処置	①スケーリング・ルートプレーニング 1. 手用スケーラー 5)種類と操作方法ー(2)キュレットスケーラー	キュレット操作の基本を理解し、基本的な知識、技術および態度を修得する	①キュレットスケーラーの種類を述べる ②キュレットスケーラーの特徴を理解する ③キュレットスケーラーの操作方法を理解する	講義	1
43	歯科衛生介入としての歯科予防処置	部位別操作:キュレットスケーラー(マネキン実習) 下顎前歯部	キュレット操作の基本を理解し、基本的な知識、技術および態度を修得する	①キュレットスケーラー#5/6の特徴を知り用途がわかる ②操作方法の基本を習得する ③下顎前歯部の歯根面形を理解する ④人工歯顎模型下顎前歯部に対してキュレットの操作を実施できる	実習	3
44	歯科衛生介入としての歯科予防処置	部位別操作:キュレットスケーラー(マネキン実習) 上顎前歯部	キュレット操作の基本を理解し、基本的な知識、技術および態度を修得する	①キュレットスケーラー#5/6の特徴を知り用途がわかる ②操作方法の基本を習得する ③上顎前歯部の歯根面形を理解する ④人工歯顎模型上顎前歯部に対してキュレットの操作を実施できる	実習	3
45	歯科衛生介入としての歯科予防処置	部位別操作:キュレットスケーラー(マネキン実習) 下顎臼歯部	キュレット操作の基本を理解し、基本的な知識、技術および態度を修得する	①キュレットスケーラー#7/8の特徴を知り用途がわかる ②キュレットスケーラー#11/12の特徴を知り用途がわかる ③キュレットスケーラー#13/14の特徴を知り用途がわかる ④操作方法の基本を習得する ⑤下顎臼歯部の歯根面形態を理解する ⑥人工歯顎模型下顎臼歯部に対しキュレットの操作を実施できる	実習	3
46	歯科衛生介入としての歯科予防処置	部位別操作:キュレットスケーラー(マネキン実習) 上顎臼歯部	キュレット操作の基本を理解し、基本的な知識、技術および態度を修得する	①キュレットスケーラー#7/8の特徴を知り用途がわかる ②キュレットスケーラー#11/12の特徴を知り用途がわかる ③キュレットスケーラー#13/14の特徴を知り用途がわかる ④操作方法の基本を習得する ⑤上顎臼歯部の歯根面形態を理解する ⑥人工歯顎模型上顎臼歯部に対しキュレットの操作を実施できる	実習	3
47	歯科衛生介入としての歯科予防処置	部位別操作:キュレットスケーラー(マネキン実習)　全顎復習	キュレット操作の基本を理解し、基本的な知識、技術および態度を修得する	①キュレットスケーラーの特徴を述べることができる ②操作方法の基本を修得する ③人工歯顎模型全顎に対しキュレットスケーラーの基本操作を実施できる	実習	3
48	歯科衛生介入としての歯科予防処置	部位別操作:キュレットスケーラー(マネキン実習)　全顎復習				
49	歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレットスケーラー 実技試験	スケーリングの相互実習を行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①キュレットスケーラーの正しい操作ができる ②正しい固定の位置とミラーの役割がわかる ③施術歯に合わせた術者・患者の位置・MA・HRの調整ができる ④施術歯に合わせた使用スケーラーの選択ができる	試験	3
試験	歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレットスケーラー 実技試験				
50	歯科衛生介入としての歯科予防処置	1. 手用スケーラー 6)シャープニング シャープニング実習: キュレットスケーラー	シャープニングを行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①シャープニングの目的を述べる ②シャープニングに必要な器材を準備できる ③キュレットスケーラーのシャープニングができる ④刃先の研磨状態の確認ができる	試験 示説	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
51	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	⑥口腔の器質的問題の把握 2. 検査項目 7)歯周ポケット 8)歯の動揺度 ⑧分析の為のデータ 1. 指標 1)プラーク・歯石の指標 2)歯周疾患の指標	歯周組織の状態把握の為に基本的な歯周診査の知識、技術および態度を修得する	①歯周組織診査の目的を述べる ②各診査の実施方法及び手順がわかる ③診査結果の記入方法がわかる	講義	1
52	相互実習(臨床予備実習)	プロービング、AL、動揺度、OHI-CI、PMA(相互実習)全顎(3人1組:1人40分)	歯周組織の状態把握の為に基本的な歯周診査の知識、技術および態度を修得する	①歯周組織診査の目的を述べる ②各診査の実施方法及び手順を理解し実施できる ③診査結果を記録用紙に記入できる ④患者の安全を配慮し、適切な声かけができる	実習	3
53	相互実習(臨床予備実習)	プロービング、AL、動揺度、OHI-CI、PMA(相互実習)全顎(3人1組:1人40分×2)				
54	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	相互実習準備:症例検討 ①情報の収集と分析、グループワーク	歯周疾患の予防及び治療のため・スケーリングの相互実習を行うために必要な知識及び技術を習得する	①歯科衛生過程の概要を説明できる ②情報を収集し書面化できる ③グループでまとめたレポートを発表できる ④発表を評価できる	講義 示説	3
55	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	相互実習準備:症例検討 ①情報の収集と分析、グループワーク				
56	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)上下顎前歯部(3人1組:1人90分)	歯周疾患の予防及び治療のために必要な知識及び技術を習得する	①清潔・不潔の区別ができる ②スケーリングの準備と片付けができる ③上下顎前歯部に対するスケーリング操作を習得する ④情報収集の項目を理解し記録できる ⑤患者に対し適切な声かけができる	実習	3
57	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)上下顎前歯部(3人1組:1人90分)				
58	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)上下顎前歯部(3人1組:1人90分)				
59	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)下顎臼歯部(3人1組:1人90分)	歯周疾患の予防及び治療のために必要な知識及び技術を習得する	①清潔・不潔の区別ができる ②スケーリングの準備と片付けができる ③下顎臼歯部に対するスケーリング操作を習得する ④情報収集の項目を理解し記録できる ⑤患者に対し適切な声かけができる	実習	3
60	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)下顎臼歯部(3人1組:1人90分)			実習	3
61	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)下顎臼歯部(3人1組:1人90分)			実習	3
62	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)上顎臼歯部(3人1組:1人90分)	歯周疾患の予防及び治療のために必要な知識及び技術を習得する	①清潔・不潔の区別ができる ②スケーリングの準備と片付けができる ③上顎臼歯部に対するスケーリング操作を習得する ④情報収集の項目を理解し記録できる ⑤患者に対し適切な声かけができる	実習	3
63	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)上顎臼歯部(3人1組:1人90分)			実習	3
64	相互実習(臨床予備実習)	部位別操作:キュレットスケーラー(相互実習)上顎臼歯部(3人1組:1人90分)			実習	3
65	歯科衛生介入としての歯科予防処置	シャープニング実習:キュレットスケーラー	シャープニングを行うために必要な基礎知識及び技術を習得する	①シャープニングの目的を述べる ②シャープニングに必要な器材を準備できる ③シャープニングの基本操作を実施できる ④刃先の研磨状態の確認ができる	実習	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
66	う蝕の基礎知識	口腔内の付着物・沈着物 プラークの形成過程、成分・分類・う蝕とは	う蝕の性質について理解する	①口腔内の付着物・沈着物をあげる ②う蝕発生のメカニズムについて説明する ③う蝕の分類を説明できる ④う蝕発生要因について説明する	講義	1
67	う蝕予防の基礎	う蝕予防処置の基礎知識(種類と選択)	う蝕の性質とその予防法について理解する	①う蝕発生要因について説明する ②う蝕発生要因に対する予防法を説明する	講義	1
68	う蝕活動性試験	①基礎知識 ②評価方法の種類と特徴	う蝕活動性とは何かを知るとともに、う蝕活動性試験の性質を理解する	①う蝕活動性について説明する ②う蝕活動性試験について説明する ③う蝕活動性試験の性質を述べる ④う蝕発病因子の評価方法の種類を述べる	講義	1
69		③う蝕活動性試験の分類	う蝕活動性試験の種類を理解する	①う蝕活動性試験の種類を述べる ②う蝕活動性試験の評価結果に基づく予防と治療を予測する	講義	1
70		④う蝕活動性試験の実際 (RDテスト、カリオスタット、DMF歯率の計算)	う蝕活動性試験の種類を理解し、実際に応用し、判定する	①RDテストの手順を述べる ②RDテストを適確に実施する ③RDテストの結果の判定方法を述べる ④DMF歯率を正しく計算する	実習	3
71		ワークショップ ― 全体発表	グループワークを通して、う蝕活動性試験の評価結果の活用を理解する	①う蝕活動性試験の結果から、口腔内の状況を考察する ②DMF歯率と試験結果を照らし合わせデータの分析を行う ③グループワークで自分の意見を述べることができる	演習	2
72	フッ化物応用の基礎知識	①フッ化物の基礎知識 ②フッ化物の作用機序 (う蝕予防におけるフッ化物作用メカニズムの理解)	フッ化物によるう蝕予防について理解する	①様々なフッ化物応用の種類と分類を述べる ②フッ化物の性質について説明する ③フッ化物の代謝について説明する ④フッ素のう蝕抑制機序を説明する	講義	1
73		③フッ化物による中毒	フッ化物の中毒について理解する	①フッ化物の中毒について説明する ②最小中毒量について理解する ③急性中毒の対処法について説明する ④慢性中毒について説明する	講義	1
74		フッ素予備知識	フッ化物の組成を理解し、フッ化物溶液内のフッ素量の計算法を身につける	①フッ化物の組成を理解する ②フッ化物溶液内のフッ素量を算出する ③フッ化物の急性中毒発現溶液量を算出する ④急性中毒発現溶液量に相当する綿球数を算出する	講義	1
75		フッ化物の計算	フッ化物の中毒量の算出方法を身につける	①フッ化物溶液内のフッ素量を算出する ②フッ化物の急性中毒発現溶液量を算出する ③急性中毒発現溶液量に相当する綿球数を算出する	講義	1
76	フッ化物応用(フッ化物塗布)	フッ化物溶液の安全性	フッ化物溶液の安全性について理解する	①フッ化物の急性中毒発現量を算出する ②フッ化物の急性中毒発現溶液量を算出する	演習	1
77		フッ化物歯面塗布法	フッ化物応用とう蝕予防処置法を知り、フッ化物歯面塗布法について理解する	①フッ化物歯面塗布の目的について説明する ②フッ化物歯面塗布に用いられるフッ化物の特徴を述べる ③フッ化物の保管方法について理解する ④フッ化物歯面塗布法の術式を理解する ⑤フッ化物歯面塗布後の注意を述べる	講義	1
78	フッ化物応用の基礎知識	フッ化物の予防効果 (卵を使って効果を知る)	フッ化物の効果を視覚的に知り、考察する	①フッ化物の効果を説明する ②口腔内のpHの変化を予測する ③歯牙の脱灰について調べる ④グループで協力して実習を進める	実習	3
79					実習	3
80	う蝕の予防処置実技	綿球法によるフッ化物溶液歯面塗布法実習	綿球塗布法によるフッ化物溶液歯面塗布法について理解する	①フッ化物溶液綿球塗布法の術式を説明する ②フッ化物溶液綿球塗布法を実施する ③患者に対し適切な声掛けを行う ④フッ化物歯面塗布後の注意をわかりやすく伝える	実習	3
81					実習	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
82	う蝕の予防処置実技	トレー法によるフッ化物フォーム応用実習	トレー法によるフッ化物溶液歯面塗布法について理解する	①トレー法の術式を説明する ②トレー法を実施する ③患者に対し適切な声掛けを行う ④フッ化物歯面塗布後の注意をわかりやすく伝える	実習	3
83					実習	3
84	う蝕の予防処置実技	フッ化物溶液イオン導入法実習	フッ化物溶液イオン導入法について理解する	①イオン導入法の原理を述べる ②イオン導入の器械を準備する ③イオン導入法を実施する ④患者に対し適切な声掛けを行う ⑤フッ化物歯面塗布後の注意をわかりやすく伝える	実習	3
85					実習	3
86	う蝕の予防処置実技	歯ブラシ法によるフッ化物ゲル歯面塗布実習	歯ブラシ法によるフッ化物ゲル歯面塗布について理解する	①フッ化物ゲルの利点欠点を説明する ②歯ブラシ法の術式を説明する ③フッ化物ゲル歯ブラシ法を実施する ④患者に対し適切な声掛けを行う ⑤フッ化物歯面塗布後の注意をわかりやすく伝える	実習	3
87					実習	3
88	フッ化物応用(フッ化物洗口・フッ化物配合歯磨剤)の基礎知識	フッ化物洗口法について	フッ化物洗口法について理解する	①フッ化物洗口法の特徴を説明する ②フッ化物洗口法の種類を理解する ③フッ化物洗口法の術式を述べる ④フッ化物洗口法の注意事項を理解する	講義	1
89		フッ化物配合歯磨剤について	フッ化物配合歯磨剤について理解する	①フッ化物配合歯磨剤の特徴を説明する ②フッ化物配合歯磨剤の種類を理解する ③フッ化物配合歯磨剤の応用方法を説明する ④フッ化物配合歯磨剤の効果を理解する	講義	1
90	う蝕の予防処置実技	フッ化物洗口法、フッ化物配合歯磨剤使用の実際	フッ化物洗口法・フッ化物配合歯磨剤について理解する	①フッ化物洗口液を調合する ②フッ化物洗口を実施する ③年齢に応じたフッ化物配合歯磨剤の使用量を理解する ④フッ化物配合歯磨剤を用いた効果的なブラッシングを実施する ⑤洗口・ブラッシング後の注意を説明する	実習	3
91	フッ化物応用の基礎知識	フッ化ジアンミン銀塗布法について	フッ化ジアミン銀の応用について理解する	①フッ化ジアンミン銀塗布法について理解する ②フッ化ジアンミン銀の性質を説明する ③フッ化ジアンミン銀のう蝕予防機序を説明する ④フッ化ジアンミン銀の適応を理解する ⑤フッ化ジアンミン銀塗布の術式を述べる ⑥フッ化ジアンミン銀塗布の注意事項を理解する	講義	1
92	う蝕の予防処置実技	フッ化ジアミン銀溶液の特徴について(着色実習)	フッ化ジアンミン銀溶液の特徴について理解する	①フッ化ジアンミン銀溶液の特徴を説明する ②フッ化ジアンミン銀溶液の着色(黒変)作用を理解する ③フッ化ジアンミン銀溶液が付着した布の脱色ができる ④フッ化ジアンミン銀溶液が付着した布の脱処理法を具体的に述べる ⑤フッ化ジアンミン銀溶液の処理ができる	実習	3
93	う蝕の予防処置実技	染み抜き実習			実習	3
94	う蝕の予防処置	小窩裂溝填塞法について(基礎知識、填塞材の種類と方法)	小窩裂溝填塞法について理解する	①小窩裂溝填塞とは何か、その効果、作用機序を説明する ②小窩裂溝填塞法の適応症と禁忌症を弁別する ③小窩裂溝填塞法の基本的な術式と填塞後の保健指導の方法を述べる	講義	1
95		小窩裂溝填塞法について(術式、器具器材の取り扱いと管理)			講義	1
96	う蝕の予防処置実技	小窩裂溝填塞法マネキン実習	小窩裂溝填塞法の基本的な術式を実施する	①小窩裂溝填塞材の種類を知る ②小窩裂溝填塞を術式に沿って行う ③小窩裂溝填塞に使用する器材を正しく操作する ④小窩裂溝填塞を安全に実施する	実習	3
97	う蝕の予防処置実技	小窩裂溝填塞法相互実習	小窩裂溝填塞法を習得する	①適確にラバーダム防湿を行う ②小窩裂溝填塞の術式に沿って行う ③小窩裂溝填塞に必要な器具を準備する ④患者に対して適切な言葉かけ、応対をする	実習	3
98					実習	3
99	う蝕の予防処置	臨床におけるう蝕予防処置	臨床におけるう蝕予防処置について理解する	①生涯を通じた歯科保健対策を列挙する ②集団応用におけるう蝕予防処置法述べる	講義	1
100	偶発事故の防止と対策	術者側の事故患者に対する事故	偶発事故について学び、その対策や処置法について学ぶ	①偶発事故の処理法を述べる ②インシデントとアクシデントを説明する ③インシデントの要因を列挙する ④診療室で考えられるインシデントとその防止策を述べる	講義	1

第２学年

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	授業方法	指導者数
1	歯科衛生介入のための歯科予防処置	①スケーリング 1. 超音波スケーラー 2. エアスケーラー	歯周疾患の予防、治療のために必要な超音波・エアスケーラーの基礎知識及び技術を身に付ける	①超音波スケーラーの種類と特徴を説明できる ②エアスケーラーの種類と特徴を説明できる ③超音波・エアスケーラーの原理を説明できる ④超音波スケーラー・エアスケーラーを準備する	講義	1
2					実習	3
3	歯科衛生介入のための歯科予防処置	①スケーリング 1. 超音波スケーラー 2. エアスケーラー マネキン実習	歯周疾患の予防、治療のために必要な超音波・エアスケーラーの基礎知識及び技術を身に付ける	①超音波スケーラーの種類と特徴を説明できる ②エアスケーラーの種類と特徴を説明できる ③超音波・エアスケーラーの原理を説明できる ④超音波スケーラー・エアスケーラーを準備する	実習	3
4					実習	3
5	相互実習（臨床予備実習）	超音波スケーラー・エアスケーラー相互実習	歯周疾患の予防、治療のために必要な超音波・エアスケーラーの基礎知識及び技術を身に付ける	①医療面接を行い必要な情報を選択する ②口腔状態から適切なチップを選択する ③基本的な操作方法（使用角度、ストローク）で操作する ④実施部位に応じたHR・MA・術者の位置を選択する	実習	3
6					実習	3
7	相互実習（臨床予備実習）	超音波スケーラー・エアスケーラー相互実習	歯周疾患の予防、治療のために必要な超音波・エアスケーラーの基礎知識及び技術を身に付ける	①医療面接を行い必要な情報を選択する ②口腔状態から適切なチップを選択する ③バキューム操作を的確に行う ④患者に不快感を与えないように配慮する ⑤基本的な操作方法（使用角度、ストローク）で操作する ⑥実施部位に応じたHR・MA・術者の位置を選択する	実習	3
8					実習	3
9	歯科衛生過程の進め方	①歯科衛生過程の概要 ②歯科衛生アセスメント ③歯科衛生診断 ④歯科衛生計画立案 ⑤歯科衛生介入 ⑥歯科衛生評価	対象者に合わせた歯周疾患の予防、治療を行うために必要な歯科衛生過程における考え方と展開方法について理解する	①歯科衛生過程の6つの要素を説明する ②歯科衛生アセスメントについて説明する ③歯科衛生診断について説明する ④優先順位の決定方法を説明する ⑤目標設定の留意点を説明する ⑥歯科衛生介入と評価について説明する ⑦X線線写真、口腔内写真から必要な情報を読み取る	演習	1
10	歯科衛生介入のための歯科予防処置	第1回総合実習 オリエンテーション 実習準備	総合実習の流れを把握し、対象者に合わせた対応を実践するために知識、技術、態度を身につける	①総合実習の流れを確認する	講義	1
11	相互実習（臨床予備実習）	相互実習（第1回総合実習のリハーサル）医療面接、口腔内観察、歯周組織検査、ブラッシング指導、スケーリング、PMTC	総合実習の流れを把握し、対象者に合わせた対応を実践するために知識、技術、態度を身につける	①実習の流れを把握し時間を考えて実施する ②スムーズに時間内に終わるよう工夫する ③医療面接を行い必要な情報を選択する ④口腔内に合った器具、材料を選択する ⑤必要に応じて患者に声掛けし配慮する ⑥収集した情報から対象者の問題点を列挙する ⑦問題点を患者にわかりやすく説明する ⑧計画内容を見直す	実習	3
12					実習	3
13	相互実習（臨床予備実習）	相互実習（第1回総合実習のリハーサル）医療面接、口腔内観察、歯周組織検査、ブラッシング指導、スケーリング、PMTC			実習	3
14					実習	3
15	総合実習	第１回総合実習 医療面接、口腔内観察、口腔内写真撮影、歯周組織検査、ブラッシング指導、スケーリング、PMTC（術者）複式	患者対応を身に付けるために、歯科保健指導、歯科予防処置、歯科診療補助の実践を通して知識、技術、態度を習得する	①質問票から患者の情報収集を行い、必要に応じて問診及び指導者への報告を行う ②患者に対して適切な言葉かけを行う ③パノラマ撮影、口腔内写真撮影、印象採得などの必要性を患者にわかりやすく説明し、患者の協力を得ると共に患者に負担を掛けないように実施する ④口腔内診査の必要性を患者にわかりやすく説明し、得られた結果から患者が納得する説明を行う ⑤患者の口腔内に合わせたワンポイントブラッシングやスケーリングを実施することで患者の口腔衛生に対するモチベーションを高める ⑥患者の安全安楽を考慮した援助を行う ⑦清潔・不潔を意識して行動する	実習	3
16					実習	3
17		第１回総合実習 医療面接、口腔内観察、口腔内写真撮影、歯周組織検査、ブラッシング指導、スケーリング、PMTC（アシスタント）複式			実習	3
18					実習	3
19	歯科衛生過程の進め方	①歯科衛生過程の概要 ②歯科衛生アセスメント ③歯科衛生診断 ④歯科衛生計画立案 ⑤歯科衛生介入	歯周疾患の予防及び治療を行うために対象者に合わせた口腔保健管理の方法を習得する	①収集した情報から問題点を列挙する ②必要な情報を分類する ③情報を歯科衛生診断に応用する ④歯科衛生診断より歯科衛生計画を考える ⑤わかりやすい言葉を用いて指導票を作成する	演習	1
20					演習	1

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
21	ライフステージにおける歯科衛生介入	第1回 総合実習のまとめ 歯周治療の継続管理	歯周疾患の予防及び治療を行うために対象者に合わせた口腔保健管理の方法を習得する	①収集した情報から問題点を列挙する ②必要な情報を分類する ③情報を歯科衛生診断に応用する ④歯科衛生診断より歯科衛生計画を考える ⑤わかりやすい言葉を用いて指導票を作成する	演習	1
22					演習	1
23	歯科衛生介入のための歯科予防処置	②歯面研磨・歯面清掃(PTC) 2. 歯面清掃 1)プロフェッショナルメカニカルトゥースクリーニング	歯周疾患の予防、治療のために必要なPMTCの基礎知識及び技術を身に付ける	①PMTCの目的と特徴を説明できる ②PMTCの必要性を説明できる ③PMTCを行う器材を選択できる ④PMTCの方法を選択し、実施できる	講義	1
24		②歯面研磨・歯面清掃(PTC) 2. 歯面清掃 1)プロフェッショナルメカニカルトゥースクリーニング マネキン実習			実習	3
25	相互実習 (臨床予備実習)	PMTC 相互実習	歯周疾患の予防、治療のために必要なPMTCの基礎知識及び技術を身に付ける	①PMTCの必要性を説明できる ②PMTCを行う器材を選択できる ③PMTCの方法を選択し、実施できる	実習	3
26					実習	3
27	歯科衛生介入のための歯科予防処置	②歯面研磨・ 歯面清掃(PTC) 2. 歯面清掃 2)歯面清掃器	歯周疾患の予防、治療のために必要な歯面清掃器の基礎知識及び技術を身に付ける	①歯面清掃の目的と特徴を説明できる ②歯面清掃の必要性を説明できる ③歯面清掃を行う器材を選択できる ④歯面清掃の方法を選択し、実施できる	講義	1
28		②歯面研磨・ 歯面清掃(PTC) 2. 歯面清掃 2)歯面清掃器 マネキン実習			実習	3
29	相互実習 (臨床予備実習)	歯面清掃器相互実習	歯周疾患の予防、治療のために必要な歯面清掃器の基礎知識及び技術を身に付ける	①医療面接を行い必要な情報を選択する ②歯面清掃器の準備、片付けができる ③患者に不快感を与えないように配慮する ④基本的な操作方法(使用角度、動かし方)で操作する ⑤実施部位に応じたHR・MA・術者の位置を選択する	実習	3
30					実習	3
31	歯科衛生介入のための歯科予防処置	第２回総合実習 オリエンテーション 実習準備	総合実習の流れを把握し、対象者に合わせた対応を実践するために知識、技術、態度を身につける	①総合実習の流れを確認する ②摂食・嚥下スクリーニング検査の手順、評価方法を理解する	講義	1
32					実習	1
33	相互実習 (臨床予備実習)	相互実習 (第２回総合実習リハーサル) 医療面接、 口腔内観察、 歯周組織検査、 ブラッシング指導、 スケーリング、 PMTC	総合実習の流れを把握し、対象者に合わせた対応を実践するために知識、技術、態度を身につける	①実習の流れを把握し時間を考えて実施する ②スムーズに時間内に終わるよう工夫する ③医療面接を行い必要な情報を選択する ④口腔内に合った器具、材料を選択する ⑤必要に応じて患者に声掛けし配慮する ⑥収集した情報から対象者の問題点を列挙する ⑦問題点を患者にわかりやすく説明する ⑧計画内容を見直す	実習	3
34					実習	3
35	総合実習	第２回総合実習 医療面接、 口腔内観察、 口腔内写真撮影、 歯周組織検査、 ブラッシング指導、 スケーリング、 PMTC (術者)複式	患者対応を身に付けるために、 歯科保健指導、 歯科予防処置、 歯科診療補助の実践を通して知識、技術、態度を習得する	①質問票から患者の情報収集を行い、必要に応じて問診及び指導者への報告を行う ②患者に対して適切な言葉かけを行う ③デンタル撮影、口腔内写真撮影などの必要性を患者にわかりやすく説明し、患者の協力を得ると共に患者に負担を掛けないように実施する ④前回の口腔内診査の結果と今回の結果を比較し、適切な指導を行う ⑤患者の口腔内に合わせたワンポイントブラッシングやスケーリングを実施することで患者の口腔衛生に対するモチベーションを高める ⑥前回の結果をもとに問題点の抽出、アセスメント、ケア計画を立て、それに応じた計画を実施する ⑦患者の安全安楽を考慮した援助を行う	実習	3
36					実習	3
37		第2回総合実習 医療面接、 口腔内観察、 口腔内写真撮影、 歯周組織検査、 ブラッシング指導、 スケーリング、 PMTC (アシスタント)複式			実習	3
38					実習	3
39	ライフステージにおける歯科衛生介入	第2回総合実習のまとめ歯周治療の継続管理 再検査・リコール	歯周疾患の予防及び治療を行うために対象者に合わせた口腔保健管理の方法を習得する	①歯科衛生介入と業務記録について説明できる ②歯科衛生評価について説明できる ③実施した計画を見直し、修正を行う ④わかりやすい言葉を用いて指導票を作成する	演習	1
40					演習	1

第３学年

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	授業方法	指導者数
1	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の演習 ①歯科衛生アセスメント ②歯科衛生診断 ③歯科衛生計画立案 ④歯科衛生介入 ⑤歯科衛生評価	対象者に合わせた歯周疾患の予防、治療を行うために必要な歯科衛生過程における考え方と展開方法について理解する	①歯科衛生過程の5つの要素を説明する ②歯科衛生アセスメントについて説明する ③歯科衛生診断について説明する ④優先順位の決定方法を説明する ⑤目標設定の留意点を説明する ⑥歯科衛生介入と評価について説明する	講義	1
					演習	1
2	ライフステージにおける歯科衛生活動	症例検討： グループワーク （学齢期、青年期、成人期、老年期）	対象者に合わせた歯周疾患の予防、治療を行うために必要な歯科衛生過程における考え方と展開方法について理解する	①ライフステージの分類を理解する ②各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴を述べる ③情報をニーズに沿って整理することができる ④原因句と診断句に分けて診断文を立てることができる ⑤優先順位を決定する ⑥対象者に合わせた内容の計画を立案する	演習	1
3			対象に応じたケア計画の立案を行うための情報の分析、問題点の抽出方法を習得する		演習	1
4			対象者に合わせた歯科衛生介入のための歯科衛生介入方法の選択、計画立案の方法を習得する		演習	3
5	臨床における歯科衛生活動	歯科診療所臨床実習先の対象者における症例検討 ①歯科衛生アセスメント ②歯科衛生士診断 ③歯科衛生計画立案 ④歯科衛生介入 ⑤歯科衛生評価	各ライフステージの特徴を把握し、対象者に必要な予防管理法を身に付ける	①臨床例を通して、歯科衛生士の業務を把握する ②歯周病患者に対する歯科予防処置や歯科保健指導を理解する ③各症例について歯科衛生過程に沿ってまとめる ④発表の媒体を作成する	演習	1
6						
7						
8						
9						
10		報告会・発表媒体 作成 ①歯科医院紹介 ②症例紹介 ③経過 ④考察 報告会・発表シナリオ作成				
11						
12						
13		報告会・発表媒体 作成 ①歯科医院紹介 ②症例紹介 ③経過 ④考察 報告会・発表シナリオ作成				
14						
15		ケースプレゼンテーション （歯科診療所臨床実習レポート報告会のリハーサル） レポート報告会準備	各ライフステージの特徴を把握し、対象者に必要な予防管理法を身に付ける	①レポート報告会当日の流れを確認する	演習	3
16					演習	3
17	臨床における歯科衛生活動 （歯科診療所臨床実習レポート報告会）	ケースプレゼンテーション ライフステージにおける歯科衛生介入	各ライフステージの特徴を把握し、対象者に必要な予防管理法を身に付ける	①まとめたことをわかりやすく、伝達する ②臨床例を通して、歯科衛生士の業務を把握できる ③う蝕リスクが高い患者に対する歯科予防処置や歯科保健指導を理解できる ④歯周病患者に対する歯科予防処置や歯科保健指導を理解できる ⑤各ライフステージ別の予防管理、歯科治療について確認する	演習	3
18						
19					演習	3
20						

学科目名	栄養指導

履修学年	第１学年	時 間 数	45時間
履修時期	前期・後期	単　　位	2

授業目標　食生活を支える食行動は、技術や文化の発展により時代とともに変化している。厚生労働省は、生活習慣病を予防し改善するために「健康日本 21」をスタートさせた。歯の健康も生活習慣や生活の質とのかかわりが深く、「食べる」ということは口腔機能と密接なかかわりをもっている。

歯科診療行動の一環として、食生活上の改善を必要とする患者に対し系統的かつ科学的な指導ができるように求められている。ここでは、歯科保健指導および歯科衛生教育においてライフステージ別に栄養・食生活ができることを目指すための基礎知識を修得する。また、個々の食生活の把握、分析、指導目標、食事計画の立て方などについて演習を行う。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能２　栄養と代謝』医歯薬出版
参 考 書　『新食品法 FOODS2018』東京法令出版株式会社　歯科衛生士 書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編
評価方法　定期試験　　出席については厳密にカウントする　　レポート　　受講態度
担 当 者　古谷 奈美

回	授業項目	授　業　内　容
1	Ⅲ編　栄養の基礎 １章　栄養の基礎知識 １－食生活と栄養	1. 栄養の知識を学ぶ理由　　2. 日本人の栄養摂取状況
2	２－栄養の消化･吸収	1. 消化作用の仕組み　　2. 日本人の栄養摂取
3		3. 栄養素の消化　　4. 栄養素の吸収
4		5. 栄養素の役割
5	２章　食事摂取基準 １－推定エネルギー必要量	1. 食物のエネルギーについて　　2. 個人の推定エネルギー必要量の求め方 3. 脂肪エネルギー比率について　　4. 付加運動によるエネルギー消費量の増加
6	２－基礎代謝	1. 基礎代謝量　　2. 基礎代謝量に影響する因子
7	３－日本人の食事摂取基準	1.「日本人の食事摂取基準」の意義　　2. 日本人の食事摂取基準 3.「日本人の食事摂取基準」の基本的な活用方法 4.「日本人の食事摂取基準」の使用にあたっての留意点
8	３章　栄養素の働き １－糖質の栄養的意味	1. 糖質の種類　　2. 糖質の栄養的意味
9	２－タンパク質の栄養的意味	1. タンパク質の種類　　2. タンパク質の栄養的意味
10	３－脂質の栄養的意味	1. 脂質の種類　　2. 脂質の栄養的意味
11	４－ビタミンの栄養的意味	1. ビタミンの種類　　2. ビタミンの栄養的意味
12	５－ミネラルの栄養的意味	1. ミネラルの種類　　2. ミネラルの作用と欠乏･過剰症
13	６－水の栄養的意味	1. 水の働きと代謝　　2. 水の必要量と給源
14	７－食物繊維の栄養的意味	1. 食物繊維の働き　　2. 食物繊維の摂取量と給源
15	Ⅳ編　食生活と食品 １章　食生活と健康 １－国民の健康と栄養の現状	1. 食生活の変遷と疾病構造の変化　　2. 国民栄養の現状と課題
16	２－望ましい食生活	1. 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み　2. 食事環境　　3. 食事計画
17	３－ライフステージ別の栄養と調理	1. 成長期における栄養と調理の特性　　2. 成人期における栄養と調理の特性 3. 高齢期における栄養と調理の特性
18	２章　食べ物と健康 １－食品の成分と分類	1. 食品成分表　　2. 食事計画に用いる食品分類
19	２－食べ物の特性	1. 食べ物のおいしさ　　2. 食べ物の物性･テクスチャー
20	栄養指導演習－１	調理について 1. 調理器具、エネルギー源　　2. 調理操作（非加熱、加熱、調味操作）
21	栄養指導演習－２	①2～3日分の食事記録を記録させる ②記録をもとに食品群の分類を行いくもの巣グラフを作成させる ③日常食べている食品を分類することにより自分の栄養バランスについて知る
22	栄養指導演習－３	①食事記録を栄養分析する ②アトウォーター係数の理解を深める ③分析結果をグラフに作成し、栄養所容量と比較する
23	栄養指導演習－４	①自分のBMIおよび体脂肪率を測定する ②栄養所要量との関係や食生活習慣について考察を行う

学科目名	歯科保健指導法

実務経験のある教員による科目
※詳細はP.79教員一覧に記載

履修学年	第１学年	第２学年	第３学年
履修時期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
時間数	80時間	120時間	40時間
単位	2	3	1

授業目標

全身の健康と口腔とを関連付けた好ましい歯科保健行動が取れるように専門的立場から支援できる基本的な知識、技術および態度を習得する。

ライフステージに応じた歯科保健行動の変容を支援するために必要な専門的な知識、技術、態度を身につける。

教科書　歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ『保健生態学』医歯薬出版

参考書　歯科衛生学シリーズ『よくわかる歯科衛生過程』医歯薬出版
歯科衛生学シリーズ『障害者歯科学』医歯薬出版

評価方法　実技試験　受講態度　出席状況　定期試験　観察記録
レポート他提出物　口頭試問

担当者　植木 美佐　牧原 真代　加藤 由香　宇野 利恵

第１学年

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
1	総論	歯科保健指導論概要 1. 歯科保健指導の定義 2. 歯科保健指導論の考え方 3. 歯科保健指導の法的な位置づけ	歯科保健指導論の概要を知る	①歯科衛生士の法的な位置づけを述べる ②歯科保健指導の定義を述べる ③歯科保健指導の内容を述べる	講義	1
2	総論	健康の概念 1. 健康とは 2. 日本の健康増進対策 予防の概念 1. 第一次予防 2. 第二次予防 3. 第三次予防	歯科保健指導を行う為に、世界や国の健康増進対策を理解する	①健康の定義を述べる ②プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの健康戦略の概要を説明する ③健康日本21の基本的な方針を述べる ④予防の概念と手段を述べる	講義	1
3	歯科保健指導の基礎知識	口腔機能 1. 口腔の機能 2. 摂食･嚥下の仕組み	口腔の機能について理解する	①口腔の機能を6種類に分類する ②各種の機能を説明する ③摂食･嚥下過程を述べる ④食物の移動の過程を5期に分ける ⑤各期の口腔の働きを説明する	講義	1
4	歯科保健指導実施のための基礎知識	行動変容の要素とそのステップ 1. 歯科専門知識の習得 2. 行動変容に関する理論 3. 行動変容を促す行動理論の実践	歯科保健指導を実施するための行動変容理論を理解する	①行動変容に関連する2つのモデルと2つの理論を述べる ②行動変容ステージの構成概念を述べる ③行動変容ステージの5つのステージを説明する ④ストレスとストレスコーピングについて説明する ⑤認知行動療法について説明する	講義	1
5		食生活指導(栄養指導)の基礎 1. 食生活および食習慣の把握 2. 食品とう蝕誘発性 3. 咀嚼と食品	食生活指導(栄養指導)の基礎を理解する	①食生活･食習慣の背景を知り現代における問題点を説明する ②食品とう蝕の関連性を説明する ③咀嚼の働きを知りその活用を説明する ④う蝕予防のための食品摂取方法を説明する	講義	1
6					講義	1

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
7	口腔清掃方法	機械的プラークコントロール 歯ブラシの特徴・ 歯ブラシの種類 歯垢染色剤について	口腔清掃法に必要な知識を習得・理解する	①口腔清掃の目的を述べる ②歯垢染色剤の種類を述べる ③歯垢染色剤の使用方法・注意点を述べる ④口腔衛生管理の目的を述べる ⑤歯ブラシの使用目的を述べる ⑥歯ブラシの各部の名称を述べる ⑦歯ブラシの各部の形態を述べる ⑧使用中の歯ブラシの形態を記述する	講義	1
8		機械的プラークコントロール (ブラッシング法) ①毛先を使った方法 ②毛のわき腹を使った方法	歯ブラシの使用部位に応じたブラッシング方法を習得する	①歯ブラシの使用部位が分かる ②ブラッシング法の種類を述べる ③各ブラッシング法の適応を述べる ④各ブラッシング法の特徴を述べる ⑤適切な操作法を述べる	講義	1
9	口腔清掃方法実習	機械的プラークコントロール ブラッシングテクニック (顎模型)		①歯ブラシを適切に持つ ②歯ブラシを適切な角度に当てる ③ブラッシング箇所・方法に合わせた歯ブラシの使用部位を選択する ④顎模型上で適切な操作を実施する	演習	3
10	口腔清掃方法	機械的プラークコントール 各種・補助的清掃用具の種類と特徴(デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ)	口腔清掃に必要な補助的清掃用具の知識・技術を身につける	①補助的清掃用具の種類を説明する ②補助的清掃用具の特徴・適応を説明する ③補助的清掃用具の使用時の注意点を述べる ④補助的清掃用具の操作方法を述べる ⑤操作時における注意点を述べる	講義	1
11		補助的清掃用具についてⅠ (デンタルフロス、歯間ブラシ、その他)			講義	1
12	口腔清掃方法実習	補助的清掃用具の 取り扱い実習Ⅰ	用途に合わせた補助的清掃用具の使用方法を習得する	①デンタルフロスの保持の仕方が分かる ②デンタルフロスで歯肉溝隣接面の清掃を行う ③歯間ブラシ挿入時の方向が分かる ④歯間ブラシの操作方法が分かる ⑤タフトブラシの操作方法が分かる	実習	3
13	口腔清掃方法実習	口腔内清掃方法　マネキン実習 ブラッシングテクニック (歯ブラシ、フロス、歯間ブラシ)	マネキンを用いて適切な口腔清掃法を実施する	①各ブラッシング法を部位に合わせ適切に操作する ②デンタルフロスを適切に操作する	実習	3
試験	口腔清掃方法	口腔清掃方法(ブラッシング・フロッシング)実技試験	各種のブラッシング方法・デンタルフロスの操作を理解し、技術を習得する	①各種のブラッシング方法の特徴を理解し、実施する ②デンタルフロスの操作方法を理解し、的確に操作する ③適応について述べる	試験	3
試験		口腔清掃方法(ブラッシング・フロッシング)実技試験				
14 15 16	分析のためのデータ	指数 1)プラーク・歯石の指数(PCR、PII、PHP) 2)歯周疾患の指数(PMAindex) 3)プラーク・歯石の指数(OHI・OHI-S)	口腔清掃状態を評価するために、プラーク・歯石を数値化し指数を求める	①指標の対象歯を述べる ②判定基準を説明する ③計算式に基づき数値を求める	講義	1
17	口腔清掃方法	化学的プラークコントロール 1.洗口剤　2.歯磨剤 3.保湿剤	化学的プラークコントロールについて理解する	①法律による分類を述べる ②薬用成分の目的・作用を述べる ③洗口液と洗口剤の特徴と使用方法を述べる ④保湿剤の特徴と使用方法を述べる	講義	1
18	口腔清掃方法	補助的清掃用具についてⅡ (電動歯ブラシ)	電動歯ブラシの種類を理解し、使用方法を習得する	①電動歯ブラシの種類を述べる ②各電動歯ブラシの特徴・適応を述べる ③使用方法を述べる ④注意点を述べる	講義	1
19	口腔清掃方法実習	補助的清掃用具の取り扱い実習Ⅱ(電動歯ブラシ)	電動歯ブラシの使用方法を習得する	①電動歯ブラシを口腔内で的確に操作する ②電動歯ブラシの使用感を述べる	実習	3
20	口腔清掃方法実習	口腔状況の把握 オレリーのPCR、PMA、歯口清掃指数測定法	口腔清掃状態を評価するために、歯垢染色剤を用いてプラーク付着の有無を確認し、効果的なブラッシングについて考察する	①口腔内の状態を観察する ②歯垢染色剤の使用を適切に行う ③染め出された部位の観察をする ④歯頸部の染色状況を読み取りPCRチャートに記入する ⑤PCRを計算する ⑥歯垢の落としやすい歯ブラシの当て方を工夫する	実習	3
21	口腔清掃方法実習	口腔内清掃方法　相互実習 ブラッシングテクニック (歯ブラシ、フロス、歯間ブラシ、その他)	患者の口腔内で各種ブラッシング方法、補助的清掃用具(デンタルフロス)を実施する	①歯垢染色液を安全に取り扱う ②各ブラッシング方法を適切に口腔内で実施する ③デンタルフロスを口腔内で正しく操作する	実習	3
22						
23	口腔清掃方法演習	清掃用具の選択と使用法について(各清掃用具について実習済み)ワークショップ	症例から口腔内情報を読み取り、状態に合わせた清掃用具の選択、方法を身につける	①口腔内写真より情報を読み取る ②対象にあった清掃用具、使用方法を提案する ③グループワークに参加する	演習	1

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
24	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要 歯科衛生過程の各構成要素 (歯科衛生アセスメント) 歯科衛生診断 (問題の明確化)	歯科衛生過程を実施するために、考え方と展開方法について理解する	①歯科衛生過程の6つの構成要素を述べる ②ヒューマンニーズモデルを使用し、情報の整理を行う ③歯科衛生過程・クリティカルシンキングを説明する ④歯科衛生診断文の表現方法を説明する ⑤歯科衛生診断の3つのタイプを述べる ⑥情報の分析を行う	講義	1
25		歯科衛生計画案(優先順位の決定、目標の設定、歯科衛生介入方法の決定) 歯科衛生介入(歯科衛生計画の実施) 歯科衛生評価・記録 (プロセスと結果の評価)		①優先順位の決定方法を説明する ②目標設定の留意点を説明する ③業務記録の方法が分かる ④歯科衛生評価を説明する		
26		歯科衛生過程の演習 (歯科衛生アセスメント・分類・分析、問題の明確化、目標の設定、方法の決定、計画の実施、業務記録、評価)	歯科衛生過程の展開方法を症例を用いて検討する	①必要な情報をSデータ・Oデータを用いて分類する ②ヒューマンニーズ概念モデルを用いて分類を行う ③情報の分析をする ④診断句・原因句を歯科衛生診断で行う	演習	1
27			歯科衛生過程を実践するために、事例から情報を読み取り、歯科衛生計画を立案する	①優先順位の決定を行う ②問題解決に向けた長期目標を設定する ③具体的な短期目標の計画を立てる ④問題の原因を除去する計画を立案する	演習	1
28	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	患者からの情報収集 1.主観的情報の把握 2.医療面接 3.全身の健康状態の把握 4.認知機能の把握 5.生活環境と、生活背景、生活習慣の把握	対象者の情報収集を行うために、情報収集・伝達方法の知識・技術・態度を身につける	①情報収集の目的と得られる情報を説明する ②医療面接の目的を説明する ③医療面接の技法を述べる ④生活に関する情報を読み取り説明する	講義	1
29		口腔内情報収集 1.口腔内の観察 2.検査 3.口臭・舌口腔の機能的問題の把握 1.観察による評価 2.口腔機能の評価		①口腔内観察の目的を述べる ②口腔内の観察項目を述べる ③観察項目の観察のポイントを述べる ④口腔内評価方法を述べる	講義	1
30	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理(実習)	相互実習 歯科衛生アセスメント-情報収集・分析-:口腔内の観察(頬・唇粘膜・口蓋、舌、舌表面、小帯、唾液腺開口部)、オレリーのPCR測定、PMAなど	口腔内の健康像を理解し、疾病像を知るために、各組織の形態を観察する	①口腔内の観察順序を述べる ②観察方法が分かる ③観察部位の状態を観察する	実習	3
31						
32	歯科衛生過程	医療面接・口腔内観察・オレリーのPCR・PMAから問題の抽出、計画、立案をする	歯科衛生介入を実践するために、口腔内検査、医療面接より得た情報から歯科衛生過程を展開・応用する	①開いた質問・閉じた質問を行い情報収集する ②情報の整理を行い分析する ③問題を抽出する ④歯科衛生診断を行う	演習	1
33	ライフステージに対応した歯科衛生介入(青年期)	1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健指導 4.食生活の特徴と栄養 5.食事摂取基準 6.食生活指導	青年期の特徴を理解し、食生活を含めた歯科保健指導の知識を習得する	①青年期の一般的特徴を述べる ②青年期の口腔の特徴を述べる ③青年期の望ましい歯科保健行動を述べる ④青年期の歯科保健の目標を述べる ⑤青年期に必要な栄養素と摂取基準を関連づける	講義	1
34	喫煙者に対する指導	1.歯周病・喫煙の関係 2.禁煙支援の取り組み 3.喫煙状況のアセスメント 4.禁煙ステージのアセスメントと禁煙支援のポイント 5.禁煙治療	禁煙指導を実施するための知識・方法を身につける	①喫煙の健康への影響を述べる ②喫煙状況のアセスメント方法が分かる ③禁煙ステージと特徴を述べる ④禁煙支援のポイントを述べる	講義	1
35	ライフステージに対応した歯科衛生介入(成人期)	1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健指導 4.食生活の特徴と栄養 5.食事摂取基準 6.食生活指導 7.生活習慣病と栄養指導	成人期の特徴を理解し、食生活を含めた歯科保健指導の知識を習得する	①成人期の一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を述べる ②成人期のプロフェショナルケアとセルフケアの目標を述べる ③成人期の必要な栄養素と摂取基準を述べる ④成人期の食生活指導の要点を述べる	講義	1
36	地域歯科保健活動	地域歯科保健活動における健康教育 1.健康教育の概要 2.健康教育の進め方 3.健康教育の方法・評価 地域歯科保健活動のフィールド	地域歯科保健での歯科衛生士の役割を認識し、集団における教育方法の知識を習得する	①地域における健康教育・保健指導の概要を説明する ②健康教育の進め方を説明する ③対象の大きさに合わせた教育方法の分類が分かる ④学校での歯科保健指導の流れを説明する	講義	1

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
37 38	教育媒体	教育媒体作成 — 青年期・成人期 — (作成方法と作成)	歯科保健指導を行うために、視覚に働きかける媒体を作成し意思伝達方法を習得する	①専門用語を用いず作成する ②ポイントをまとめる ③対象者の反応に応じた伝達を考える ④配色、字の大きさを工夫する ⑤適切な内容を記述する	演習	1
39 40	口腔清掃方法実習	相互実習　教育媒体を使用してブラッシング指導・保健指導を行う	口腔内の状況から問題点を分析し、行動変容の為の歯科保健指導を実施する	①口腔内観察の結果を伝える ②収集した情報からの問題点を分かりやすく伝える ③改善のポイントを媒体を用いて説明する ④専門用語を使用せず、患者へわかりやすく指導をおこなう	実習	3

第２学年

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
1	歯科衛生士業務記録	歯科衛生アセスメント — 情報収集・分析 対象者からの情報収集 新入生に対する保健指導の合同実習前に全身状態の把握、医療面接、口腔内の観察(指数、リスク判定、検査) 歯周組織検査 口腔内写真の利用	合同実習に必要な技術、知識、態度を習得する	①実習の流れを把握する ②情報収集からの情報処理を述べる ③口腔内の情報と全身の情報とを関連づける ④リーフレットを作成する	講義	1
2		歯科衛生過程の進め方 — 指示内容の記録の仕方 (1・2年合同実習時の分析) 1)口腔内診査と既存資料の収集と分析の実際(問診表・口腔内写真・スタディーモデル・口腔診査・バイタルサインほか) 2)患者への問題点の説明と口腔ケアの実際 3)ブラッシング指導の実際			演習	2
3 4	ライフステージ・状態別指導法の要点(青年期)	相互実習(新入生との合同実習のリハーサル) 医療面接 アセスメントを取る (口腔内観察・歯周組織検査・スタディモデル採得) ブラッシング指導・ワンポイント指導 第２回実施までの口腔ケアプランの説明・業務記録をする	合同実習に必要な知識・技術を身につける	①医療面接で必要な主観的情報情報を収集する ②客観的情報を的確に観察・検査する ③得た情報から問題点を考える ④適切な口腔清掃方法を説明する ⑤自作のチャートを用いて歯科保健指導を行う	実習	3
5 6	ライフステージ・状態別指導法の要点(青年期)	１・２年生合同実習 医療面接 アセスメントを取る (口腔内観察・歯周組織検査・スタディモデル採得) ブラッシング指導・ワンポイント指導 第２回実施までの口腔ケアプランの説明・業務記録をする	対象者が望ましい歯科保健行動を行う為に、必要な情報収集を行い問題点から行動変容に繋がる助言を行う	①実習の流れを把握する ②情報収集からの情報処理を述べる ③口腔内の情報と全身の情報とを関連づける ④リーフレットを作成する	実習	3
7 8	歯科衛生士業務記録	業務記録 1回目合同実習のアセスメントから情報の分析、問題の明確化、目標の設定、方法の決定、歯科衛生計画立案 以上から２回目保健指導の為のシナリオ作成	情報をもとに分析・問題点の抽出方法を修得する	①実習の記録をまとめる ②問題点を挙げる ③問題点と保健行動とを関係づける ④対象者にあった媒体を作成する ⑤個人情報に配慮する	演習	2
9 10	ライフステージ・状態別指導法の要点(青年期)	相互実習(第2回目実習のリハーサル)歯科衛生計画の実施　医療面接、口腔内観察、歯周組織検査、ブラッシング指導・ワンポイント指導、業務記録を記入する	情報をもとに分析・問題点の抽出方法を修得する	①実習の流れを把握する ②口腔内観察ができる ③歯肉の変化がわかる ④歯石の沈着を評価する ⑤的確なプロービングができる ⑥口腔内状況を説明する	実習	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
11 12	ライフステージ・状態別指導法の要点(青年期)	1・2年生合同実習(2回) 歯科衛生計画の実施 (医療面接・口腔内観察・歯周組織検査・ポイント指導)業務記録を書く	口腔保健管理のために歯科保健行動の変容を促す歯科保健指導を行う知識、技術、態度を修得する	①情報を正確に把握する ②前回と今回のデーターを比較する ③指導内容は対象者の生活行動に配慮する ④器具、器械を的確に操作する	実習	3
13 14	歯科衛生士業務記録	第2回目実習から 歯科衛生評価(プロセスと結果の評価)をする 業務記録を記入する	情報をもとに分析・問題点の抽出方法を修得する	①実習の記録をまとめる ②1回目と2回目の情報を比較する ③問題点と保健行動とを関係づける ④対象者にあった媒体を作成する	演習	2
15 16	ライフステージ・状態別指導法の要点(青年期)	相互実習(歯科技工士科1年との合同実習のリハーサル)　医療面接アセスメントを取る (口腔内観察・歯周組織検査・スタディモデル採得) ブラッシング指導・ワンポイント指導 第2回実施までの口腔ケアプランの説明・業務記録をする	合同実習に必要な技術、知識、態度を習得する	①実習の流れを把握する ②口腔内観察ができる ③歯肉の変化がわかる ④歯石の沈着を評価する ⑤口腔内状況を説明する ⑥個人情報に配慮する	実習	3
17 18	ライフステージ・状態別指導法の要点(青年期)	歯科技工士科1年生との合同実習　医療面接アセスメントを取る (口腔内観察・歯周組織検査・スタディモデル採得) ブラッシング指導・ワンポイント指導 業務記録をする	対象者が歯科保健行動を実践する為に、収集した情報から問題点を考え行動変容を促す指導を実践する	①医療面接で必要な主観的情報をを収集する ②客観的情報を的確に観察・検査する ③収集した情報から対象者の問題点をみつける ④問題点を患者にわかりやすく説明する ⑤患者が主体となり問題が改善できるような動機付けを考える ⑥媒体等を用いて、わかりやすくブラシング指導を行う	実習	3
19 20	歯科衛生士業務記録	業務記録　合同実習のアセスメントから情報の分析、問題の明確化、目標の設定、方法の決定、歯科衛生計画立案　以上から今後のセルフケアの為の指導書作成　業務記録を書く	歯科保健指導実施後の資料管理の技術、知識、態度を習得する	①実習の記録をまとめる ②問題点と保健行動とを関係づける ③スタディモデルを仕上げる ④口腔写真の観察を行う ⑤個人情報に配慮する	実習	3
21	ライフステージ・状態別指導法の要点(妊産婦期・授乳期)	1. 一般的特徴 2. 口腔の特徴 3. 歯科保健の実際 4. 栄養 5. 食事摂取基準 6. 食生活と指導	妊産婦、乳幼児の歯科保健指導についての知識、技能、態度を身につける	①妊産婦期・乳児期の歯科保健について述べる ②妊産期・乳児の望ましい歯科保健行動について述べる ③口腔の特徴および歯科的問題について述べる ④口腔機能の発達と食生活について関連づける	講義	1
22	ライフステージ・状態別指導法の要点(新生児期・乳児期)	1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健の実際 4.栄養 5.離乳 6.食生活と指導				
23 24	歯科保健教育	相互実習(保護者との総合実習のリハーサル)医療面接アセスメントを取る(口腔内観察・歯周組織検査・スタディモデル採得)ブラッシング指導・ワンポイント指導 第2回実施までの口腔ケアプランの説明・業務記録をする	成人期の特性を理解し適切な歯科保健指導を実施するための知識、技術、態度を習得する	①成人期の口腔観察のポイントを述べる ②歯周病のプラークコントロールについての留意点を述べる ③リスク部位の磨き方が分かる ④症例から効果的なブラッシング指導を考える ⑤個人の情報に配慮する	実習	3
25	ライフステージ・状態別指導法の要点(幼児期)	1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健の実際 4.間食 5.食生活の指導	幼児期の歯科保健指導及び口腔清掃指導の知識、技能、態度を身につける	①幼児期の歯科保健について述べる ②幼児期の口腔の特徴および歯科問題について述べる ③間食の質や必要性について述べる ④口腔機能の発達と食生活について関連づける	講義	1
26		1. 離乳食試食実習 (初期、中期、後期、完了期の調理形態と味)	食生活指導における間食の位置づけやその種類について理解する	①齲蝕になりやすい甘味料なりにくい甘味料について述べる。 ②間食の回数とう蝕発生の関連性に付いて述べる ③各離乳期、おやつを試食し、各段階の調理形態と咀嚼能力の関連性について述べる	演習	2

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
27	ライフステージ状態別・指導法の要点(学齢期)	1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健の実際 4.食生活の特徴と栄養 5.食育の重要性 6.食事摂取基準 7.食生活指導	学齢期の歯科保健指導及び口腔清掃指導の知識、技能、態度を身につける	①学齢期の成長、発達について述べる ②第1大臼歯の重要性について述べる ③第1大臼歯の磨き方について述べる ④学年別の口腔の状態とブラッシングの目標を関連づける ⑤学年別の口腔機能の発達と食生活について関連づける	講義	1
28	ライフステージ状態別・指導法の要点(成人期)	(復習) 1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健指導 4.食生活の特徴と栄養 5.食事摂取基準 6.食生活指導 7.生活習慣病予防	成人期の特徴を理解し、問題点に対する歯科保健指導を考察する	①成人期の歯科保健について述べる ②成人期の口腔の特徴および歯科的問題について述べる ③口腔機能の状態から食生活について関連づける ④生活習慣病について理解する	演習	1
29	ライフステージ状態別・指導法 教育媒体	教育媒体作成―妊産婦期用・幼児期用(作成方法と作成)―	対象者に合わせた歯科保健指導を行うために、視覚に働きかける媒体を作成し、意思伝達方法を習得する	①適切な内容を記述する ②対象者に応じたポイントをまとめる ③配色や字の大きさを工夫し作成を行う ④対象者に応じて分かりやすいように工夫する	演習	1
30	ライフステージ状態別・指導法の要点(老年期)	1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健の実際 4.食生活の特徴と栄養 5.低栄養 6.食事摂取基準 7.食生活指導 8.摂食嚥下障害と栄養	老年期の歯科保健指導及び口腔清掃指導の知識、技能、態度を身につける	①老年期の歯科保健について述べる ②老年期の口腔の特徴および歯科的問題について述べる ③口腔機能の状態から食生活について関連づける ④栄養について理解する ⑤義歯の適切な取り扱いができる ⑥義歯の清掃方法を的確に行うことができる	講義	1
31	教育媒体の作成	幼児期用、学齢期用(作成方法と作成)	幼児とのコミュニケーションに必要な媒体を作成する技能、態度を身につける	①指示された条件の名札を作成する ②実習での名札の必要性について述べる ③対象者の年齢に考慮する ④名前や飾りが幼児に分かりやすいように工夫する	演習	2
32		幼児期用、学齢期用(作成方法と作成)			講義	1
33	対象把握法	講師による幼稚園体験実習事前講義・実習	幼稚園での生活や幼児との関わり方を理解する	①幼稚園について述べる ②幼児について述べる ③3年次の実習と関係づける	演習	2
34						
体験	対象把握法	幼稚園体験事前実習	幼稚園での歯磨き指導の臨地実習に際し、事前に園児との接し方を体験することにより臨地実習が円滑に実施できるようにする	①幼児と積極的にコミュニケーションをとる ②幼児と目線を合わせて話しかける ③幼児の発達段階を感じ取る ④幼児の食事の様子を観察する ⑤幼児の歯磨きの補助を行う ⑥幼稚園での活動も同時に学ぶ	演習	2
体験		幼稚園体験事前実習				
体験		幼稚園体験事前実習				
体験		幼稚園体験事前実習				
35	対象把握法	幼稚園体験実習反省会	体験実習で得た幼稚園での生活や幼児のとの関わり方を理解する	①幼児の様子について述べる ②発達段階と関わりについて述べる ③グループワークに積極的に参加する ④3年次の実習と関係づける	演習	2
36		幼児の成長、発達の特徴のまとめグループワーク				
37	教育媒体作成と利用法	歯科健康教育を行なうときに使用する媒体について	対象者に合わせた集団指導を行うための知識、技能、態度を習得する	①対象にあった指導目標を述べる ②対象にあった講話の内容を選択する ③幼児が楽しめるよう工夫する ④幼児の習熟度に配慮する	演習	2
38	教育媒体作成	指導シナリオ作成のためのグループワーク・幼稚園実習				
39		媒体作成Ⅰ	幼児への集団指導を行うために必要な媒体作成の知識、技能、態度を習得する	①幼児が楽しめるよう工夫する ②計画に沿って制作を進める ③グループ活動に積極的に参加する ④材料の取り扱いに注意する ⑤グループで協力して行う	実習	3
40		媒体作成Ⅱ				
41		媒体作成Ⅲ				
42		媒体作成Ⅳ				
43		媒体作成Ⅴ				
44		媒体作成Ⅵ				
45		媒体作成Ⅶ				
46		媒体作成Ⅷ				
47		媒体練習	幼児への集団指導を行うための媒体作成の知識、技能、態度を習得する	①不備がないように仕上げる ②役になりきって練習を行う ③ゆっくりはっきり話す ④ストーリーを臨場感をもって表現する	実習	3
48		媒体発表				

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
49	歯科 保健教育	博多高等学校 看護専攻科合同実習 事前Ⅰ	摂食嚥下障害を理解し、看護師と歯科衛生士の連携を理解する	①摂食嚥下障害について理解する ②口腔ケアの流れ等について述べる ③スポンジブラシをの使用した口腔ケアを行う ④看護師と歯科衛生士の介入方法について述べる	演習	2
50		博多高等学校 看護専攻科合同実習 事前Ⅱ				2
51		博多高等学校 看護専攻科合同実習			実習	2
52						2
53	ライフステージ・ 状態別 指導法の要点 (要介護高齢者)	1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科保健の実際 4.食生活の特徴と栄養 5.食生活指導 6.訪問(在宅・居宅)口腔ケア	要介護高齢者を理解し歯科衛生士が行う歯科保健指導及び口腔清掃指導の知識、技術、態度を習得する	①要介護高齢者の特徴について述べる ②要介護高齢者の巧緻性に配慮した歯科的保健指導うい行う ③口腔機能の状態から食生活と栄養について関連づける ④身体機能低下状態に配慮した食事介助を行う ⑤訪問歯科保健指導歯科について述べる	講義	1
54					演習	2
55	ライフステージ・ 状態別 指導法の要点 (青年期)	相互実習(臨床工学技士科1年との合同実習リハーサル) 医療面接 アセスメントを取る (口腔内観察・歯周組織検査・スタディモデル採得) ブラッシング指導・ ワンポイント指導	合同実習に必要な技術、知識、態度を習得する	①実習の流れを把握する ②口腔内観察ができる ③歯肉の変化がわかる ④歯石の沈着を評価する ⑤的確なプロービングができる ⑥口腔内状況を説明する	実習	3
56					実習	3
57	ライフステージ・ 状態別 指導法の要点 (青年期)	臨床工学技士科1年との合同実習 医療面接 アセスメントを取る (口腔内観察・歯周組織検査・スタディモデル採得) ブラッシング指導・ ワンポイント指導	対象者が望ましい歯科保健行動を行う為に、必要な情報収集を行い問題点から行動変容に繋がる助言を行う	①医療面接で必要な主観的情報情報を収集する ②客観的情報を的確に観察・検査する ③得た情報から問題点を考える ④適切な口腔清掃方法を説明する ⑤自作のチャートを用いて歯科保健指導を行う	実習	3
58					実習	3
59	歯科衛生士 業務記録	業務記録合同実習のアセスメントから情報の分析、問題の明確化、目標の設定、方法の決定、歯科衛生計画立案以上から今後のセルフケアの為の指導書作成、 業務記録を書く	情報をもとに分析・問題点の抽出方法を修得する	①実習の記録をまとめる ②問題点と保健行動とを関係づける ③スタディモデルを仕上げる ④口腔写真の観察を行う ⑤個人情報に配慮する	演習	2
60					演習	2

第３学年

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
1	歯科保健教育	小学校実習 ロールプレイング・ 教育媒体の使用法	小学生への口腔衛生指導に必要な媒体と講話を理解する	①実習内容を把握する ②実習内容と対象者の問題点をを関連づける ③実施内容の流れに沿って担当する役割を決めを行う ④実習での自分の役割を説明する ⑤ディスカッションに参加する	実習	3
2						
3						
4			小学校口腔衛生指導に必要な知識、技能、態度を習得する	①自分の役割を把握し実習を積極的に行う ②小学生に理解出来る媒体を準備する ③実習の流れに沿って媒体を活用する ④班員と協力して準備を行う	実習	3
5						
6		幼稚園実習実施内容説明	幼児への口腔衛生指導について理解する	①実習の目的を述べる ②実習内容を把握する ③実施内容の流れに沿って担当する役割決めを行う	講義	1
7		幼稚園実習準備について	幼稚園臨地実習の流れを理解し、スムーズな実習が行えるよう動きを身につける	①幼稚園実習の目的を述べる ②実際の流れに沿ったロールプレイングを実施する ③役になりきれるよう媒体を熟練する ④園児が集中するゴシゴシデンターマンを行う ⑤幼児の理解度に合わせた説明を行う ⑥班員と協力して準備を行う	演習	2
8		幼稚園実習 ロールプレイングⅠ				
9		幼稚園実習 ロールプレイングⅡ				
10		幼稚園実習 ロールプレイングⅢ				
11		幼稚園実習 ロールプレイングⅣ				
12		視覚特別支援学校 実習事前実習Ⅰ	視覚障害者への歯科保健指導を理解する	①視覚特別支援学校実習の目的を述べる ②実習内容を把握する ③実施内容の流れに沿って担当する役割決めを行う ④担当幼児児童生徒の情報から状態を予測する ⑤情報の取り扱いには留意する ⑥視覚に障害があることを考慮し情景が分かる媒体になるように工夫する ⑦視覚の障害に配慮したプレゼントカードを作成する ⑧幼児児童生徒の発達にあった内容のゲームを考える ⑨幼児児童生徒の理解度にあった衛生講話を準備する ⑩班員と協力して準備を行う	実習	3
13		視覚特別支援学校実習事前オリエンテーション (学校教員による講義)	視覚障害について理解する	①視覚障害について述べる ②視覚障害者の日常生活について述べる ③障害と口腔衛生を関連づける	演習	2
14		特別支援学校 実習事前実習Ⅰ	特別支援学校実習について理解する	①特別支援学校実習の目的について述べる ②実習内容を把握する ③実施内容の流れに沿って担当する役割決めを行う ④障害と口腔衛生を関連づける	実習	3
15		特別支援学校 実習事前実習Ⅱ	対象者の状態について理解し歯磨き指導の技術を習得する	①障害の種類やや肢体不自由について述べる ②情報の取り扱いには留意する ③事前情報から状態を推測し指導方法を考える ④対象者に合った口腔ケアの方法についてディスカッションを行う ⑤対象者の運動機能に配慮した指導プランを計画する ⑥実習の記念になるカードを作成する ⑦班員と協力して準備を行う	実習	3
16		特別支援学校 実習事前実習Ⅲ				
17		歯科衛生教育１ 集団指導法:思春期	思春期の口腔衛生教育に必要な媒体を理解する	①実習内容を把握する ②実習内容と対象者の問題点を関連づける ③実施内容の流れに沿って担当する役割決めを行う ④実習での自分の役割を説明する ⑤ディスカッションに参加する	演習	2
18		博多高等学校 実習事前実習Ⅰ	高校生への口腔衛生教育方法の知識、技術、態度を習得する	①博多高校実習の目的を述べる ②衛生講話の内容を述べる ③必要な資料や媒体の作成を行う ④班員の動線を把握する ⑤ロールプレイングに積極的に参加する ⑥実習に必要な備品を準備する ⑦班員と協力して準備を行う	実習	3
19		博多高等学校 実習事前実習Ⅱ				
20		博多高等学校 実習事前実習Ⅲ				

学科目名	歯科材料

履修学年	第１学年	時 間 数	20時間
履修時期	後 期	単　　位	1

授業目標

歯科材料について興味を持ち、衛生士としてそれらを取り扱う上で必要な所要性質、成分、特徴を十分理解し、その取り扱い法を学ぶ。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『歯科材料』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　小テスト　受講態度

担 当 者　鎮守 信弘

回	授業項目	授業内容
1	I編　歯科材料の基礎知識	1章　歯科材料と歯科衛生士 2章　歯科材料の基礎知識
2	Ⅱ編　歯科材料の種類と特性	1章　歯科衛生に関わる材料 2章　印象材
3		3章　模型用材料
4		4章　合着材･接着剤
5		5章　成形修復材
6		6章　仮封材
7		7章　暫間修復材と仮着用セメント
8		8章　ワックス
9		9章　金属 10章　セラミックス
10		11章　その他の歯科材料(小児歯科･歯科矯正･歯科補綴)

学科目名	臨床検査法

履修学年	第２学年	時 間 数	45時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

臨床検査の目的ならびにその検査項目を理解し、検査結果の正常値を知る。それとともに主な疾患の検査や検査法、検査結果を理解し、臨床に役立てる。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『臨床検査』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　レポート　出席状況　受講態度

担 当 者　青柳　龍一

回	授業項目	授業内容
1	1章 臨床検査と歯科衛生士の役割 2章 生理機能検査	①臨床検査の必要性　②臨床検査の目的　③臨床検査の種類 ④検査結果の評価　⑤検査結果の解釈(読み取り方)と注意点 ⑥臨床検査における注意事項
2		①バイタル検査に関わる基本検査 ②心機能検査 ③肺機能検査 ④閉塞性睡眠時無呼吸の検査
3	3章 血液学的検査 4章 生理機能検査	①血液学的検査の基本 ②赤血球の検査 ③白血球の検査 ④出血･凝固系検査
4		〈実習〉生理検査の実習 ①体温の測定 ②脈拍の測定 ③血圧の測定 ④尿検査 ⑤血中酸素飽和度測定
5	4章 感染症の検査 5章 肝機能の検査 6章 腎機能の検査	①微生物学的検査 ②感染症に関わる血液学的検査 ③主な感染症の検査
		①肝臓の構造と機能 ②肝機能の検査 ③肝機能の検査に関わる疾患
6		①腎臓の構造と機能 ②主な腎臓の検査 ③腎機能の検査に関わる疾患
7	7章 糖尿病の検査 8章 代謝･内分泌疾患の検査	①糖尿病のメカニズム ②糖尿病の検査 ③糖尿病とは
8		①金属の検査 ②ビタミンの検査 ③ホルモンの検査
9	9章 免疫･血清学的検査	①免疫･血清学的検査とは ②アレルギー検査 ③アレルギー検査に関わる疾患 ④自己免疫疾患の検査 ⑤輸血に関する検査 ⑥悪性腫瘍の検査(腫瘍マーカーの検査)
10		〈実習〉①ABO 式血液型　②出血時間(Duke法)の測定　③血糖値測定
11	10章 病理学的検査 11章 画像検査	①病理学的検査 ②細胞診 ③組織診 ④病理解剖
12		①エックス線検査 ②CT検査 ③MRI検査 ④核医学検査 ⑤超音波検査 ⑥骨量検査 ⑦内視鏡検査
13	10章 病理学的検査	〈実習〉病理検査実習
14		
15	12章 口腔領域の臨床検査	①う蝕と歯周病の検査 ②口臭の検査 ③味覚の検査 ④口腔カンジタ症の検査 ⑤口腔機能低下の検査 ⑥摂食嚥下障害の検査
16		
17		〈実習〉 ①グルコースクリアランステスト ②ガムテスト ③サクソンテスト
18		④反復唾液嚥下テスト　⑤改訂水飲みテスト　⑥頸部聴診　⑦咳テスト
19	まとめ	
20	施設見学	
21		
22	施設見学	
23		

学科目名	救急処置実習と心肺蘇生法実習

履修学年	第２学年	時 間 数	35時間
履修時期	後 期	単 位	1

授業目標

歯科口腔に限局せず、全身を観察できる歯科衛生士として歯科医院や病院、施設などでの診療中や応対中の急変患者に対し救急処置や救急蘇生ができるよう、その知識と方法を修得する。

教 科 書　デンタルハイジーン別冊『脱・口だけ歯科衛生士 わかる！活かせる！全身状態へのアプローチ』 医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　出席状況　受講態度

担 当 者　芥川 典子

回	授業項目	授業内容・目標
1	part1 1.全身状態の観察	①歩行･歩行速度･姿勢から考える　②体形から考える　③顔貌･顔色から考える　④全身疾患が疑われる口腔･顔面周囲,その他の変化
2	2.全身状態を知るための医療面接	①医療面接で歯科衛生士が担う役割とは　②医療面接はどこでもできる　③医療面接での確認事項
3	3.患者さんが持つ資料を活用する	①患者資料を活用する　②お薬手帳は必ず確認　③検査結果の記録 ④自己管理記録
4	4.バイタルサインから全身をみる	①歯科診療時のバイタルサインと生体モニタの見方　②血圧
5		③呼吸と脈拍　④体温　⑤意識レベル ⑥五感で察知するバイタルサイン
6		＜実習＞バイタルサイン測定
7	part2　1.歯科診療室で起こりうる全身トラブル	①全身的偶発症の種類　②全身的偶発症に対する歯科衛生士の役割
8	2.基礎疾患がなくても起こりうる全身的偶発症	①血管迷走神経反射(脳貧血様発作)　②過換気症候群 ③局所麻酔薬中毒
9		④アドレナリン過敏症　⑤アナフィラキシー　⑥嘔吐
10	3.基礎疾患の急性憎悪による全身的偶発症	①血圧上昇　②狭心症発作　③低血糖症状
11		④喘息発作　⑤てんかん発作　⑥脳卒中
12	4.緊急対応スキル	①緊急事態に対応できる歯科衛生士になろう　②酸素ボンベの使用法 ③救急薬使用に関する歯科衛生士の役割
13	part3 救急蘇生法	①救急蘇生法とは　②体位　③患者の搬送　④加湿と保温
14		⑤心肺蘇生法(CPRのABC)　⑥酸素療法　⑦静脈路の確保､点滴法 ⑧救急処置に必要な器具機材､薬剤
15		＜実習＞救急蘇生法･AED操作
16		＜実習＞救急蘇生法･AED操作
17	part4 一般的な救急処置	①外傷　②止血法　③熱傷　　＜実習＞外傷の手当て
18	まとめ	まとめ･後期末試験対策講義

学科目名	医療保険事務

履修学年	第３学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単　　位	1

授業目標

診療録を読む上で必要な基礎的な医療保険の知識・用語を学ぶ。
また、パソコンを使用し、レセプト作成能力を身につけ事務処理能力を養う。

教 科 書　授業開始前に資料を渡す

参 考 書

評価方法　定期試験　　出席状況　　受講態度

担 当 者　内田 雄望、浦塚 紀代佳

回	授業項目	授　業　内　容
1	医療事務の基礎知識	社会保障制度　　社会保障制度の種類　　社会保険制度の種類
2	医療保険制度のしくみ	保険診療のしくみ　医療費の請求と支払いの流れ
3		医療保険の種類　　公費負担医療制度　　その他の方法
4		外来一部負担金　　診療録(カルテ)
5	医療事務実務	医療従事者としての心構え　　受付事務
6		保険証へ記入する事項と返却
7	医療保険事務実習	社会保険歯科診療報酬点数早見表の解釈
8		
9		症例１
10		症例２
11		症例３
12		症例４
13		症例５
14	パソコンの利用	歯科医院でのパソコンの利用と患者管理・統計
15		電子カルテ入力

学科目名	技工実習

実務経験のある教員による科目
※詳細はP.79教員一覧に記載

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単 位	1

授業目標

補綴物の作成過程を学ぶことにより、歯科補綴治療を理解すると共に印象採得をはじめとする関連業務の重要性について学ぶ。

教 科 書　プリント

参 考 書

評価方法　実習状況および技工物の総合評価

担 当 者　山田　誠

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)
1	模型製作	実習で使用する模型を 石膏で製作する (1)個人トレー用 (2)中切歯テンポラリークラウン用 (3)小臼歯テンポラリークラウン用	普通石膏と硬質石膏を使用するため、正しい練和方法と気泡を混入させない石膏の流し方を身に付ける	①石膏粉末の量を正確に計量する ②練和水の量を正確に計量する ③ムラなく均一に石膏を練和できる ④気泡が混入しないような石膏を注入する ⑤作業後に机の清掃を行う
2				
3		実習で使用する模型を 石膏で製作する (4)インレー研磨用 (5)口蓋床用		
4				
5	個人トレー製作	上顎無歯顎用の個人トレーを製作する (1)トレー外形線の記入 (2)スペーサー・ストッパーの付与 (3)レジン混和・成形圧接 (4)柄の付与 (5)形態修正・完成	個人トレーの特徴を理解するため、製作過程を通じて、精密な印象採得に関連する知識を学ぶ	①可動粘膜を考えて外形線を描記する ②パラフィンワックスを一定の厚みで圧接する ③トレーレジンを均一な厚みに伸ばす ④レジンの硬化時間内で圧接作業を終える ⑤口唇の位置を考えて柄を付与する ⑥作業後に机の清掃を行う
6				
7	テンポラリークラウン製作	既製冠を用いて上顎中切歯のテンポラリークラウンを製作する (1)既製冠辺縁の長さ調整 (2)スペーサー付与 (3)レジン填入と圧接 (4)撤去 (5)カーバイドバーで形態修正	テンポラリークラウンの特徴を理解するため、製作過程を通じて、レジンの取り扱い方や研磨方法などの技能を身に付ける	①既製冠辺縁の長さをエンジンで調整する ②パラフィンワックスで均一なスペーサーを付与する ③レジンの硬化時間内に圧接作業を終える ④既製冠を用いたテンポラリークラウン製作の利点を説明する ⑤作業後に机の清掃を行う
8				
9		研究用模型を用いて上顎小臼歯のテンポラリークラウンを製作する (1)作業用模型にスペーサーと分離剤を塗布 (2)研究用模型を複印象 (3)印象の調整 (4)カーバイドバーで形態修正		①パラフィンワックスで均一なスペーサーを付与する ②研究用模型の形状を正確に複印象する ③印象に形成した遁路の目的を説明する ④研究用模型を用いたテンポラリークラウン製作の利点を説明する ⑤作業後に机の清掃を行う
10				
11		中切歯・小臼歯テンポラリークラウンの修正と仕上げ (1)カーバイドバーで形態修正 (2)マージンの過不足確認および修正 (3)ペーパーコーンで中研磨 (4)ブラシ・バフで仕上げ研磨		①レジン研磨の順番を説明する ②レジンのツヤだし研磨を実施する ③マージンの修正方法を説明する ④作業後に机の清掃を行う
12				
13	金属インレーの研磨	下顎第二大臼歯インレーの接触点調整と研磨 (1)咬合紙で接触点を印記 (2)シリコーンポイントで接触点を調整 (3)ラウンドバーで咬合面溝を研磨 (4)シリコーンポイントで中研磨 (5)ブラシ・バフで仕上げ研磨	金属研磨を理解するため、金属インレーの研磨を通じて、研磨道具の名称や研磨順序の知識を習得する	①金属の中研磨を実施する ②金属の仕上げ研磨を実施する ③金属研磨の順番を説明する ④作業後に机の清掃を行う
14				
15	口蓋床の製作・装着・試食	口蓋床を装着して、発音や嚥下を行い義歯患者の気持ちを理解する (1)床外形線の記入 (2)ブロックアウトとリリーフ (3)レジン混和と圧接 (4)形態修正と研磨 (5)発音の確認 (6)咀嚼と嚥下の確認 (7)義歯患者の気持ちについてレポート	義歯患者の気持ちを理解するため、口蓋にレジン製の床を装着し、口腔機能（咀嚼・発音・嚥下）に与える影響について学ぶ	①アーラインを考えて外形線を描記する ②レジンの硬化時間内に混和と圧接を実施する ③レジンの形態修正と研磨に用いる器具を説明する ④作業後に机の清掃を行う ⑤床装着で影響がある発音行を調べる ⑥食塊形成時の舌と口蓋の使い方を感じる ⑦義歯患者の気持ちについて述べる
16				

学科目名	歯科診療補助法

実務経験のある教員による科目
※詳細はP.79教員一覧に記載

履修学年	第１学年	第２学年	第３学年
履修時期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
時間数	120 時間	80 時間	40 時間
単位	3	2	1

授業目標

歯科診療補助を臨床で実践するために必要な基本的な知識、技術を習得し、それを応用できるようにする。

教科書　歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』　医歯薬出版

参考書　各臨床科目の教科書

評価方法　実技試験　受講態度　出席状況　定期試験　観察記録
レポート他提出物　口頭試問

担当者　植木 美佐　藤木 愛寿美　藤瀬 未沙　宇野 利惠

第１学年

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
1	歯科診療補助の概念	歯科診療補助の概念 1. 歯科衛生士の業務と歯科診療補助 2. 看護師の行う診療の補助 3. 看護師の診療補助業務と他の医療職種 4. 歯科衛生士の行う診療の補助	歯科診療補助を行うため、歯科診療補助法の概念を知る	①歯科診療補助の業務内容と法的解釈を説明できる ②診療補助を行う医療職種とその業務について説明できる ③保険医療制度で補助行為に関する業務概要について説明できる	講義	1
2	医療安全と感染予防	医療安全と感染予防 1. 医療安全 2. 歯科診療での補助業務 3. 医療法と医療安全対策 4. 救急処置 5. 救命処置のアルゴリズム	歯科診療補助を行うため、医療安全と感染予防について理解する	①医療安全の概念とその対策を説明する ②インシデント・アクシデントの概要と報告の目的を具体的に述べることができる ③偶発事故や緊急時の対応を選択する ④AEDの取り扱について説明する	講義	1
3		感染予防 1. 歯科医療における感染症の概念 2. 歯科医療における感染予防対策 3. 手指消毒 4. 手袋装着・着脱の手順 5. 滅菌と消毒	感染予防を徹底するため、目的に応じた手指消毒を実施する	①歯科医療における感染症の概念とその対策を説明できる ②スタンダードプレコーションを具体的に説明できる ③感染事故時の対応を判断する	講義	1
4		手指消毒実習	感染を予防するため、目的に応じた手指消毒を実施する	①標準予防策を述べる ②感染予防対策について説明する ③感染を予防するための手指消毒を実施する	実習	3
5	医療安全と感染予防	手指消毒実習・寒天培地	感染予防を行うため、手指消毒の重要性を理解し習得する	①手指消毒の目的を述べる ②手指消毒の手順を述べる ③感染を予防するための手指消毒を実施する ④観察内容を正確に記録し、レポートする ⑤グループで協力して実習を行う	演習	3
6		寒天培地観察・グループワーク	感染予防のため、滅菌・消毒について正しく理解し、グループワークで考えを述べる。	①正しい手指消毒を述べる ②グループで協力し、自分の意見を言う ③寒天培地から手洗いの状態を観察する	実習	3
7		各種滅菌器具の取り扱い	感染予防のため、滅菌・消毒について理解する	①滅菌と消毒の定義を説明する ②滅菌、消毒、洗浄の方法について説明する ③消毒剤の特徴と用途について説明する	講義	1

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
8	医療安全と感染予防	各種滅菌器具の取り扱い実習	感染予防の為、滅菌・消毒について理解する	①歯科機材に応じた滅菌、消毒、洗浄を実施できる	実習	3
9		医療廃棄物の取り扱い	感染予防の為、医療廃棄物の取り扱いを正しく理解し、破棄できる	①医療廃棄物の分類と分別を説明できる	講義	1
10	歯科診療における基礎知識	歯科診療室の基礎知識 1. 歯科診療室の環境 2. 歯科診療室の基礎知識 3. 歯科用ユニット 患者対応 1. 歯科診療所における患者対応 2. 特別な配慮が必要な患者対応	歯科診療補助を安全に行うため、歯科診療室環境について理解し、正しく器材を取り扱う	①診察室の環境、設備について説明する ②歯科診療所における患者対応を説明する ③歯科薬品や材料の適切な管理を説明する	講義	1
11		歯科用ユニット操作 歯科用ユニット各部位の名称・使用時の注意点	歯科診療補助を正しく行うため、ユニット操作を理解し正しく操作する	①歯科用ユニットの各部の名称と注意点を述べる ②歯科用ユニットを正確に操作する	講義 実習	3
12		歯科領域に必要な臨床検査 1.臨床検査の補助の目的、役割 2.臨床検査の準備と患者への説明 3.検査の種類	臨床検査の実施、補助を適切に行うため、検査内容を理解し実施する	①臨床検査の目的について説明する ②臨床検査の種類、検査法を述べる	講義	1
13		カット綿、ロールワッテ作製	診療補助で使用するため、カット綿・ロールワッテの用途を理解し作製方法を習得する	①カット綿・ロールワッテの用途を述べる ②綿花を目的に応じてカットする ③ロールワッテを正しく作製する	実習	3
14		綿球作製	診療補助で使用するため、綿球の用途を理解し作製方法を習得する	①綿球の用途を述べる ②綿球を正しく作製する	実習	3
15		共同動作 1. 共同動作の概念 2. 術者・補助者・患者のポジショニング 3. 診療時のライティング 4. フォーハンド・デンティストリー 5. 器具の取り扱い	歯科診療補助を正しく行うため、共同動作を正しく理解し器具の受け渡しを実施する	①共同動作の概念を述べる ②適切なポジションを説明する ③フォーハンドテクニックの基本動作を説明する ④器具の取り扱いや受け渡しを説明する ⑤器具の取り扱いや受け渡しを実施できる	講義	1
16		6. バキュームテクニック 7. スリーウェイシリンジ	診療補助を行うため、正しいポジショニング、バキューム操作の基礎を身につける	①バキュームの基本動作を説明する ②バキュームの禁忌部位、各吸引場所を述べる ③スリーウェイシリンジの正しい操作方法を説明する ④バキュームの基本動作を実施する ⑤スリーウェイシリンジを正しく操作する	講義 実習	3
17		マネキン実習 (ポジション、姿勢、ライティング、バキューム)	診療補助を行うため、正しいポジショニング、バキューム操作の基礎を身につける	①正しいポジショニングを実施する ②ライティングの基本を実施する ③スリーウェイシリンジを正しく操作する ④ユニットを正しく取り扱う	実習	3
18		マネキン実習 (ポジション、姿勢、ライティング、バキューム)	診療補助を行うため、正しいポジショニング、バキューム操作の基礎を身につける	①正しポジショニングを実施する ②ライティングの基礎を実施する ③スリーウェイシリンジを正しく操作する ④ユニットを正しく取り扱う	実習	3
19		相互実習 オリエンテーション 1. 実習の流れの把握 2. 準備、後始末の仕方 3. 器具の滅菌、消毒の方法	歯科診療補助を行うため、清潔・不潔域を正しく理解し相互実習を実施する	①相互実習の流れを述べる ②実習の準備・後始末の方法を述べる ③歯科用器材に応じた滅菌、消毒、洗浄を実施できる	実習	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
20	歯科診療における基礎知識	相互実習 (患者誘導、ポジション、姿勢、ライティング、フォーハンドシステム、バキュームテクニック、スリーウェイシリンジ)	歯科診療補助を行うため、清潔・不潔域を正しく理解し相互実習を実施する	①正しいポジショニングを実施できる ②ライティングの基礎を実施できる ③バキュームを正しく操作できる ④スリーウェイシリンジを正しく操作できる ⑤実習ユニットの準備と片付けができる	実習	3
21		相互実習 (患者誘導、ポジション、姿勢、ライティング、フォーハンドシステム、バキュームテクニック、スリーウェイシリンジ)	歯科診療補助を行うため、清潔・不潔域を正しく理解し相互実習を実施する	①正しいポジショニングを実施できる ②ライティングの基礎を実施できる ③バキュームを正しく操作できる ④スリーウェイシリンジを正しく操作できる ⑤実習ユニットの準備と片付けができる	実習	3
22		歯式	カルテに正しい略号を記載するため、修復物を判断し、略号を理解する	①カルテの略号を述べることができる ②カルテ記載の略号を正しく記載できる ③修復物を正確に判断する	講義	1
23		相互実習 1. 器具の準備・確認 2. 口腔内洗浄 3. 歯式	カルテに正しい略号を記載するため、修復物を正確に判断し略号を理解する	①カルテの略号を正しく記載できる ②カルテ記載の略号を正しく伝えることができる ③スリーウェイシリンジを正しく操作できる ④修復物を正確に判断する	実習	3
24		相互実習 1. 器具の準備・確認 2. 口腔内洗浄 3. 歯式	カルテに正しい略号を記載するため、修復物を正確に判断し略号を理解する	①カルテ記載の略号を正しく記載する ②カルテ記載の略号を正しく伝えることができる ③スリーウェイシリンジを正しく操作できる ④修復物を正確に判断する	実習	3
25	歯科材料と歯科診療の流れ・おもな処置と歯科材料の取り扱い	印象採得 1. 基礎知識	歯科診療補助で印象材を取り扱うため、材料の組成と操作方法を理解する	①印象材の特徴、種類、用途について説明できる ②嘔吐反射時の対応について述べる	講義	1
26		2. アルジネート印象材による概形印象採得 アルジネート印象材の取り扱い(アルジックス)	歯科診療補助で印象材を取り扱うため、印象材の組成と操作方法を理解する	①印象材の特徴、種類、用途について説明できる ②アルジネート印象材の練和と管理を実施できる ③スパチュラを正しく操作できる	実習	3
27		アルジネート印象材の取り扱い (アルジネート印象材)	歯科診療補助で印象材を取り扱うため、印象材の組成と操作方法を理解する	①印象材の特徴、種類、用途について説明できる ②アルジネート印象材の練和と管理を実施できる ③スパチュラを正しく操作できる	実習	3
28		アルジネート印象材の取り扱い (全顎トレー、回転トレー)	アルジネート印象材を使用するため、正しい練和方法と全顎印象採得の流れや方法を習得する	①アルジネート印象材の取り扱いを述べることができる ②スパチュラを正しく操作できる ③全顎トレーの盛り上げができる ④適切な大きさのトレーを選択できる ⑤概形印象採得の一連の流れを説明できる ⑥時間内に印象材を盛ることができる ⑦印象採得を的確に実施する	実習	3
29		マネキン実習 (アルジネート印象採得)	アルジネート印象材を使用するため、正しい練和方法と全顎印象採得の流れや方法を習得する	①アルジネート印象材の取り扱いを述べることができる ②スパチュラを正しく操作できる ③全顎トレーの盛り上げができる ④適切な大きさのトレーを選択できる ⑤概形印象採得の一連の流れを説明できる ⑥時間内に印象材を盛ることができる ⑦印象採得を的確に実施する	実習	3
30		模型の作製 1. 歯科用石膏の基礎知識 2. 歯科用石膏の練和 3. 歯科用石膏の管理方法 模型用材料の取り扱い	模型用材料を取り扱うため、正しい基礎知識と操作方法を理解する	①模型用材料の特徴、種類、用途を説明する ②模型用材料の取り扱いについて述べることができる	講義	1
31		模型用材料の取り扱い	模型用材料を取り扱うため、正しい基礎知識と操作方法を理解する	①模型用材料の特徴、種類、用途を説明する ②石膏に気泡が入らないように流すことができる ③石膏模型の作製を実施する	実習	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
32	歯科材料と歯科診療の流れ・おもな処置と歯科材料の取り扱い	模型用材料の取り扱い	模型用材料を取り扱うため、正しい基礎知識と操作方法を理解する	①模型用材料の特徴、種類、用途を説明する ②石膏に気泡が入らないように流すことができる ③模型の作製を実施できる	実習	3
33		相互実習 アルジネート印象材・模型用材料の取り扱い	アルジネート印象材を使用するため、正しい練和方法と全顎印象採得の流れや方法を習得する	①適切な大きさのトレーを選択できる ②概形印象採得の一連の流れを説明できる ③時間内に印象材を盛ることができる ④粘膜排除を適切に行うことができる ⑤印象採得とその対応を実施できる	実習	3
34		相互実習 アルジネート印象材・模型用材料の取り扱い	アルジネート印象材を使用するため、正しい練和方法と全顎印象採得の流れや方法を習得する	①適切な大きさのトレーを選択できる ②概形印象採得の一連の流れを説明できる ③時間内に印象材を盛ることができる ④粘膜排除を適切に行うことができる ⑤印象採得とその対応を実施できる	実習	3
35		相互実習 アルジネート印象材・模型用材料の取り扱い	寒天印象材を取り扱うため、正しい操作方法と連合印象採得の流れや方法を習得する	①適切な大きさのトレーを選択できる ②概形印象採得の一連の流れを説明できる ③時間内に印象材を盛ることができる ④粘膜排除を適切に行うことができる ⑤印象採得とその対応を実施できる	実習	3
36		3.寒天印象材の補助	寒天印象材を取り扱うため、正しい操作方法と連合印象採得の流れや方法を習得する	①寒天の特徴、種類、用途について説明する ②寒天・アルジネート印象材連合印象採得の一連の流れを理解する	講義	1
37		マネキン実習 (寒天・アルジネート連合印象採得)	寒天印象材を取り扱う為、正しい操作方法と連合印象採得の流れや方法を修得する	①寒天の特徴、種類、用途について説明する ②寒天・アルジネート印象材連合印象採得の一連の流れを理解する ③寒天印象材の取り扱いを体得する	実習	3
38		合着・接着 1.合着・接着材の基礎 2.治療の流れ 3.練和法 4.余剰セメントの除去	診療補助で合着材を使用するため、合着材および接着材の知識と練和技術を習得する	①合着材および接着剤の特徴、種類、用途をを述べることができる ②合着材および接着剤の手順を述べることができる	講義	1
39		合着材・接着剤 取り扱い実習	歯科診療補助で印象材を取り扱うため、材料の組成と操作方法を理解する	①合着材および接着剤の特徴、種類、用途を述べることができる ②合着材および接着剤の手順を述べることができる ③合着材および接着材の取り扱いを体得する	実習	3
40		合着・接着 取り扱い実習	歯科診療補助で印象材を取り扱うため、材料の組成と操作方法を理解する	①合着材および接着剤の特徴、種類、用途を述べることができる ②合着材および接着剤の手順を述べることができる ③合着材および接着材の取り扱いを体得する	実習	3
41		仮封・仮着の補助 1. 基礎知識 2. 仮封材の種類 3. セメント系仮封材の取り扱い 4. 水硬性仮封材の取り扱い 5. 仮封用軟質レジンの取り扱い 6. テンポラリーストッピングの取り扱い 7. サンダラックバーニッシュの取り扱い	診療補助で仮封・仮着材を使用するため、知識と練和技術を習得する	①仮封・仮着材の特徴を述べる ②仮封・仮着材の手順を述べる	講義	1
42		仮封・仮着材の取り扱い 実習	診療補助で仮封材使用するため、知識と練和技術を習得する	①仮封・仮着材の特徴を述べる ②仮封・仮着材の手順を述べる ③仮封・仮着材の取り扱いを体得する	実習	3
43		成形歯冠修復の補助 1. 基礎知識 2. 成形修復材の種類 3. レジンの取り扱い 4. グラスアイオノマーセメントの取り扱い	診療補助で成形歯冠修復材を使用するため、正しい知識と技術を習得する	①成形歯冠修復材の種類と用途を説明できる ②成形歯冠修復材の取り扱いを説明できる	講義	1
44		歯間分離・隔壁法	歯間分離隔壁法の診療補助を行うため、正しい操作方法と知識を習得する	①歯間分離、隔壁法の目的を述べる ②歯間分離器、隔壁法の取り扱い方法を体得する	講義 実習	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
45	歯科材料と歯科診療の流れ・おもな処置と歯科材料の取り扱い	合成ゴム質印象材の補助 その他の印象材の取り扱い	GIO:ゴム質印象材、その他の印象材を取り扱うため、正しい操作方法と連合印象採得の流れや方法を習得する。	①ゴム質印象材、その他の印象材の特徴、種類、用途を述べることができる ②ゴム質印象材、その他の印象材の取り扱いを述べることができる ③印象採得時の手順を述べる	講義	1
46		ゴム質印象材の取り扱い	GIO:ゴム質印象材、その他の印象材を取り扱うため、正しい操作方法と連合印象採得の流れや方法を習得する	①ゴム質印象材、その他の印象材の特徴を述べることができる ②ゴム質印象材、その他の印象材の取り扱いを述べることができる ③印象採得時の手順を述べる ④ゴム質印象材の練和方法を体得する	実習	3
47		ワックス 1. 基礎知識 2. ワックスの種類と用途 ワックスの取り扱い	歯科診療補助でワックスを扱うため、正しい知識と取り扱いを習得する	①ワックスの特徴、種類と用途を説明する ②ワックスの取り扱いを体得する	講義 実習	3
48	歯科診療における基礎知識	歯肉圧排 1. 基礎知識 2. 歯肉排除用薬剤の種類 3. 歯肉排除の手順 4. その他の歯肉圧排用材料	歯肉圧排の歯科診療補助を行うため、正しい操作方法と知識を習得する	①歯肉圧排と手順について説明できる ②歯肉排除用薬剤について述べることができる	講義 実習	3
49		ラバーダム防湿 基礎知識	ラバーダム防湿の意義を理解し、敏速・確実なラバーダム防湿の装着方法を習得する	①ラバーダム防湿の目的を説明できる ②使用器材の名称と用途を説明できる	講義	1
50		ラバーダム防湿実習 (マネキン実習)	ラバーダム防湿の意義を理解し、敏速・確実なラバーダム防湿の装着方法を習得する	①ラバーダム防湿の目的を説明できる ②使用器材の名称と用途を説明できる ③ラバーダム防湿手順を実施できる	実習	3
51		ラバーダム防湿実習 (マネキン実習)	ラバーダム防湿の意義を理解し、敏速・確実なラバーダム防湿の装着方法を習得する	①ラバーダム防湿の目的を説明できる ②使用器材の名称と用途を説明できる ③ラバーダム防湿を実施できる	実習	3
試験		ラバーダム防湿実技試験	ラバーダム防湿の意義を理解し、敏速・確実なラバーダム防湿の装着方法を習得する	①ラバーダム防湿の目的を理解する ②使用器材の名称と用途を述べる ③ラバーダム防湿手順に沿って装着できる	実習	3
52		相互実習 (ラバーダム防湿)	ラバーダム防湿の意義を理解し、敏速・確実なラバーダム防湿の装着方法を習得する	①ラバーダム防湿の目的を説明できる ②使用器材の名称と用途を説明できる ③ラバーダム防湿を実施できる	実習	3
53		相互実習 (ラバーダム防湿)	ラバーダム防湿の意義を理解し、敏速・確実なラバーダム防湿の装着方法を身につける	①ラバーダム防湿の目的を説明できる ②使用器材の名称と用途を説明できる ③ラバーダム防湿手順を実施できる	実習	3
54		相互実習 (ラバーダム防湿)	ラバーダム防湿の意義を理解し、敏速・確実なラバーダム防湿の装着方法を習得する	①ラバーダム防湿の目的を説明できる ②使用器材の名称と用途を説明できる ③ラバーダム防湿を実施できる	実習	3
55	主な全身疾患とその対応	主な全身疾患とその対応 1. 代謝・内分泌疾患 2. 消化器疾患 3. 循環器疾患 4. 血液疾患 5. 呼吸器疾患 6. 腎・泌尿器疾患 7. 免疫・膠原病 8. 感染症 9. 神経系疾患 10. 精神疾患 11. がん 12. 産科・婦人科疾患	歯科診療補助を行うため、全身疾患について理解する	①全身疾患について述べることができる ②口腔と全身疾患との関わりを述べる ③全身疾患を持つ患者に対する偶発事故防止の注意事項を述べる	講義	1
56	歯科診療における基礎知識	口腔内写真撮影について	口腔内写真撮影の歯科診療補助を行うため、撮影方法を理解し習得する	①口腔内写真撮影方法を述べる ②口腔内カメラの取り扱いを体得する	講義 実習	3
57		口腔内写真撮影実習	口腔内写真撮影の歯科診療補助を行うため、撮影方法を理解し習得する	①口腔内写真撮影方法を述べる ②口腔内カメラの取り扱いを体得する	実習	3
58 59		ケア計画立案 (スタディモデル、歯列観察、口腔内写真、SOAP)	患者様の問題点の解決を目指すため、ケア計画の立案ができるようになる	①口腔内写真から情報をよみとることができる ②ケア計画を立てることができる ③SOAP方式を理解する	演習	3
60	診療補助 (歯内治療)	綿栓作製実習	ブローチ綿栓の使用目的を理解し、目的に沿った綿栓を作成する	①ブローチ綿栓の使用目的を述べる ②ブローチ綿栓の形態を説明する ③綿栓を作製する	講義 実習	3

第２学年

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	授業方法	指導者数
1	歯科材料の取り扱い実習	相互実習（新入生との合同実習準備） アルジネート印象材・模型用材料の取り扱い	咬合採得と全顎印象採得～模型作成の流れや方法を習得し、スムーズに行う	①適切な大きさのトレーを選択する ②概形印象採得の一連の流れを把握する ③時間内に印象材をトレーへ盛り付ける ④粘膜排除を適切に行う ⑤正確な印象採得技術を習得する ⑥患者への配慮を考える（嘔吐反射や痛みなど） ⑦石膏模型の作成を実施する ⑧気泡のない模型を作製する ⑨正確な咬合採得を行う	実習	3
2					実習	3
3		歯科用石膏の取り扱い 模型の仕上げ（台付け）	模型用材料の取り扱いを知り、スタディモデルの作成法を修得する	①模型用材料の種類と用途、取り扱い方を説明する ②スタディモデルの作成手順を述べる ③安全に作業を行う	実習	3
4					実習	3
5	補綴治療時の診療補助	検査・診断時の業務 治療時の業務 ・クラウン、ブリッジ治療時に準備するものと治療の流れ・有床義歯治療時に準備するものと治療の流れ 器材の管理	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割と診療の手順や使用器具を理解する	①補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を説明する ②各検査・治療に必要な器具・器材について説明する ③各治療の流れを説明する ④各治療においての補助内容を説明する	講義	1
6					演習	3
7	歯科診療時の共同動作	1.2年生合同実習に備えて（問診・口腔内撮影・歯列観察）	合同実習の流れを把握し、役割に必要な知識・技術を身につける	①実習の流れを把握し、実施する ②実習がスムーズに行えるように工夫する	実習	3
8					実習	3
9		1.2年生合同実習 口腔内保健管理のための予備審査（問診・口腔内観察・口腔内撮影・血圧測定・スタディモデル作製のための印象採得・歯周組織検査）	口腔内保健管理のための予備審査における診療補助法を身に付ける	①実習の流れを把握し、実施する ②実習がスムーズに行えるように工夫する ③患者への配慮を考える ④口腔内に合った器具、材料を選択する	実習	3
10					実習	3
11	学校保健	歯科健診 補助実習事前	学校保健について理解し、歯科健診に必要な知識・技術を身につける	①学校保健の意義を説明できる ②学校歯科健康診断の検査項目を列挙できる ③学校歯科健康診断の記号をあげ、基準を説明できる ④学校保健活動における歯科衛生士の役割を説明できる	講義 演習	1
12	歯科材料の取り扱い実習	歯科用石膏の取り扱い 模型の仕上げ（台付け） （新入生のスタディモデル作製）	模型用材料の取り扱いを知り、スタディモデルの作成法を修得する	①模型用材料の種類と用途、取り扱い方を説明する ②スタディモデルの作成手順を述べる ③安全に作業を行う	実習	3
13					実習	3
14	保存修復時の診療補助	検査診断時の業務 保存修復時の診療補助業務 ・直接法修復の診療補助 ・間接法修復の診療補助	保存修復治療における歯科衛生士の役割と診療の手順や使用器具を理解する	①保存修復治療における歯科衛生士の役割を説明する ②各検査・治療に必要な器具・器材について説明する ③各治療の流れを説明する ④各治療においての補助内容を説明する	講義	1
15					演習	3
16	歯内療法の診療補助	検査診断時の業務 歯髄処置時の診療補助業務	抜髄・根管治療・根管充填の術式と使用器具を理解する	①抜髄・根治の概念を説明する ②抜髄・根治に使用する器材を説明する ③抜髄・根治の術式を説明する	講義	1
17		検査診断時の業務 歯髄処置時の診療補助業務 ・仮封材の取り扱い復習	仮封の目的と仮封材の種類と性質を理解し、取扱い方を習得する	①仮封の目的を述べる ②仮封方法を理解する ③仮封材の種類を述べる ④各仮封材を正しく操作する ⑤窩洞に合った仮封を行う ⑥適正な咬合になるよう填塞する	実習	3
18		検査診断時の業務 歯髄処置時の診療補助業務 ・根管充填材の取り扱い実習	根管充填の目的・術式・使用器具を理解し、根充材の取扱い法を習得する	①根充の目的を説明する ②根充に使用する器材を説明する ③根充の術式を説明する ④根充材の所要性質を説明する ⑤根充材の取扱いを行う	講義	1
19					実習	3
20	歯周外科治療時の診療補助	歯周治療の進め方 リハビリテーション メインテナンス　診療室と器具・器材の管理	歯周治療における歯科衛生士の役割と診療の手順や使用器具を理解する	①歯周治療の流れと歯科衛生士の役割を説明する ②歯周外科治療の適応を説明する ③歯周外科治療に使用する器具の名称及び用途を説明する	講義	1
21		歯周外科治療のトレーセッティング			演習	3
22		歯周外科治療 （歯周パックの取り扱い）	歯周パックの目的を理解し、取扱い法を修得する	①歯周パックの使用目的を述べる ②歯周パックの取り扱いを行う ③歯周パック装着時の注意を述べる ④患者への指導を列挙する	講義	1
23					実習	3

回	授業項目	授業内容	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	授業方法	指導者数
24	口腔外科治療時、歯科麻酔時の診療補助	検査・診断時の歯科衛生士の業務 口腔外科、歯科麻酔処置における業務	口腔外科・歯科麻酔処置における歯科衛生士の役割と診療の手順や使用器具を理解する	①口腔外科・歯科麻酔処置における歯科衛生士の役割を説明する ②口腔外科・歯科麻酔処置の各施術時の業務を説明する ③口腔外科・歯科麻酔処置の各施術時に必要な器材と留意点を説明する	講義	1
25					実習	3
26			口腔外科・歯科麻酔処置における使用器具を理解し、準備法を修得する	①麻酔用注射器の取り扱いを行う ②替刃メスの取り扱いを行う ③持針器の取り扱いを行う ④縫合糸を付ける ⑤抜歯鉗子に触れる	実習	3
27					実習	3
28	エックス線写真撮影の補助	安全と防護 撮影時、撮影後の患者への説明 フィルムセッティング	エックス線写真撮影における歯科衛生士の役割を理解する	①X線写真撮影における歯科衛生士の役割を説明する ②X線の安全と防護について説明する ③適確なフィルムセッティングを行う ④各撮影法の特徴を述べる	講義	1
29		各種装置 口内法撮影 口外法撮影 フィルムの処理			演習	3
③-2	歯科材料の取り扱い実習	総合実習(模擬患者実習) 模型の仕上げ(台付け)	模型用材料の取り扱いを知り、スタディモデルの作成法を修得する	①模型用材料の種類と用途、取り扱い方を説明する ②スタディモデルの作成手順を述べる ③安全に作業を行う	実習	3
④-2					実習	3
30	小児歯科治療時の診療補助	歯科衛生士の役割 各種修復時の手順と使用器材 種歯内療法時の手順と使用器材	小児歯科治療における歯科衛生士の役割と診療の手順や使用器具を理解する	①小児歯科診療における歯科衛生士の役割を説明する ②小児歯科診療の手順を述べる ③小児歯科診療に必要な器材と留意点を説明する ④小児および保護者に対する歯科衛生士の対応について説明する	講義	1
31		各種外科的処置時の手順と使用器材 歯科診療室の器材の管理			演習	3
32	矯正治療時の診療補助	歯科矯正の概要 ・矯正器具の取扱い	矯正歯科治療における歯科衛生士の役割と診療の手順や使用器具を理解する	①矯正歯科診療における歯科衛生士の役割を説明する ②各検査・治療に必要な器具・器材について説明する ③矯正歯科用器具の使用法を述べる	講義	1
33					演習	3
34		歯科矯正の概要 ・ダイレクトボンディング法の手順・矯正器具	矯正歯科治療における歯科衛生士の役割と診療の手順や使用器具を理解する	①ダイレクトボンディング法、結紮の術式を説明する ②ダイレクトボンディング法、結紮に必要な器具・器材を述べる ③矯正歯科用器具の使用法を述べる	講義	1
35	医療安全と感染予防	在宅訪問時の歯科診療補助	在宅訪問時の歯科診療補助を理解する	①在宅訪問歯科診療の流れを述べる ②在宅訪問診療時の留意点を述べる	講義	1
36	周術期における歯科診療の補助	周術期における口腔機能管理	周術期口腔機能管理について理解する	①周術期における口腔機能管理の概要を述べる ②周術期の病態を説明する ③周術期の治療法を説明する ④治療時の対応を述べる	講義	1
37						
38						
39	歯科材料の取り扱い実習	アルジネート印象材の器械式練和器の使用法 石膏自動連和器の使用法	アルジネート印象材の器械式練和器とアルジネート印象材・石膏自動練和器の使用法を習得する	①器械式練和器と自動練和器の操作法を説明する ②器械式練和器を正しく操作する ③自動練和器を正しく操作する	実習	3
40					実習	3

第３学年

回	授業項目	授業内容	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	授業方法	指導者数
1 2	歯科材料の取り扱い	歯科材料の知識 合着材および 接着材の取り扱い	診療補助で歯科材料を取り扱うため、合着材および接着材の知識と練和技術を習得する	①歯科材料の特徴を述べることができる ②歯科材料を手順を述べることができる ③歯科材料の取り扱いを体得する	講義 実習	1 2
3	小児歯科治療時の診療補助	ラバーダム 防湿実習	小児歯科で歯科診療補助を的確に行うため、必要な知識・技術を習得する	①小児歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を説明する ②小児歯科診療に必要な器材と留意点を説明する ③小児および保護者に対する歯科衛生士の対応について説明する ④使用する器具の名称と用途を説明する ⑤ラバーダム防湿の手順を身につける	講義 演習	1 1
4	矯正治療時の診療補助	各種プライヤーの種類と用途	矯正歯科治療の歯科診療補助を適確に行うために、治療に用いる器具・材料の種類と用途を習得する	①矯正歯科治療に用いる器具・材料の用途について説明できる ②各種プライヤーの名称と用途がわかる ③マルチブラケット装着時の補助について説明できる ④機能的顎矯正装置装着時の補助について説明できる ⑤顎外固定装置装着時の補助について説明できる	講義 演習	1 1
5 6	保存修復時の診療補助	成形歯冠修復材の種類・性質・取り扱い	歯科診療補助で取り扱う形成歯冠修復材の種類・性質・取り扱いについて習得する	①形成歯冠修復材の種類、取り扱い方を説明できる ②コンポジットレジン修復の手順を説明できる ③コンポジットレジン修復のトレーセッティングができる	講義 演習	1 1
7 8	補綴治療時の診療補助	印象材について 相互実習 （アルジネート印象採得）	アルジネート印象材を取り扱う為、正しい練和方法と全顎印象採得の流れや方法を習得する	①補綴治療時の歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を説明する ②補綴治療時に必要な器材と留意点を説明する ③時間内に印象材をトレーに盛りつけることができる ④粘膜排除を適切に行う	講義 実習	1 2
9 10	歯周治療時の診療補助	超音波スケーラー・ エアスケーラー キュレットスケーラー 相互実習	歯周疾患の予防及び治療のために必要な知識及び技術を習得する	①予防的歯石除去について目的と基本を述べる ②予防的歯石除去の心構えについて述べる ③全顎に対するスケーリングの基本に準じて実施できる ④情報収集の項目を理解し記録する ⑤患者に配慮し、適切な声掛けができる	実習	3
11 12	歯内修復時の診療補助	1. 歯内修復治療と診療補助の特徴 2. 歯内修復治療の例と診療補助の流れ 1）歯髄処置 2）根管処置 綿栓作製実習	歯内療法の流れをつかみ必要な診療補助を理解する	①歯内療法の目的を説明する ②歯内療法に使用する器具の名称及び用途を説明する ③歯内療法に使用する薬剤の種類と特徴を説明する ④歯内療法時の流れと歯科衛生士の役割を概説する ⑤用途に合った綿栓を作製する	講義 講義	1 1
13	口腔外科治療時の診療補助	外科用器具の種類・用途・取り扱い	口腔外科処置時に歯科診療補助を的確に行うため、必要な知識・技術を習得する	①補綴治療時の歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を説明する ②口腔外科処置時の業務を説明できる ③口腔外科処置に必要な器材と用途を述べることができる	講義 演習	1 1
14	歯科診療補助における画像検査	1. エックス線写真の撮影の補助	エックス線写真撮影の流れをつかみ必要な診療補助を理解する	①口内法エックス線写真撮影の実際と歯科衛生士の役割を概説する ②口内法エックス線写真のフィルムの位置づけ方法を説明する	講義	2
15 16	補綴治療時の診療補助	医療現場で働く歯科衛生士の講話 (インプラント治療時の診療補助)	インプラント処置時に歯科診療補助を的確に行うため、必要な知識・技術を習得する	①インプラントの歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を説明する ②インプラント時に必要な器具と用途を述べることができる	講義 講義	1 1
17 18 19 20	災害歯科保健活動時の補助	医療現場で働く歯科衛生士の講話 （災害支援時のアセスメント）	災害歯科保健活動での歯科衛生士の役割を認識し補助を的確に行うため、必要な知識・技術を習得する	①災害歯科保健活動の流れと歯科衛生士の役割を説明する ②災害時の状況のアセスメント方法が分かる ③災害時の被災者の特徴を述べる ④災害時に必要な器具・用途を述べる	講義 演習	1 1

学科目名	臨地・臨床実習

履修学年	第１学年	第２学年	第３学年	時 間 数	45	180	675
履修時期	後 期	後 期	前･後 期	単　　位	1	4	15

実習目標

歯 科 診 療 所：臨床能力を高め、思いやりと社会性を持った歯科保健医療の担い手として即戦力となる能力を養う。

幼稚園･小学校：幼児･学童期における保健指導の概要を理解し、成長や口腔状況に合わせた歯科保健指導、予防支援ができる能力を養う。

九州大学病院
福岡大学病院・
こども病院・
九州医療センター：臨床実習やセミナーを通して知識･技術を高め患者さんへの配慮や歯科衛生士の役割を理解する。

特別支援学校・
視覚特別支援学校：特別支援を要する幼児･児童、生徒の身体的･精神心理的特徴を理解し、口腔状況に合わせた歯科保健指導、予防支援ができる能力を養う。

教 科 書

参 考 書

評価方法　実習日誌の記入内容、レポート、出席状況、実習態度で評価する。

第１学年

回	実習項目	実　習　内　容
1	歯科診療所	1.基本姿勢（身だしなみ、挨拶、接遇）を実行する 2.臨床における歯科衛生士の役割を理解する

第２学年

回	実習項目	実　習　内　容
1	歯科診療所	1.基本姿勢（身だしなみ、接遇、医療人、社会人）に常に注意し実行する 2.臨床能力は未熟であるが、歯科医学的な知識を理解して実習にあたる 3.指導者の指導、助言のもとに実習を達成できる

第３学年

回	実習項目	実　習　内　容
1	・幼稚園 ・視覚特別支援学校 ・特別支援学校 ・小学校	1.指導媒体を用いて歯磨きの大切さを伝える 2.グループで役割を決め歯磨き指導ができる 3.保護者に対して予防支援ができる
2	病院	1.各診療科での患者様との応対、医療スタッフとの応対、治療順序、材料、薬剤、資料作成、歯科衛生士の役割が理解できる
3	歯科診療所	1.指導者の指示のもと、自らの力で達成できる 2.医学的な知識を十分に理解した上で、的確に実習にあたることができる

学科目名	日本語表現法

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

・学術論文・専門書等を読むための土台となる語彙力を習得する
・社会生活における適切な言葉遣い・表現を学ぶ
・社会生活の中で活用できる手紙の書き方とマナーを学ぶ
・ポスターセッションを通して表現力と協調性を育成する

教 科 書　『読解現代文必携　キーワードの卵』尚文出版

参 考 書　適宜紹介

評価方法　定期試験　提出物　小テスト　課題発表　受講態度

担 当 者　菊池 雄介

回	授業項目	授業内容・目標
1	オリエンテーション	講義全体の概要について説明を行う
2 3 4	文章読解のための語彙の習得	学術論文や専門書を読む上で必要となる語彙について、用法や意味を学習する (「社会生活」「行動・動作」「心情」「思考」「概念」「文章・表現」「様相」「物事の状態」「様態」) 電話の応対やメール、来客者への対応において必要となる表現を、日常会話との違いを考えながら学習する
5 6	出身校に近況報告を行う	葉書・封筒・便箋の使い方について学習する 手紙の書き方について学習する 電話のかけ方について学習し、送付者の所在確認や送付先の調査を行う 近況報告の手紙を作成し、発送する
7 8 9	文章読解のための語彙の習得	学術論文や専門書を読む上で必要となる語彙について、用法や意味を学習する。 (「態度」「社会生活」「行動・動作」「心情」「思考」「概念」「文章・表現」「様相」「物事の状態」) 電話の応対やメール、来客者への対応において必要となる表現を、日常会話との違いを考えながら学習する
10 11 12	「四季」をテーマとした 調べ学習とポスターセッション	季節を表す言葉・年中行事・季節の食材・時候の挨拶など、「日本の四季に関するもの」を テーマにポスターセッションを行う
13 14 15	文章読解のための語彙の習得	学術論文や専門書を読む上で必要となる語彙について、用法や意味を学習する (「物事の状態」「様態」「態度」「社会生活」「行動・動作」「心情」「思考」「概念」「文章・表現」) 電話の応対やメール、来客者への対応において必要となる表現を、日常会話との違いを考えながら学習する

学科目名	障害者歯科学

履修学年	第２学年	時 間 数	15時間
履修時期	前 期	単 位	1

授業目標

障害の概念・種類・歯科的特徴を理解し、障害が歯科診療に及ぼす問題点を把握させ歯科診療補助法を学ぶ。また、障害者への支援を学び、口腔保健管理、歯科保健指導を学ぶ。

教 科 書　歯科衛生学シリーズ『障害者歯科学』医歯薬出版

参 考 書

評価方法　定期試験　　出席状況　　受講態度

担 当 者　岡　桜恵

回	授業項目	授　業　内　容
1	障害者の現況	Ⅰ.障害の概念
2	障害者の歯科診療	Ⅰ.障害者歯科の特質　Ⅱ.ライフサイクルと障害者歯科 Ⅲ.障害者歯科における行動調査　Ⅳ.障害者の生活と歯科的支援 Ⅴ.障害者歯科と専門職の役割
3	障害の種類と歯科的特徴 障害者と薬剤	Ⅰ.障害の種類　Ⅱ.障害者に多い服用薬 Ⅲ.障害者の服用薬と歯科保健の問題 Ⅳ.障害者に薬剤を使用するときの注意
4	障害者歯科における 歯科衛生士の役割	Ⅰ.障害者に対する基本的対応　Ⅱ.業務記録とその管理､活用 Ⅲ.摂食･嚥下障害への対応
5	障害者の歯科診療と 歯科診療補助	Ⅰ.診療の基本的な流れと対応 Ⅱ.行動調整における歯科診療補助の実際 Ⅲ.歯科治療時の工夫と留意点　Ⅳ.障害別の対応 Ⅴ.全身状態への配慮　Ⅵ.感染予防 Ⅶ.業務記録の必要性と書き方
6	障害者の口腔保健管理	Ⅰ.歯科衛生士による障害者の口腔保健管理 Ⅱ.日常生活における障害者の口腔保健
7	障害者の歯科保健指導 の留意点と指導の実際	Ⅰ.障害者に対する歯科保健指導の留意点と指導の実際 Ⅱ.機能面への歯科保健指導の留意点と指導 Ⅲ.歯科保健指導の連携
8	障害者歯科医療･保健施設における歯科衛生士の役割	Ⅰ.かかりつけ歯科医と施設との連携に歯科衛生士がどうかかわるか Ⅱ.地域の保健･医療･福祉施設との連携　Ⅲ.巡回歯科診療

学科目名	高齢者歯科学

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単　　位	２

授業目標

高齢者特有の社会的、心理的、身体的特徴を理解し、高齢者との関わり方を学ぶ。また、高齢者の歯科疾患と全身疾患との関連を理解し、高齢者に対する口腔ケアの方法や介助法を学ぶ。さらに、在宅や施設内の要介護高齢者に対する歯科の関わりを学び、歯科衛生士として必要な知識と役割を習得する。

教 科 書　歯科衛生士講座『高齢者歯科学』永末書店

参 考 書

評価方法　定期試験　　出席状況　受講態度

担 当 者　柿木 保明

回	授業項目	授　業　内　容
1	１章 高齢者をとりまく社会	１.社会環境 ２.社会保障
2	２章　加齢の科学	１.加齢と老化　　２.組織･器官の変化
3		３.身体機能の変化　　４.心理機能の変化
4		５.口腔領域の変化　　６.口腔機能の変化
5	３章 高齢者における 口腔領域の疾患	１.う蝕　　２.歯周疾患
6		３.粘膜疾患　　４.口腔乾燥
7		５.口臭　　６.その他の疾患
8	４章 全身状態の把握と対応	１.医療情報 ２.全身疾患の評価と対応 ３.特別な配慮を必要とする患者への対応
9	５章　高齢者医療の場	１.通医院困難者とは　　２.外来診療
10		３.往診と訪問診療
11	６章　口腔衛生管理	１.高齢者に特徴的な口腔環境　　２.口腔環境の評価法 ３.口腔環境の管理方法
12	７章 摂食･嚥下障害と リハビリテーション	１.摂食嚥下のメカニズム
13		２.摂食･嚥下機能の評価 ３.摂食･嚥下障害への対応
14	８章 介護保険における 歯科衛生士の役割	１.介護予防 ２.介護施設における口腔機能の維持管理
15		３.居宅療養管理指導　　４.栄養管理

学科目名	隣接医学

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	前 期	単 位	２

授業目標

近年、高齢社会に伴い、疾病構造にも変化が見られるようになり、歯科治療を受ける患者の中の有病者も増加傾向にある。このような背景をもとに、病気の概要・症状・治療法等、基礎的医学知識と歯科疾患の関連を学び､歯科衛生士として必要な全身疾患の知識を習得する。

教 科 書　『歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック』 医歯薬出版

参 考 書　『症例から学ぶ全身疾患を有する患者の対処法』日本歯科評論 1996

評価方法　定期試験　受講態度

担 当 者　仲子 勇佑

回	授業項目	授　業　内　容
1	隣接医学とは	症病構造の変化、全身と口腔の関連 全身疾患と歯科衛生士の関わり、他職種との連携
2	糖尿病	糖尿病の分類、症状と合併症、検査値の見方、薬剤 歯科治療時の対応と注意点
3	脳血管障害	概要と分類、病態と症状、診断方法と検査 口腔内症状、嚥下障害・構音障害の口腔ケア
4	高血圧	高血圧とは、検査データーについて、治療法、歯科との関連
5	心疾患	虚血性心疾患、心不全の概要、検査、治療法について 不整脈：概念、臨床上問題となる不整脈、治療法 ペースメーカー使用中の患者に対する注意点、歯科との関連
6	呼吸器疾患	疾患の概要と分類、症状、検査と数値、治療法 誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア、歯科治療時の注意　歯科治療との関連
7	肝　炎	疾患の概要、病態、検査と数値の見方、治療法、感染対策 歯科治療時の対応と注意点
8	消化器疾患	胃腸疾患の概要、臨床症状と治療法、口腔内に出現する症状 歯科治療との関連
9	腎疾患	疾患の種類と症状、治療法、歯科との関係　　歯科治療との関連
10	妊娠と歯科治療	妊娠中の母体の変化、分娩のメカニズム、産褥について 母体の口腔、妊娠中の投薬
11	血液疾患	貧血、出血傾向をきたす疾患、歯科治療時の注意点 ＡＩＤＳ：口腔内症状と疾患の概要
12	精神･神経疾患	心身症、うつ病、抗精神病薬について、歯科治療時の注意点
13	高齢者の医療	高齢者特有の脳神経疾患と歯科治療　　骨粗鬆症、歯科との関連
14	小児の医療	小児疾患の概要、治療法、歯科治療時の対応と注意点
15	まとめ	全身疾患を有する患者の対処法のまとめ

学科目名	摂食機能･口腔機能訓練法

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単 位	1

授業目標

摂食嚥下障害の概要と摂食機能訓練法の基礎を学ぶ。

これによりリハビリテーションの中での歯科衛生士の担う役割を理解させ、実践できる人材を養成する。

教 科 書　『歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション』医歯薬出版

参 考 書　『摂食の基本とリハビリテーションブラッシング』医歯薬出版
『摂食・嚥下障害の理解とケア』Gakken
『看護・介護のための摂食・嚥下リハビリ』日本看護協会出版会

評価方法　定期試験　受講態度

担 当 者　柏崎 晴彦　梅本 丈二

回	授業項目	授　業　内　容
1	リハビリテーション総論 ･リハビリテーション概論 ･摂食嚥下リハビリテーション総論	リハビリテーションは活動の障害に対する医学であるが、その概念を十分に理解する 摂食嚥下障害の原因はさまざまであるが、摂食嚥下リハビリテーションの進め方には共通の概念があることを理解する
2	摂食嚥下リハビリテーションにおける連携	チームアプローチにはどのようなものがあり、実際的なチームの形態について理解する
3	摂食嚥下のメカニズム ･摂食嚥下に関わる構造[解剖]	摂食・嚥下の一連の動作を理解するために口腔・咽頭・喉頭領域の構造、機能を系統的に習得する
4	摂食嚥下のメカニズム ･摂食嚥下に関わる機能[生理]	摂食嚥下運動に関わる各器官の理解を深め、各ステージにおける顎口腔系の役割を理解する
5	摂食嚥下のメカニズム ･摂食嚥下の発達	摂食嚥下リハビリテーションにおいて、機能が獲得される過程を理解する また、口腔領域の形態成長と関連して機能発達の過程を理解する
6	摂食嚥下障害とは ･小児の摂食嚥下障害	口腔機能の発達を理解したうえで､摂食嚥下障害を引き起こす要因を説明する 歯科衛生士として､摂食嚥下障害児に対する口腔衛生と口腔機能に対する指導の重要性を説明する
7	摂食嚥下障害とは ･成人の摂食嚥下障害に関わる因子	成人の摂食嚥下の５期における障害について、それぞれの病態としてのイメージを理解する
8	摂食嚥下障害とは ･高齢者の摂食嚥下機能と障害	加齢変化を生理的な変化と病的な変化について区別し、加齢が摂食嚥下における口腔・咽頭領域の機能に及ぼす影響について理解する
9	摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス	歯科衛生ケアプロセスの概念について理解する
10	摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケア ･口腔ケアの目的 ･歯科衛生士が行う口腔ケア	各ライフステージに応じた口腔ケアの目的について理解する
11	摂食嚥下における間接訓練･直接訓練 ･間接訓練･直接訓練の位置づけ ･摂食嚥下障害に対する間接訓練･直接訓練	訓練開始時に必要な摂食嚥下機能の情報を理解し、その情報収集について理解する また、機能訓練の必要性とその種類について理解する
12	摂食嚥下障害に対する食指導･食支援	機能障害の程度と調理形態の関連を理解する
13	認知症	認知症について/認知症患者に対するアプローチとリスク管理について理解する
14	神経･筋疾患患者における 摂食･嚥下障害へのアプローチ	神経･筋疾患について／神経･筋疾患患者に対するアプローチとリスク管理について理解する
15	口腔癌	口腔癌によって引き起こされる摂食嚥下障害と、その対応について理解する

学科目名	医療コミュニケーション学

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	後 期	単　　位	1

授業目標

歯科医療従事者としてのベースとなる意識や態度を学び、医療従事者としてのコミュニケーションのあり方を考え、医療面接の基本を習得する。

教 科 書　プリント

参 考 書　講義で提示する。

評価方法　定期試験、レポート、実習態度 など

担 当 者　柴戸 麻里

回	授業項目	授　業　内　容
1	コミュニケーション	1. コミュニケーションの意味、コミュニケーションの成立要件、医療現場におけるコミュニケーションの特殊性、コミュニケーションの方法について理解する
2	医師･歯科医師と患者の関係	1. 倫理、医師 ― 患者関係の歴史について理解する。
3	指導･ コンサルテーション･ カウンセリング医療面接	1. 指導･コンサルテーション･カウンセリングの共通点と相違点を理解する 2. 医療面接の意味、意義、３つの役割軸について理解する
4 5	マイクロカウンセリングⅠ	1. 基本的かかわり技法① ･傾聴　　･くりかえし　　･はげまし
6	面接の準備　　傾聴	1. 医療面接の前に注意することを理解する 2. 傾聴の意味･テクニックを理解する
7 8	マイクロカウンセリングⅡ	1. 基本的かかわり技法②③ ･反映技法　･要約技法　･５段階の面接
9	基本的な質問法 医療面接における好ましい態度	1. 質問の方法を理解する 2. 医療面接者と患者の関係や好ましい態度を理解する
10 11	実　習	1. 能動的傾聴のテクニック ※２人一組(話し役:患者役、聞き役:医療面接者)で実習をする
12	医療面接を妨げる因子 医療面接の流れ	1. 医療面接を妨げる因子を理解する 2. 医療面接の流れを理解する
13 14	実　習	1. 共感を示す話し方 2. インフォームド･コンセント
15	共感　　感情とは何か 歯科医療従事者の 自己マネージメント	1. 共感･同情･同感･感情の意味を理解する 2. 感情を紐解く 3. 自己マネージメントの方法を理解する

学科目名	接遇作法

履修学年	第１学年	時 間 数	30時間
履修時期	前 期	単　　位	1

授業目標

社会人としてふさわしい言葉遣い、話し方、必要なマナーを実習し身につけ“心の通う暖かみ”のある歯科衛生士を目指す。歯科衛生士は患者との応対に気を配る必要があることから秘書検定２・３級受験も促す。また、手紙のマナーや面接の方法を学び実習生としてふさわしい行動を身につける。

教 科 書　プリント

参 考 書

評価方法　実技　　授業出席　　受講態度

担 当 者　柴戸 麻里

回	授業項目	授　業　内　容
1	身だしなみ 話し方と人間関係	1.好ましい身だしなみを理解し、身だしなみを整えることができる 2.話し方と人間関係はどう変わるか理解する
2	上手な話し方、聞き方	1.場にふさわしい話し方を理解し、上手に話を聞くことができる 2.相手の真意を正しくつかむ聞き方を理解し、正しく聞くことができる
3	敬語の使い方	1.敬語にはどのような種類があるか理解する 2.敬語の使い方を理解し、敬語を使うことができる
4	接遇の心構えと用語の使い方	1.望ましい接遇の心構えが理解できる 2.基本的な接遇用語を理解して使用できる
5	来訪者へのマナー	1.受付のマナーを理解し行動できる 2.アポイントメントの受け方を理解し、アポイントメントを取ることができる
6	命令･指示の受け方 情報伝達･報告の仕方	1.効果的な指示の受け方を理解し、行動できる 2.間違いのない報告の方法を理解し、行動できる
7	説明の仕方 忠告･注意の受け方	1.効果的な説明の仕方を理解し、行動できる 2.忠告や注意の受け方を理解し、行動できる
8	案内･接待のマナー	1.客を案内する時、席次、茶菓の接待、人を紹介する時のマナーを理解し行動できる
9	立ち居振る舞いの基本	1.きれいな立ち姿、歩き方、ドアの開閉、椅子の座り方を理解し行動できる
10	慶弔時の服装とマナー	1.慶弔時の服装とマナーを理解し行動できる
11	言葉遣い	1.正しい日本語を身につけることができる
12	歯科受付での応対	1.患者応対の基本を理解し行動できる ※ロールプレイングを行う
13	電話応対	1.効果的な電話のかけ方、能率的な電話の受け方を理解し行動できる ※ロールプレイングを行う
14	歯科診療室での応対	1.問診時や治療前後の応対方法を理解し応対や言葉かけができる ※ロールプレイングを行う
15	就職面接の受け方　まとめ	1.訪問のマナー、ソファーに掛ける位置、掛け方、質問の答え方を理解する

学科目名	手　話

履修学年	第２学年	時 間 数	30時間
履修時期	前　期	単　　位	1

授業目標

手話技術を覚えるだけでなく、聴覚障害者の現状を学ぶ中で社会にかかわるさまざまな困難を理解し、積極的に対応する力を高める。また、診療室内での手話技術を覚える。

教 科 書　『手話を学ぼう手話で話そう!』一般財団法人全日本ろうあ連盟

参 考 書

評価方法　定期試験　　受講態度　　実技テスト

担 当 者　谷口 斉子　　宮崎 志津

回	授業項目	授　業　内　容
1	伝えあってみましょう	第１・２講座　伝えあってみましょう 第３講座　名前を紹介しましょう 第４講座　家族を紹介しましょう 第５講座　数を使って話しましょう
2	自己紹介をしましょう	第６講座　趣味について話しましょう 第７講座　仕事について話しましょう 第８講座　住所を紹介しましょう 第９講座　まとめ
3	話してみましょうI	第10講座　一日のことを話しましょう 第11講座　一カ月のことを話しましょう 第12講座　一年のことを話しましょう
4		第13講座　パーティのことを話しましょう 第14講座　旅行のことを話しましょう
5	話してみましょうII	第15講座　病院のことを話しましょう 第16講座　学校のことを話しましょう
6		第17講座　職場のことを話しましょう 第18講座　まとめ (選択学習)
7	話しあってみましょうI	第19講座　表情豊かに、具体的に① 表情・強弱・速度 第20講座　表情豊かに、具体的に② 具体的表現 (様子や形)
8		第21講座　表情豊かに、具体的に③ 具体的表現 (動き) 第22講座　まとめ
9	話しあってみましょうII	第23講座　主語を分かりやすく① 位置・方向 (一対一で) 第24講座　主語を分かりやすく② 位置・方向 (この場にいない第三者を含んで)
10		第25講座　主語を分かりやすく③ 役割の切り替え 第26講座　主語を分かりやすく④ 指さし 第27講座　まとめ
11	話しあってみましょうIII	第28講座　空間をうまく使いましょう① 左右・前後の空間活用 第29講座　空間をうまく使いましょう② 上下空間・指さしと視線の活用 第30講座　両手や指をうまく使いましょう① 同時性 第31講座　両手や指をうまく使いましょう② 指の代理的表現
12		第32講座　繰り返しの表現 第33講座　意味にあった手話 第34講座　まとめ
13	総合練習	第35講座　基本文法のまとめ1 第36講座　基本文法のまとめ2 第37講座　ろう者の手話スピーチを見ましょう
14		第38講座　みんなで話しあってみましょう 第39講座　ろう者と話しあってみましょう 第40講座　まとめ (選択学習)
15	試験	

「実務経験がある教員による授業科目」の担当教員一覧

科目名	講師名	所　属	略　歴
歯型彫刻	松山　大樹	博多メディカル専門学校 歯科技工士科	・2006年4月～2010年12月 歯科技工所にて歯科技工士業務に従事
歯科衛生士概論	大峰　礼子	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・1988年4月～1998年8月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事
歯科予防処置論	植木　美佐	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・1994年4月～1995年3月 矯正歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・1995年5月～2000年7月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2007年4月～2013年3月 歯科メーカー、病院、 保健所にて歯科衛生士業務に従事
	藤木　愛寿美	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2006年4月～2010年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事
	牧原　真代	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2006年4月～2008年3月 大学病院にて歯科衛生士業務に従事 ・2008年6月～2010年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2010年5月～2012年2月 審美専門歯科医院にて 歯科衛生士業務に従事
	加藤　由香	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2006年4月～2012年3月 大学病院にて歯科衛生士業務に従事 ・2012年4月～2013年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事
	中村　幸実	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	2017年4月～2020年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事
	宇野　理恵	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2008年6月～2010年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2014年4月～2016年3月 大学病院にて歯科衛生士業務に従事 ・2021年5月～2022年5月 病院にて歯科衛生士業務に従事
歯科保健指導法	植木　美佐	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・1994年4月～1995年3月 矯正歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・1995年5月～2000年7月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2007年4月～2013年3月 歯科メーカー、病院、 保健所にて歯科衛生士業務に従事
	牧原　真代	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2006年4月～2008年3月 大学病院にて歯科衛生士業務に従事 ・2008年6月～2010年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2010年5月～2012年2月 審美専門歯科医院にて 歯科衛生士業務に従事
	加藤　由香	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2006年4月～2012年3月 大学病院にて歯科衛生士業務に従事 ・2012年4月～2013年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事
	宇野　理恵	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2008年6月～2010年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2014年4月～2016年3月 大学病院にて歯科衛生士業務に従事 ・2021年5月～2022年5月 病院にて歯科衛生士業務に従事
技工実習	山田　　誠	博多メディカル専門学校 歯科技工士科	・1998年4月～2000年9月 歯科技工所にて歯科技工士業務に従事
歯科診療補助法	植木　美佐	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・1994年4月～1995年3月 矯正歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・1995年5月～2000年7月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2007年4月～2013年3月 歯科メーカー、病院、 保健所にて歯科衛生士業務に従事
	藤木 愛寿美	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2006年4月～2010年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事
	藤瀬　未沙	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2020年4月～2022年9月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事
	宇野　理恵	博多メディカル専門学校 歯科衛生士科	・2008年6月～2010年3月 一般歯科医院にて歯科衛生士業務に従事 ・2014年4月～2016年3月 大学病院にて歯科衛生士業務に従事 ・2021年5月～2022年5月 病院にて歯科衛生士業務に従事

学校法人博多学園
博多メディカル専門学校
歯科衛生士科
〒812-0044 福岡市博多区千代４丁目 32 番１号
TEL（092)651−8034　FAX（092)651−8008